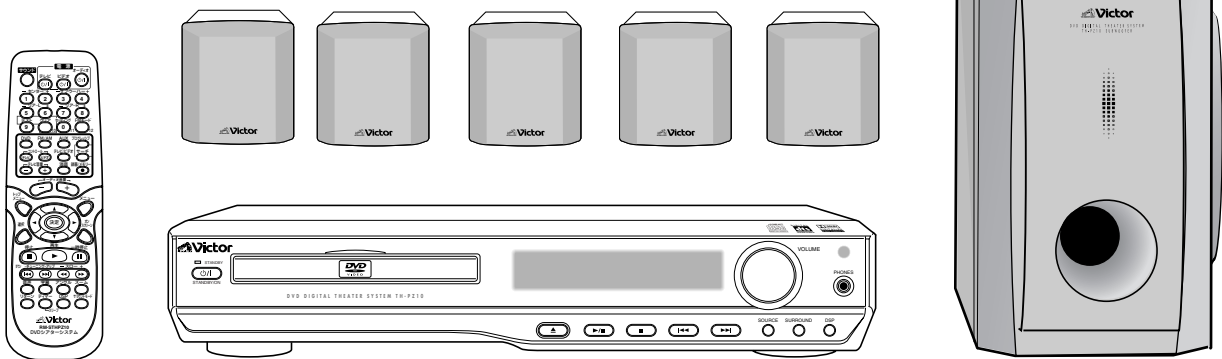
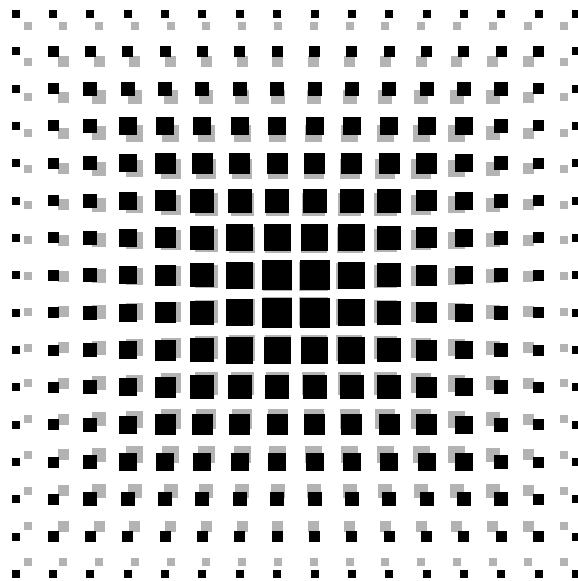
DVD デジタルシアターシステム

型名 **TH-PZ10**

DVD Digital Theater System
TH-PZ10

システム構成：XV-THPZ10
SP-THPZ10

お買い上げいただき、ありがとうございます。

⚠ご使用の前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。**特に 4 ～ 7 ページの「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。**
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

LVT1009-014C

目　次

お使いになる前に　ページ

とりあえず簡単操作　ページ

その他の基本操作　ページ

DVDを使いこなす　ページ

ビデオCDやCDを使いこなす　ページ

MP3やJPEGを使いこなす　ページ

いろいろな設定をする　ページ

知っておいてほしいこと　ページ

はじめてお使いになる前にお読みください。 — お使いになる前に

とりあえず本システムを使ってみたい。そんなときの簡単操作の説明です。 — とりあえず簡単操作

他にどんな便利な機能があるの？ — その他の基本操作

DVDビデオで、もっと他にどんなことができるの？ — DVDを使いこなす

ビデオCDやCDで、もっと他にどんなことができるの？ — ビデオCDやCDを使いこなす

MP3ディスクやJPEGディスクで、もっと他にどんなことができるの？ — MP3やJPEGを使いこなす

本システムをもっと便利に使いたい。そんなときにお読みください。 — いろいろな設定をする

わからないこと、調べたいことがあったときに、お読みください。 — 知っておいてほしいこと

安全上のご注意　ーはじめにお読みくださいー

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

・この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示しています。

⚠注意

・この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「傷害を負ったり物的損害が想定される」内容を示しています。

●絵表示の説明

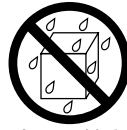
注意をうながす記号

一般的注意

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

水ぬれ禁止

行為を指示する記号

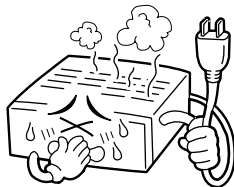
一般的指示

電源プラグを抜く

⚠警告

万一、次のような異常が発生したときはすぐ使用をやめる。

- 煙が出ている、へんなにおいがするとき

電源プラグを抜く

- 内部に水や異物が入ってしまったとき
- 落としたり、破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

電源プラグを抜く

すぐに電源を「切」にし、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
このような異常が発生したまま使用していると、火災や感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

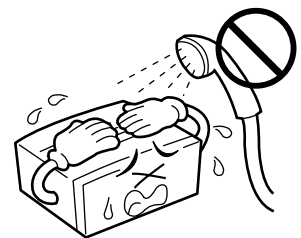
分解や改造をしない。カバーを外さない。

火災や感電の原因となります。
内部の点検や修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

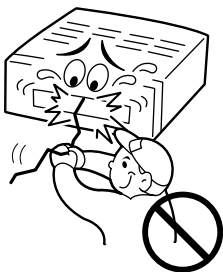
分解禁止

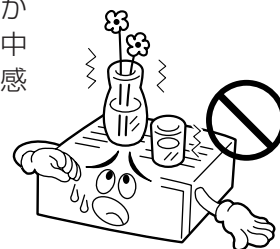
風呂場やシャワー室では使用しない。

本機の中に水が入ると、火災や感電の原因となります。

水場での使用禁止

⚠警告

本機の中に物を入れない。

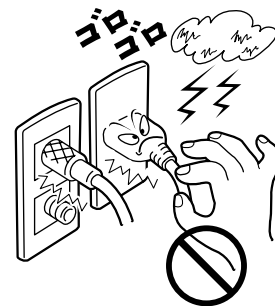
通風孔やディスク挿入部の穴などから、金属物や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。特に小さいお子様のいるご家庭では注意してください。

本機の上に水の入った容器を置かない。

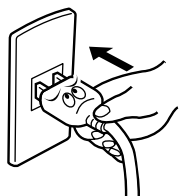
花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など水の入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に水が入った場合は、火災や感電の原因となります。

電源コードを傷つけない。

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。特に、次のことに注意してください。

- 電源コードを加工しない
- 電源コードを無理に曲げない
- 電源コードをねじらない
- 電源コードを引っ張らない
- 電源コードを熱器具に近づけない
- 電源コードの上に家具などの重い物をのせない

雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグに触れない。

感電の原因となります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む。

差し込みが不完全ですと、発熱したりほこりが付着して火災や感電の原因となります。また、たこ足配線も、コードが熱を持ち危険ですのでしないでください。

表示された電源電圧（交流100ボルト）で使用する。

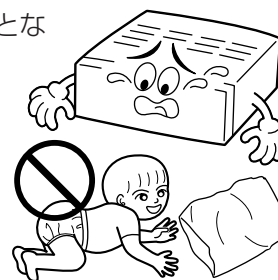
火災の原因となります。
本機を使用できるのは日本国内のみです。

This set is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

電源プラグは定期的に清掃する。

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを乾いた布で取ってください。

本機の包装に使用しているポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かない。

頭からかぶると窒息の原因となります。

⚠注意

電源プラグは、コードの部分を持って抜かない。

電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。電源プラグを持って抜いてください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

通風孔をふさいだり、風通しの悪い場所で使用しない。

本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。特に次のことに注意してください。

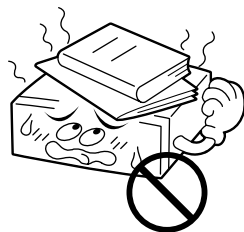
- あお向けや横倒し、逆さまにしない
- 本箱、押し入れなど風通しの悪い狭い所に押し込まない
- テーブルクロスを掛けない
- 本や雑誌などをのせない
- じゅうたんや布団の上に置かない
- 設置するときは、壁などから10cm以上離す
- センターユニット後面の冷却ファンをふさがない

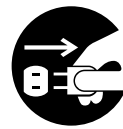
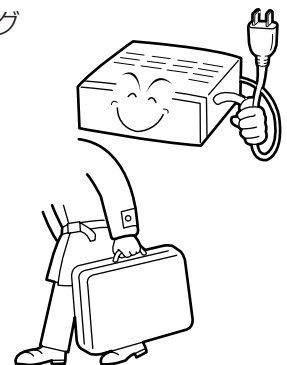
置き場所に注意する。

次のような所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たる所
- 湿気やほこりの多い所
- 熱器具の近くなど高温になる所
- 窓ぎわなど水滴の発生しやすい所

本機の上に重い物を置かない。

テレビなどの重い物や本機からはみ出るような大きな物を置くと、バランスがくずれて倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。安全および節電のため、電源プラグを抜いてください。

⚠注意

お手入れをするときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。電源プラグがコンセントに接続されていると、感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜く

移動するときは、接続コード類や電源プラグを抜く。

接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

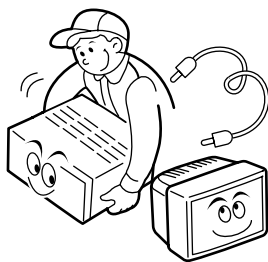
電源プラグを抜く

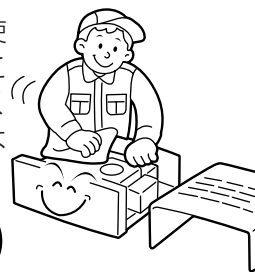
はじめから音量を上げすぎない。

突然大きな音が出て、スピーカーを破損したり、聴力障害の原因となることがあります。
電源を切る前に音量（ボリューム）を下げておき、電源が入ってから徐々に上げてください。

ディスク挿入時に、手を挟まれないようにする。

閉まるときにディスクトレイに手を挟まれ、けがの原因となることがあります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

手を挟まれないよう注意

3年に一度は内部の清掃を販売店に依頼する。

内部にほこりがたまったまま使用すると、火災の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。

電池の取り扱いに注意する。

電池の取り扱いを誤ると、電池が破裂したり、液もれして、火災・けがや周囲を汚す原因となることがあります。次のことに注意してください。

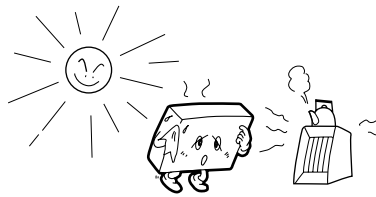
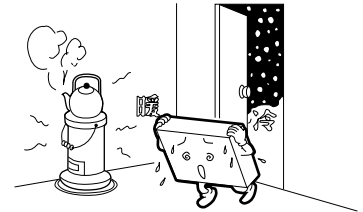
- 指定以外の電池を使用しない
- 電池のプラス（＋）とマイナス（－）を間違えない
- 電池のプラス（＋）とマイナス（－）をショートさせない
- 電池を加熱しない
- 分解しない
- 火や水の中に入れない
- 新しい電池と一度使用した電池を混ぜて使用しない
- 種類の違う電池と混ぜて使用しない
- 乾電池は充電しない
- 長期間使わないときは、電池を取り出しておく

もし、電池が液もれをしてしまったときは、電池ケースについた液をよく拭きとってください。万一、もれた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

ご使用になる前に

本システムの置き場所について

本システムは5℃から35℃までの温度で使用できるように設計されています。これを超える温度の環境で使用すると、誤動作したり、故障の原因となります。また故障などを防止するため次の場所は避けてください。

・ 湿気やほこりの多い所

・ 直射日光が当たる所や暖房器のそば

・ 寒い所から急に暖かい部屋へ移動したのちしばらくの間

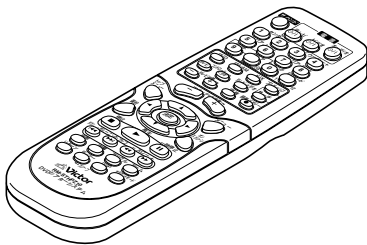
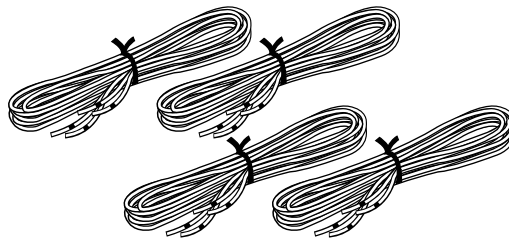
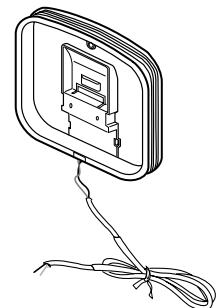
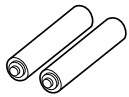
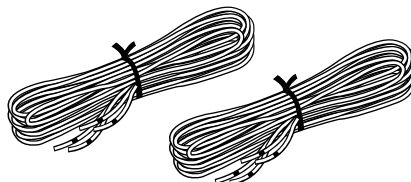
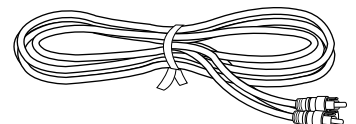
・ 極端に寒い所

・ 磁気を発生する所
・ 振動の激しい所
・ OA機器やけい光灯のすぐそば

露がついたら
次のような場合、本機のレンズに露(水滴)が付いてDVDビデオやCDなどが正しく再生できないことがあります。
- 暖房を始めた直後
- 湯気や湿気の多いところに置いてあるとき
- 冷えた所から急に暖かい部屋に移動したとき

電源を入れたまま、1〜2時間待ってからお使いください。

付属品

お使いになる前に付属品をお確かめください。

リモコン(RM-STHPZ10)(1個)

スピーカーコード(6m×4束)
(フロントスピーカー左右、センタースピーカー、サブウーハー用)

AMループアンテナ(1個)

単3形乾電池(2本)
(リモコン動作確認用)

スピーカーコード(10m×2束)
(リアスピーカー左右用)

ビデオコード 長さ約3m(1本)

FM簡易型アンテナ(1本)

ディスクの予備知識

本システムで再生できるディスク

本システムで再生できるディスクは以下の通りです。

再生できるディスク	記録内容	ディスクの大きさ
DVDビデオ	音声＋映像	12センチ
		8センチ
ビデオCD	音声＋映像	12センチ
		8センチ
スーパービデオCD	音声＋映像	12センチ
		8センチ
オーディオCD	音声	12センチ
		8センチ

DVDビデオフォーマットで記録したDVD-RディスクおよびCDフォーマット、MP3ファイル、JPEGファイルに記録したCD-RディスクやCD-RWディスクは再生できます。(ただし、ディスクの特性や記録状態によっては、再生できないこともあります。)

再生できないディスク

・DVDオーディオ　・DVD-ROM　・DVD-RAM　・DVD-RW　・CD-ROM　・SACD　・フォトCD

これらのディスクを再生することはできません。誤って再生すると、ノイズが発生することがあります。また、発生したノイズによってスピーカーを破損することがあります。
CDグラフィックス、CDエキストラ、CDテキストの場合、音声のみ再生できます。

お知らせ

・本機では、CD規格(CD-DA)に準拠しないディスクについては、動作や音質を保証できません。
・CDを再生する際には、「CDロゴマーク」の有無や、パッケージのご注意をお読みになり、CD規格に準拠するディスクであることをお確かめください。

リージョンコード(再生可能地域番号)について

DVDビデオにはリージョンコードと呼ばれる、再生可能地域番号がついています。この番号がDVDプレーヤーのリージョンコードと合致しないと再生できません。**本システム(センターユニット)のリージョンコードは「2」ですので、DVDビデオの場合ディスク上に「2」という番号が含まれているディスクに限り再生することができます。**

・本システムで再生できるディスクの表示例

- リージョン番号の「2」を含んでいないディスクを再生しようとすると、テレビ画面に「リージョンエラー」と表示され、再生できません。

カラーテレビ方式について

本システムは日本やアメリカなどの標準方式であるNTSC(エヌティーエスシー)に適合しています。

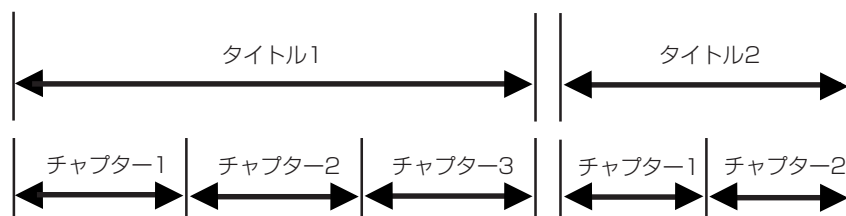
お知らせ

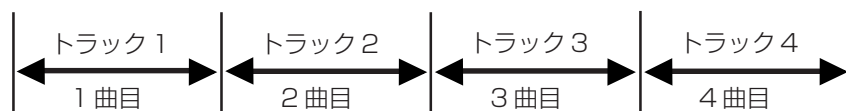
- DVDビデオおよびビデオCDは、ソフト製作者の意図により再生状態が決められていることがあります。
  本センターユニットは、ソフト製作者が意図したディスク内容に従って再生をしますので、操作した通りに機能が働かないことがあります。このようなときは、テレビ画面に「⊘」が表示されますが、表示されないときもありますのでご注意ください。
- DVDビデオの2層ディスクの場合、1層目から2層目に切り換わるとき、音声や映像が乱れることがありますが、これは故障ではありません。

ディスクの予備知識(つづき)

再生できるディスクについて

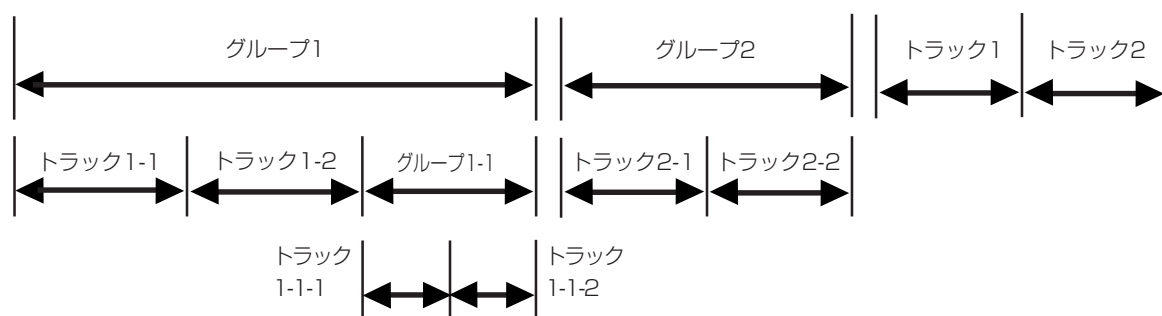
■ DVDビデオ

DVDソフトは、「**タイトル**」と呼ばれるいくつかの大きな項目から構成されています。タイトルはさらに「**チャプター**(章)」という小さな項目に分割されています。
タイトルとチャプターには番号(タイトル番号、チャプター番号)が付けられていますので、見たい項目だけを選んで再生することができます。ただし、ディスクによってはタイトルやチャプターに分割されていないものもあります。

■ ビデオCD/オーディオCD

ビデオCDやオーディオCDは、「**トラック**」という項目で構成されています。トラックには番号(トラック番号)が付けられています。たとえば2曲目は、「トラック2」となります。
ただし、ディスクによってはトラックに分割されていないものもあります。また、「インデックス」と呼ばれる頭出しマークが記録されているディスクもあります。(本システムは「インデックス」には対応していません。)

■ MP3ディスク[*1]／JPEGディスク[*2]

本システムはMP3ファイル・JPEGファイルを記録したCD-R/CD-RWディスクを再生することができます(本取扱説明書ではこれらのディスクを「MP3ディスク」「JPEGディスク」と呼びます)。

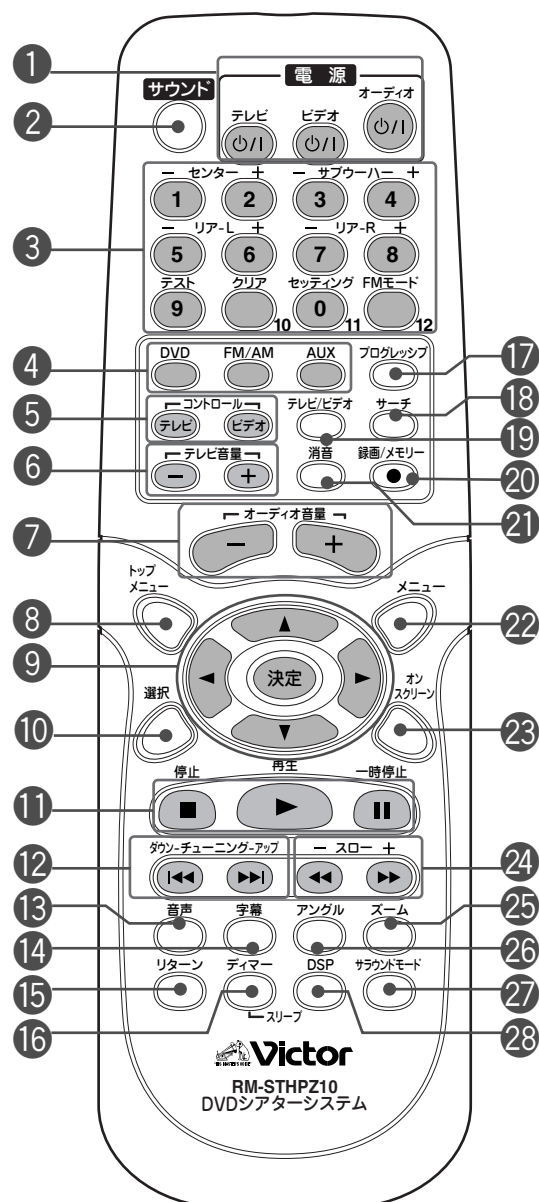
- 本システムで再生できるMP3ディスク・JPEGディスクは、ISO9660フォーマット(レベル1またはレベル2)で記録されたCD-R/CD-RWディスクです。

*1 MP3とは「MPEG-1 Audio Layer-3」と呼ばれ、MPEG規格の1つです。人間の耳によく聞こえない音を記録せず、聞こえる音のみを記録するというデータ圧縮方法により、少ないデータ容量でステレオ音声を記録することができます。
MP3ディスクには、それぞれの曲が各「**トラック(ファイル)**」として記録されています。また一般的に、複数のトラックをカテゴリー別、アーティスト別などの「**グループ(フォルダ)**」にまとめて分類できます。またグループの中に「サブ・グループ」を作って、グループを階層構造にできます。このグループ階層はパソコンにおけるフォルダの階層構造と同です。

*2 JPEGは、「Joint(ジョイント) Photographic(フォトグラフィック) Experts(エキスパート) Group(グループ)」の略称で、インターネットやデジタルカメラなどに広く利用されている静止画情報圧縮フォーマットのひとつです。上記のMP3ディスクと同様な階層構造をもちます。

お知らせ

- MP3ディスクの音声信号は、OPTICAL DIGITAL OUT(光デジタル出力)端子からは出力されません。
- ディスクの記録状態や特性により再生できないことがあります。
- 6つ以上のセッション記録を持つマルチセッション・ディスクでは、すべてのセッションを再生することはできません。
- パケットライト方式で記録されたディスクは、再生できません。
- 本システムはMP3の「ID3v1(ID3バージョン1)タグ」対応です。「ID3v2(ID3バージョン2)タグ」には対応していません。
- ファイナライズされていないディスクは、再生できません。

各部の名前　―□内の数字のページに説明があります。―

リモコン（RM-STHPZ10）

❶ **電源ボタン**
電源を「入」⟷「切」するときに使います。
- ⏻/Iオーディオボタン
- ⏻/Iテレビボタン
- ⏻/Iビデオボタン

❷ **サウンドボタン** [35]

❸ **数字ボタン(0、1～12)**
- 音量調節ボタン [35]
  センター(+/−)ボタン
  サブウーハー(+/−)ボタン
  リア−L(+/−)ボタン
  リア−R(+/−)ボタン
  テストボタン
  セッティングボタン
- クリアボタン
- FMモードボタン [25]

❹ **ソース機器選択ボタン**
- DVDボタン [22]
- FM/AMボタン [24]
- AUXボタン [26]

＊上記のいずれかのボタンを押すと電源が「入」になります。

❺ **コントロールボタン**
- テレビコントロールボタン [27] [71]
- ビデオコントロールボタン [27] [71]

❻ **テレビ音量ボタン(+/−)** [27] [71]

❼ **オーディオ音量(+/−)ボタン** [23] [25] [27]

❽ **トップメニューボタン** [40]

❾ **カーソルボタン(▲/▼/◄/►)と決定ボタン**

❿ **選択ボタン** [28] [62] [68]

⓫ **操作ボタン**
- ■（停止）ボタン
- ►（再生）ボタン
- ❚❚（一時停止）ボタン

＊►（再生）ボタンを押すと電源が「入」になります。

⓬ **⏮ボタンと⏭ボタン**
チューニング(アップ/ダウン)ボタン [24]

⓭ **音声ボタン** [37] [46]

⓮ **字幕ボタン** [38]

⓯ **リターンボタン** [25] [48]

⓰ **ディマーボタン** [29]
スリープボタン [29]

⓱ **プログレッシブボタン** [31]

⓲ **サーチボタン** [39] [47]

⓳ **テレビ/ビデオボタン** [27] [71]

⓴ **●(録画)/メモリーボタン** [27] [61] [71]

㉑ **消音ボタン** [29]

㉒ **メニューボタン** [40]

㉓ **オンスクリーンボタン** [36] [40]～[43] [46] [49]～[51]

㉔ **◄◄ボタンと►►ボタン**
スロー(+/−)ボタン [45] [53]

㉕ **ズームボタン** [45] [53] [59]

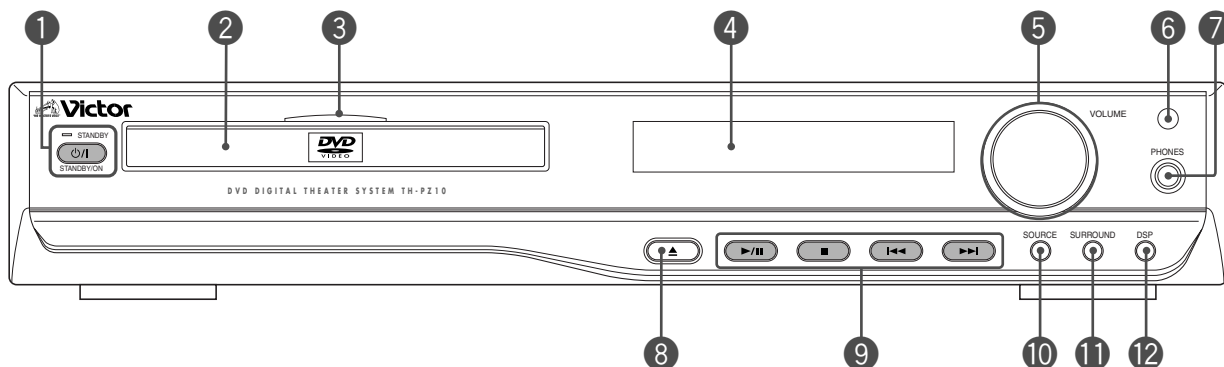
㉖ **アングルボタン** [38]

㉗ **サラウンドモードボタン** [34]

㉘ **DSPボタン** [35]

各部の名前(つづき) —□内の数字のページに説明があります。—

センターユニット(XV-THPZ10)

前面

❶ ⏻/I STANDBY/ONボタンとSTANDBYランプ
電源を「入」⟷「切」するときに押します。
STANDBYランプは、電源「切」で赤く点灯し、電源「入」で消えます。

❷ ディスクトレイ 22

❸ イルミネーションランプ

❹ 表示窓
下記をご覧ください。

❺ VOLUME調節つまみ 23 25 27
音量を調節します。

❻ リモコン受光部
リモコンは必ずこの受光部に向けて操作してください。

❼ PHONES端子 28
ヘッドホンを使うときここにつなぎます。

❽ ▲(開/閉)ボタン 22 23
ディスクトレイを開閉するときに使います。
＊ ▲(開/閉)ボタンを押すと電源が「入」になります。

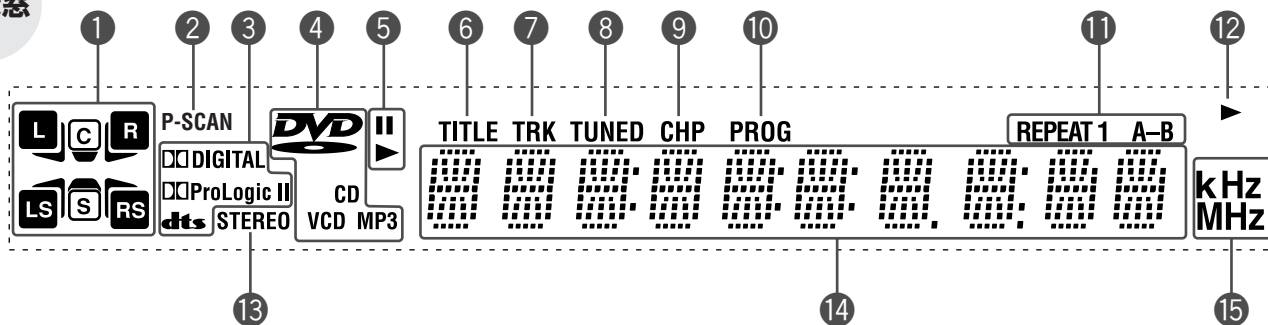
❾ 操作ボタン
- ►/❚❚(再生/一時停止)ボタン
  ディスクを再生、一時停止するときに使います。
- ■(停止)ボタン
  ディスクを停止するときに使います。
- ❙◄◄ボタン/ ►►❙ボタン
  トラックの頭出しをするときに使います。

＊ ►/❚❚(再生/一時停止)ボタンを押すと電源が「入」になります。

❿ SOURCEボタン 22 24 26
ソース(音源)を選ぶときに使います。

⓫ SURROUNDボタン 34
ドルビープロロジックⅡモードを選ぶときに使います。

⓬ DSPボタン 35
DSPモードを選ぶときに使います。

表示窓

❶ 音声チャンネル表示
13ページの「音声チャンネル表示について」をご覧ください。

❷ P-SCAN(プログレッシブスキャンモード)表示 31

❸ デジタル信号方式表示 32 ～ 34
「DDDIGITAL」、「DDPROLOGICⅡ」および「DTS」を表示します。

❹ ディスク表示 9 23
「DVD」、「CD」、「VCD」および「MP3」表示が点灯します。

❺ 再生状態表示
►(再生)、❚❚(一時停止)表示が点灯します。

❻ TITLE(タイトル)表示 10

❼ TRK(トラック)表示 10 54

❽ TUNED(受信)表示 25

❾ CHP(チャプター)表示 10

❿ PROG(プログラム)表示 41 49

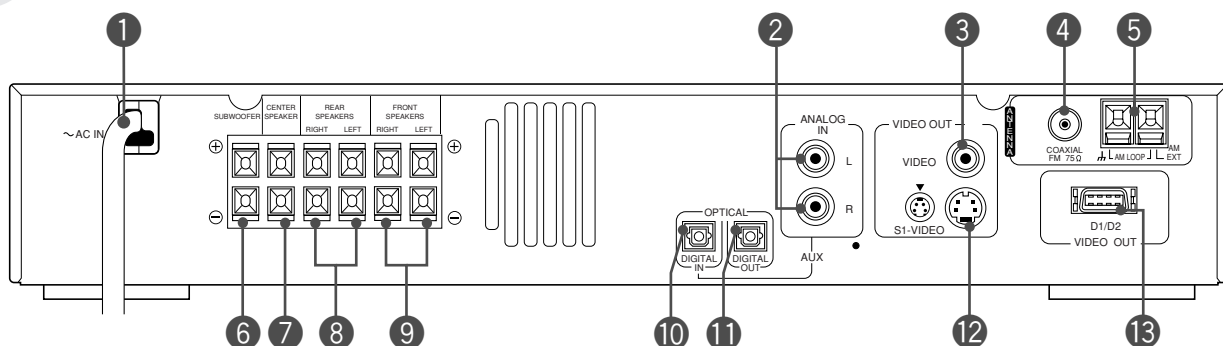
⓫ REPEAT(リピートモード)表示 42 43 51
「REPEAT」、「REPEAT 1」および「A-B」を表示します。

⓬ ►(SLEEP:おやすみタイマー)表示 29

⓭ STEREO(ステレオ)表示 25

⓮ 文字/時間表示部
本システムの動作状態や選んでいるソース、時間情報などを表示します。

⓯ ラジオ周波数単位表示
FMバンド受信中はMHz表示が、AMバンド受信中はkHz表示が点灯します。

後 面

❶ **電源コード** 21
家庭用のコンセント(AC 100V)に接続します。

❷ **ANALOG IN(AUX)音声入力端子** 20
外部機器のアナログ音声出力端子と接続します。

❸ **VIDEO OUT映像出力端子** 17
テレビ(モニター)の映像入力端子と接続します。

❹ **FM アンテナ端子** 14
FM放送のアンテナを接続します。

❺ **AM アンテナ端子** 14
AM放送のループアンテナ(付属)を接続します。

❻ **SUBWOOFER端子** 16
サブウーハーを接続する端子です。

❼ **CENTER SPEAKER端子** 16
センタースピーカーを接続する端子です。

❽ **REAR SPEAKER(LEFT/RIGHT)端子** 16
リアスピーカー(左右)を接続する端子です。

❾ **FRONT SPEAKER(LEFT、RIGHT)端子**
フロントスピーカー(左右)を接続する端子です。16

❿ **OPTICAL DIGITAL IN(AUX)音声入力端子** 20
外部機器の光デジタル音声出力端子と接続します。

⓫ **OPTICAL DIGITAL OUT(AUX)音声出力端子** 20
外部機器の光デジタル音声入力端子と接続します。

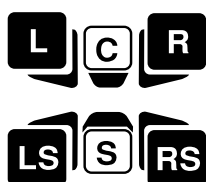
⓬ **VIDEO OUT(S1-VIDEO)映像出力端子** 17
S-VIDEO映像を使うときに接続します。

⓭ **D1/D2 VIDEO OUT端子** 18 19
テレビ(モニター)にD端子やコンポーネント端子が付いているときに接続します。

お知らせ

本体ボタンやリモコンの操作中に、本体表示窓に「INVALID」と表示されたときは、その操作は無効です。
このようなときは、それぞれの操作手順を確かめてから操作してください。

音声チャンネル表示について

再生している音声信号のソースチャンネルを表示します。

再生されている音声信号は、対応するスピーカーから出力されます。

- **L** ：左フロントチャンネル(左フロントスピーカー)
- **R** ：右フロントチャンネル(右フロントスピーカー)
- **C** ：センターチャンネル(センタースピーカー)
- **LS** ：左サラウンドチャンネル(左リアスピーカー)
- **RS** ：右サラウンドチャンネル(右リアスピーカー)
- **S** ：サブウーハーチャンネル(サブウーハー)

接　続 ― 接続が終わるまで電源は入れないでください。―

接続上のご注意

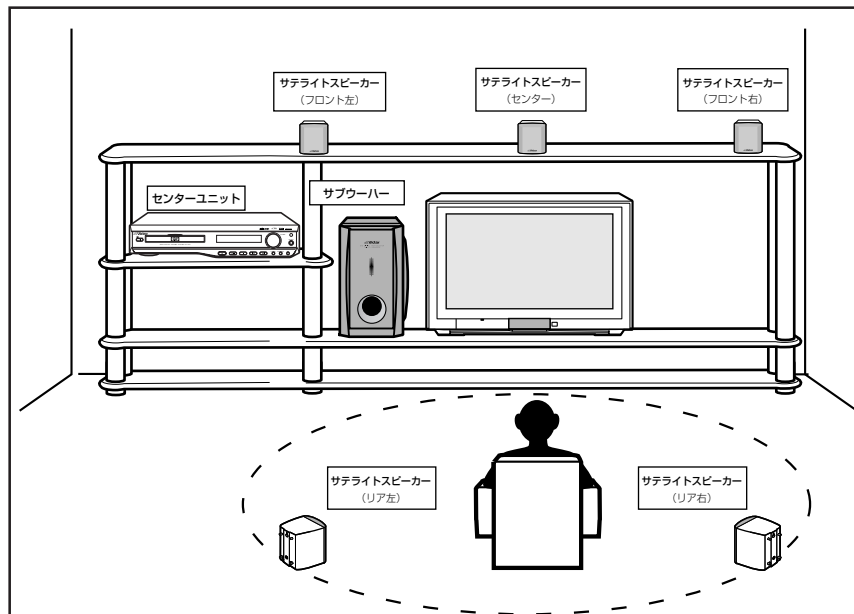
- すべての接続が終わってから、電源コードをコンセントに差し込んでください。
- 各コードまたは各プラグは確実に接続してください。不完全な接続は、雑音や音が出ないなどの原因となります。

アンテナを接続する

ラジオを聞くためにアンテナを接続します。アンテナを接続しないとラジオを聞くことはできません。

スピーカーを接続する

スピーカーの配置例

本システムのサラウンド音声を効果的にお楽しみいただくための配置例です。

フロントスピーカーの設置用として、TVサイドスタンド(LS-SP101VJ:別売り)がお使いになれます。またサテライトスピーカーには、サテライトスピーカースタンドシステム(LS-SP101FJ:別売り)がお使いになれます。

お知らせ

- すべてのスピーカーは、聞く位置から等距離のところに設置してください。**聞く位置からのフロントスピーカーまでの距離と、センタースピーカーやリアスピーカーまでの距離を同じにできないときは、ディレイタイム(遅延時間)の設定をしてください。(➡ 67ページ)**

設置するときのご注意:

- サテライトスピーカーを本棚の上などに置いて使用するときは、平らな場所に置いてください。
- 各スピーカーは防磁型です。万一テレビ画面に色ムラが生じるときは、スピーカーとテレビを10cm以上離してください。
- センターユニットの後面には冷却ファンがあります。設置のときにふさがないようにしてください。
- センターユニットを棚などの狭いスペースに設置するときは、スピーカーコードどうしがショートしないよう、芯線部分をしっかり差し込み、はみ出さないように接続してください。

設置するときのポイント

センタースピーカー :主に映画の台詞などを再生するので、テレビ画面の近くに設置します。
フロントスピーカー :前方左右の音を再生します。
リアスピーカー :後方左右の音を再生します。耳の位置に対して横から少し後方に設置します。
サブウーハー :重低音を再生します。

- センタースピーカー、フロントスピーカー、リアスピーカーからの音には指向性*があります。スピーカーを向ける方向によって、サラウンド感が変わります。
- サブウーハーからの音は、他のスピーカーからの音に比べて指向性が弱いので、無造作に配置しがちですが、左右のフロントスピーカーの間に設置してください。

*****指向性とは…**
スピーカーは、一般にその正面が最も音がよく聞こえ、正面からずれていくと聞こえにくくなる性質があります。この正面からの移動角度に対する出力音圧の変化を示したものが指向性です。

サテライトスピーカーを壁に掛けて使うとき

ブラケット金具(市販品)などを使って、サテライトスピーカーを柱などに取り付けて使うことができます。

⚠ 重要注意事項:

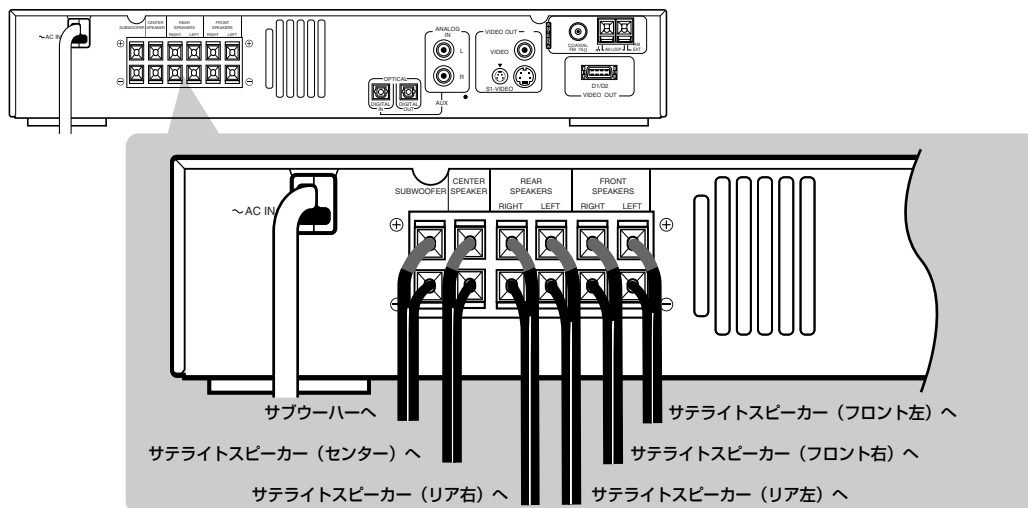
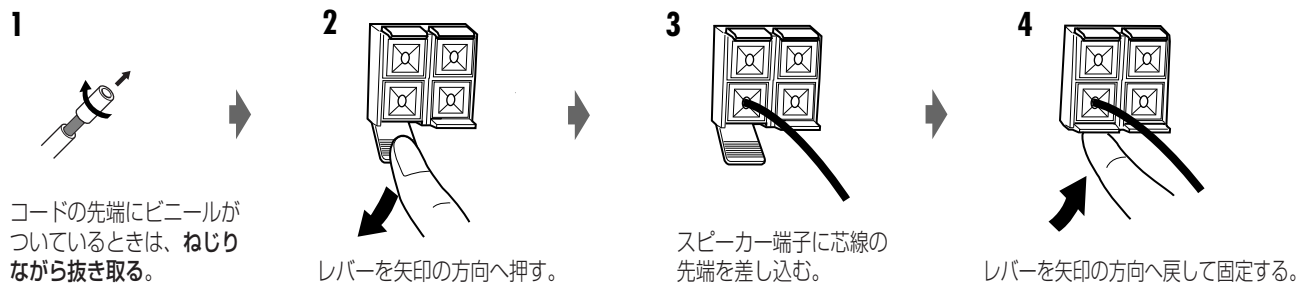
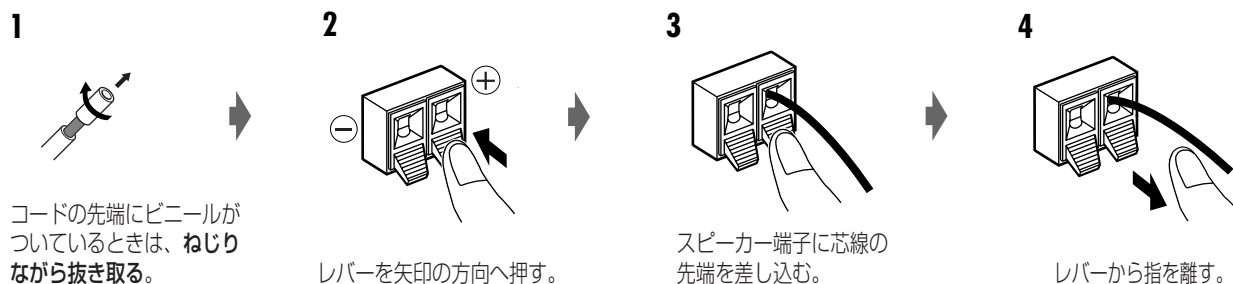
ブラケット金具(市販品)を柱などに固定する木ネジ(長さ20mm～25mm、直径3mm)は、十分に強度の得られるものをお客様でご用意ください。
強度や取り付けが不十分の場合、落下により人に被害を及ぼしたり、使用している機器などを損傷する恐れがあります。ベニヤ板でできている壁やボード板などで強度が弱い場合は、必ず取り付け部を補強してください。
壁の強度など、お客様で判断できないときは、必ずお買い上げの販売店または最寄りのサービス窓口にご相談ください。

⚠ 取り付け位置に関する注意:

サテライトスピーカーを壁に取り付けるときは、取り付ける位置に十分考慮してください。
日常生活で邪魔になる位置や体、頭のぶつかりやすい位置などに取り付けると、けがや器物の破損を招く原因となります。

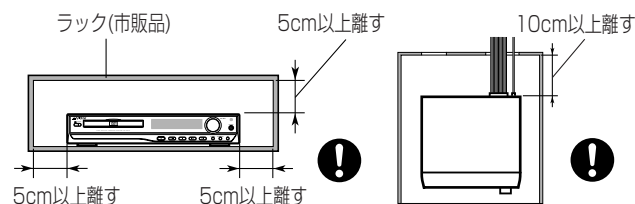
スピーカーを接続する

サテライトスピーカーとサブウーハーをセンターユニットのスピーカー(SPEAKERS)端子に接続します。
スピーカーコードには、長さ約6m(4本)と長さ約10m(2本:リアスピーカー用)のものがあります。
各スピーカーコードには、各色のテープが巻いてあり、テープと同色のスピーカー(SPEAKERS)端子につなぎます。
スピーカーの左右と極性(＋と－)を間違えないように正しく接続してください。

- スピーカーコードは、各色のテープが巻いてある線を＋端子に、もう一方の線を－端子に接続します。

お知らせ

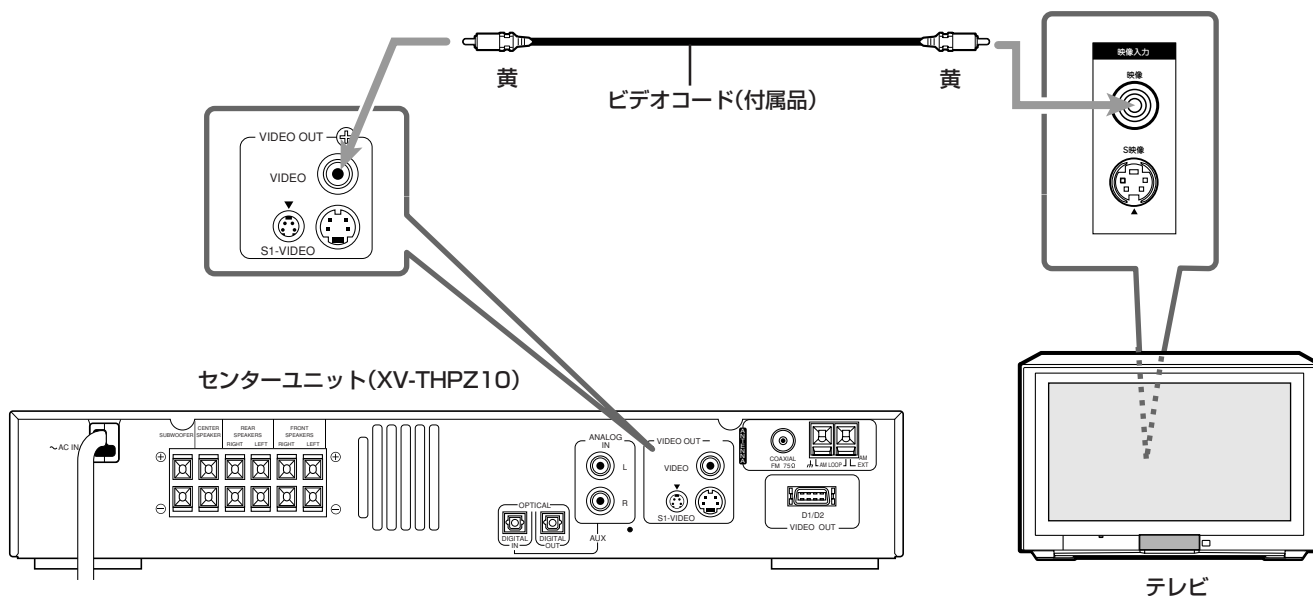
- スピーカーコードの極性(＋、－)を間違えると、ステレオ感や音質がそこなわれますのでご注意ください。
- 接続したあと、コードを軽く引いて正しく接続されているか確認してください。
- 市販のスピーカーをお使いになると、音質などがそこなわれる原因になることがあります。本システムの真価を発揮するために、付属のスピーカーをお使いになることをお勧めします。

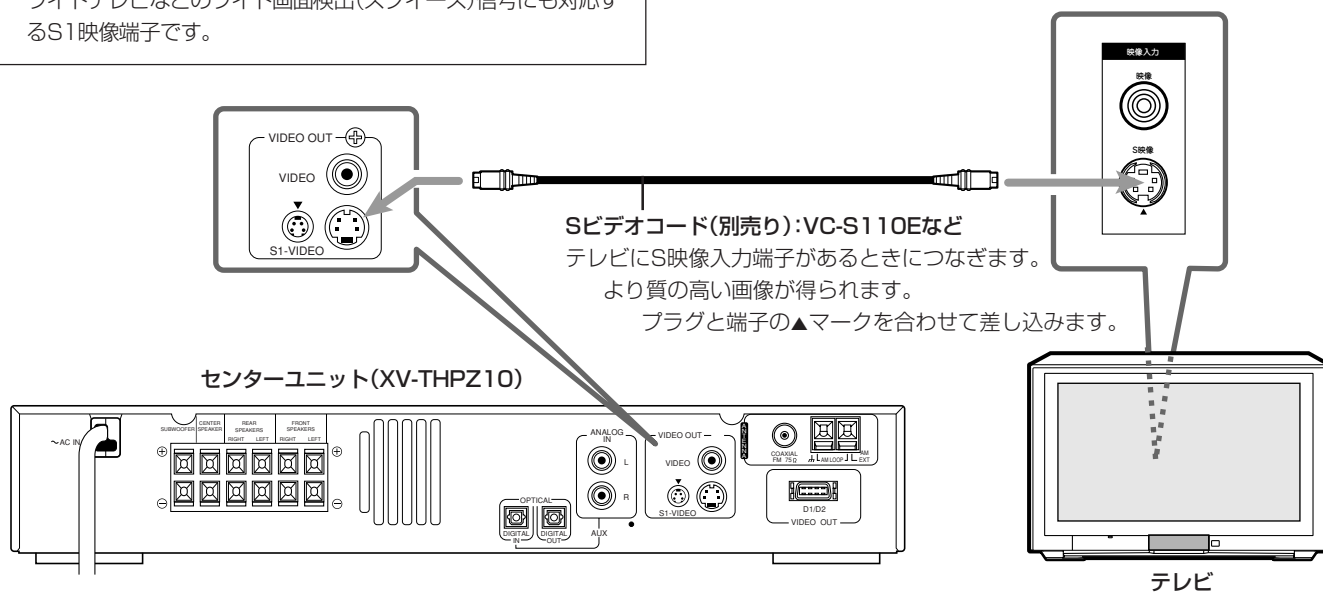
ご注意

- センターユニットは、使用状態により、本体の温度が上昇することがありますので、下図のような放熱空間を確保してください。
- ラックの後面のコード引出し口はできるだけ大きくして、通気を良くしてください。

テレビを接続する

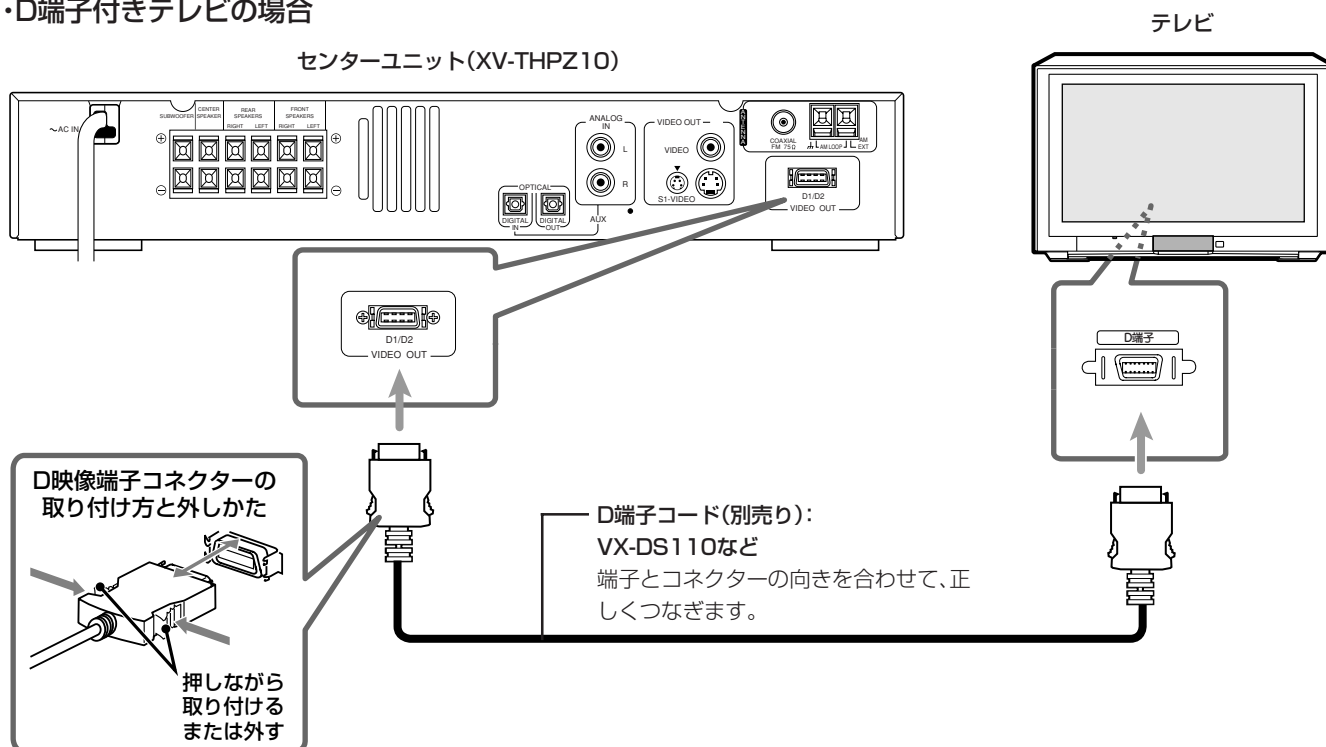
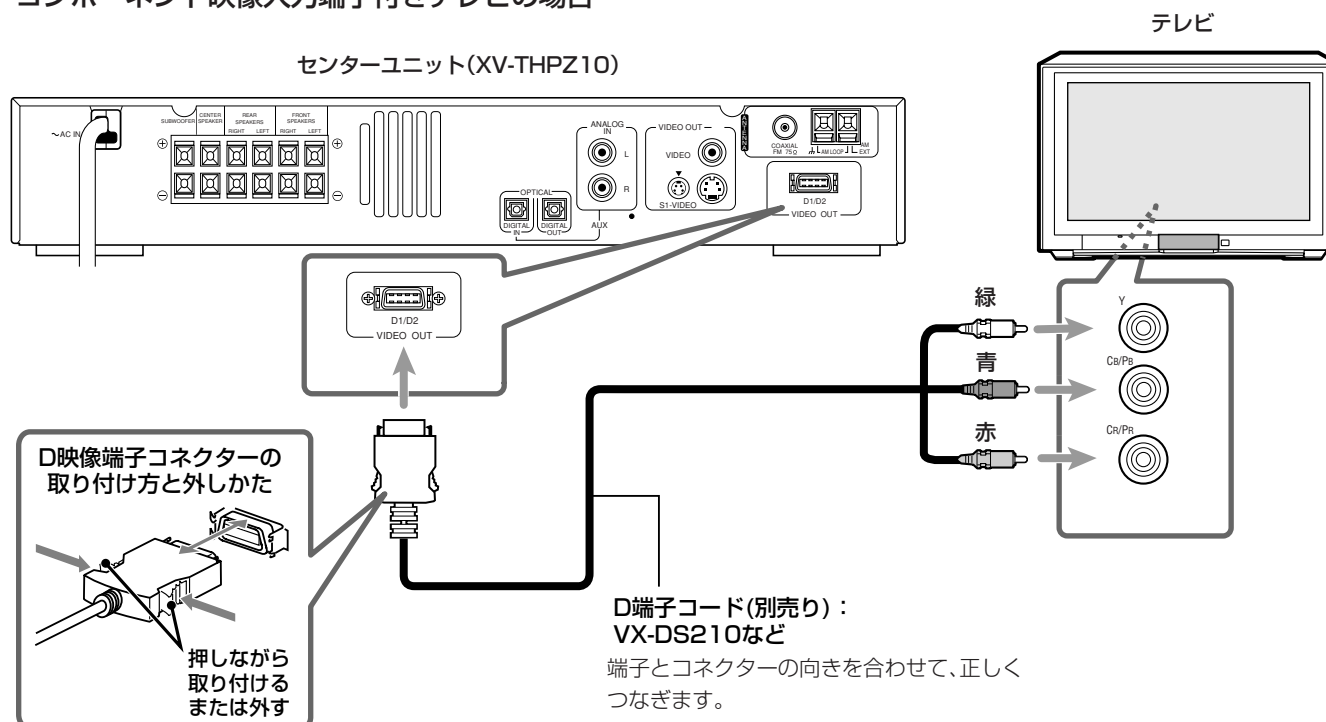
本システムからの映像を見るためにテレビを接続します。テレビの代わりにモニターやプロジェクターにも接続できます。
詳しくはテレビ(モニター)の取扱説明書をご覧ください。

- センターユニットの映像出力は、直接テレビ(またはモニター)とつないでください。ビデオデッキを経由してつなぐと、コピー防止システムの働きにより再生中に画像が乱れることがあります。
- プログレッシブスキャン対応のテレビは、本機のD1/D2 VIDEO(ビデオ) OUT(アウト)端子とつないでください。より高画質の映像をお楽しみいただけます。

映像入力端子付のテレビとの接続

S映像入力端子付のテレビとの接続

S映像信号とは・・・
従来の映像信号を輝度信号(Y)と色信号(C)に分離した信号です。鮮明で色のにじみが少ない映像が楽しめます。
・本システムのS映像端子は、ビデオカメラなどのワイドモードや、ワイドテレビなどのワイド画面検出(スクイーズ)信号にも対応するS1映像端子です。

D端子またはコンポーネント映像入力端子付きのテレビとの接続

D1/D2 VIDEO OUT映像端子を使ってセンターユニットとテレビを接続すると、より高画質の映像をお楽しみいただくことができます。

・D端子付きテレビの場合

・コンポーネント映像入力端子付きテレビの場合

お知らせ

- ハイビジョンの端子とは接続しないでください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
  また、お使いのテレビによっては画面サイズの自動切り換え などの一部の機能が正しく働かないことがあります。

D端子付きのテレビとの接続について

本システムはプログレッシブスキャンモードに対応しています。
本機をD端子を装備したテレビと接続し、プログレッシブスキャンモード(P-SCAN MODE)を設定することによって高画質の画像をお楽しみいただくことができます。(➡ 31 ページ)

本システムのD端子はD1/D2出力端子です。対応する信号は下記の対応表のとおりです。D1～D4映像入力端子を持つ機器に接続できます。

	映像信号フォーマット			
対応する映像出力	1125i	750p	525p	525i
D4	○	○	○	○
D3	○	–	○	○
D2	–	–	○	○
D1	–	–	–	○

お知らせ

- テレビのD端子が「D1」端子のときは、プログレッシブスキャンモードはご利用になれません。

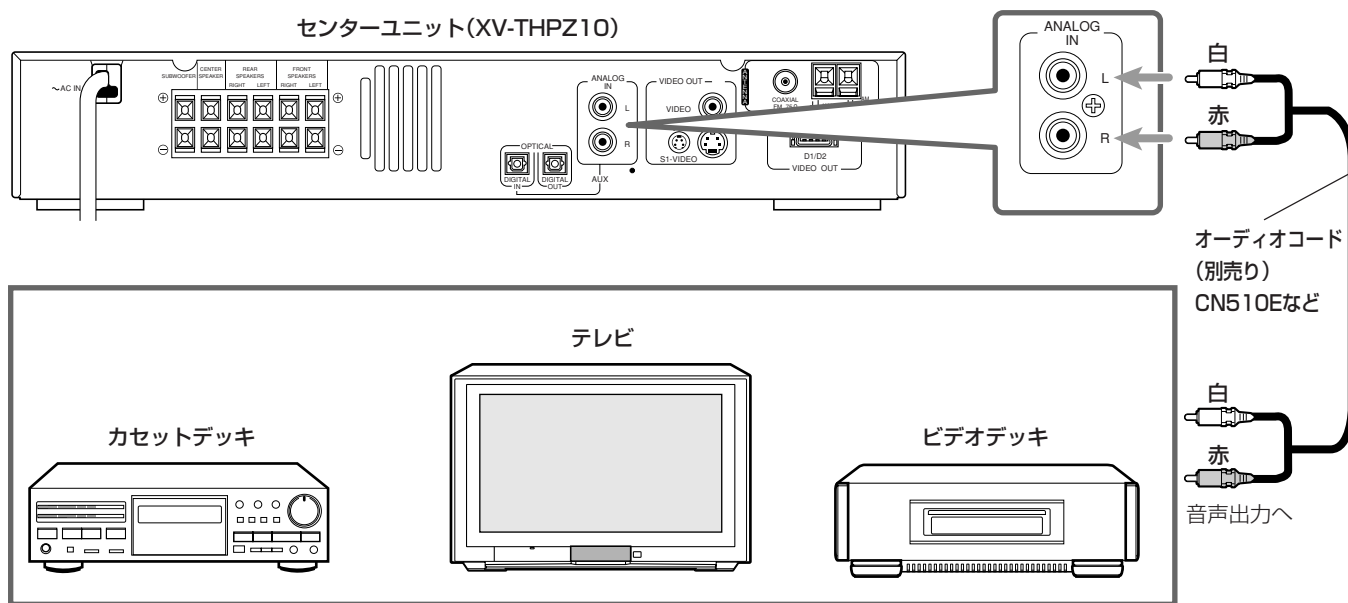
他のAV機器を接続する

本システムには、他の機器（デジタル・アナログ）を接続できます。

• 接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

アナログ機器との接続

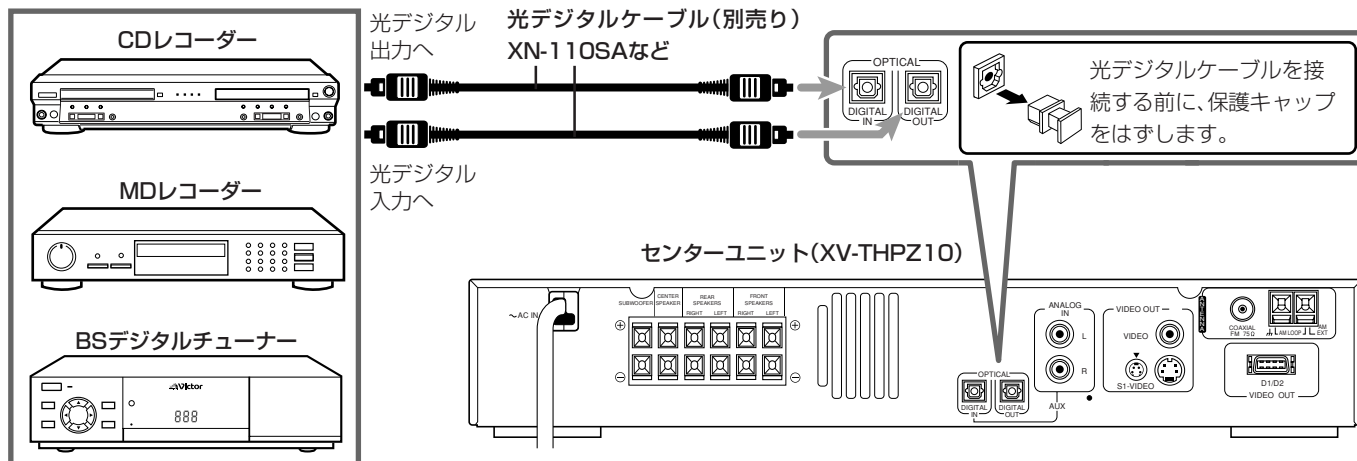
RCAピンプラグ付きのオーディオコード（別売り）を使って、ANALOG IN(AUX)音声入力端子に接続します。

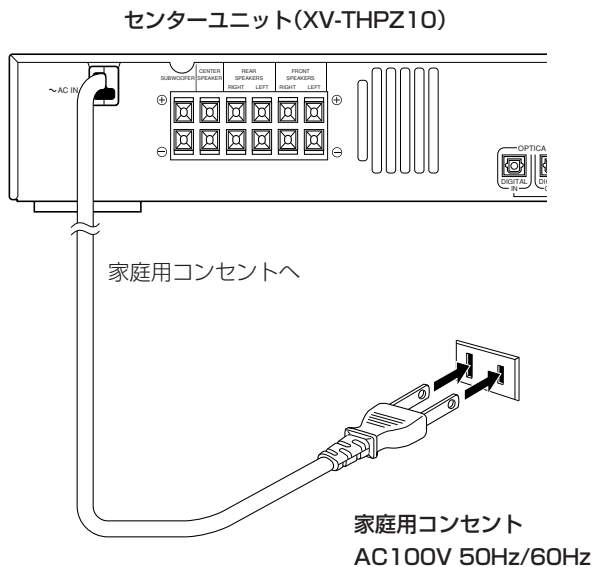
• 赤いプラグをR（右端子）に、白いプラグをL（左端子）に接続します。

お知らせ

• ビデオデッキなどの映像を見るには、ビデオデッキの映像出力端子とテレビの映像入力端子を直接接続してください。音声は本システムで選び、映像はテレビの「外部入力」で選びます。

デジタル機器との接続

デジタル入出力端子の接続

光デジタルケーブル（別売り）を使って、CDレコーダーやMDレコーダーなどの録音機器をOPTICAL DIGITAL IN 音声入力端子およびOPTICAL DIGITAL OUT 音声出力端子に接続します。BSデジタルチューナーなどの画像再生機器の音声は、OPTICAL DIGITAL IN 音声入力端子に接続します。

電源コードを接続する

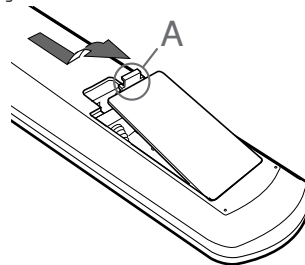
接続がすべて終わってから、電源コードを家庭用コンセントに差し込んでください。
電源コードを接続すると、センターユニットのSTANDBY（スタンバイ）ランプが赤く点灯します。

ご注意

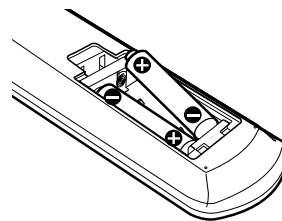
- 電源コードはテレビやビデオデッキ、アンテナ線などから離してください。雑音が発生したり、映像が乱れたりすることがあります。
- 濡れた手で電源コードを触らないでください。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、必ずプラグの部分を持って抜いてください。

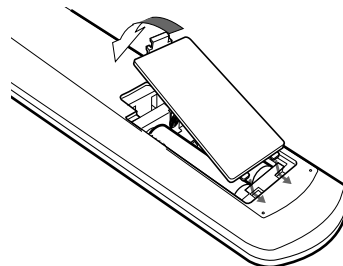
リモコンを準備する

単3形の乾電池を入れます。

1. 裏ブタをはずす

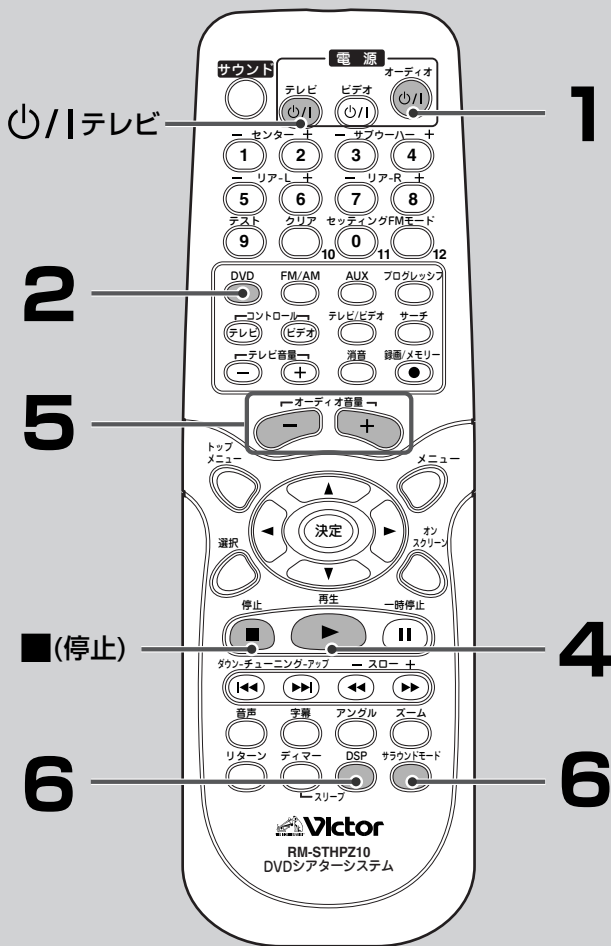
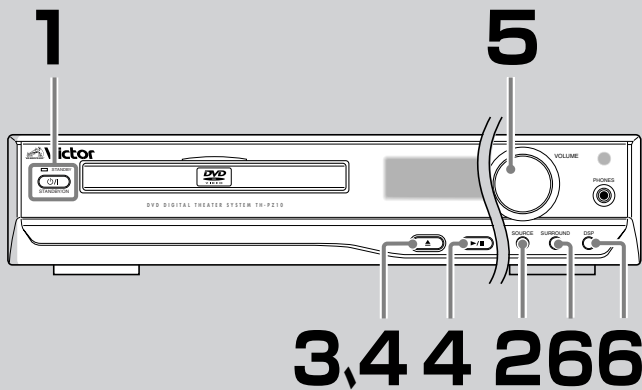
A部につめをかけ、矢印の方向へ引き上げます。

2. 単3形乾電池を2本入れる

リモコン内部の表示に合わせ、極性（⊕、⊖）を正しく入れます。

3. 裏ブタをしめる

矢印の方向に戻します。

お知らせ

- リモコンの先端をセンターユニットのリモコン受光部に向けて操作します。斜めから使用したり、リモコン受光部との間に障害物などがあると、リモコンで操作できないことがあります。
- 操作範囲が狭くなってきたり、センターユニットに近づけないと操作できなくなってきたときは、乾電池が消耗してきています。2本とも同じ種類の新しい単3形乾電池と交換してください。
- 付属の電池は動作確認用です。早目に新しい乾電池と交換してください。
- 指定以外の電池（充電式電池など）は使わないでください。
- 長い間使用しないときは、乾電池を取り出しておいてください。

DVDビデオなどのディスクを見る・聞く

操作に使うボタン

ご注意

次のような操作をする前には、必ず音量を最小にしてください。音量を上げたまま操作すると、突然大きな音が出て聴力障害の原因となったり、スピーカーを破損したりすることがあります。

- ディスクを再生するとき

1 本システムの電源を「入」にする

リモコン

⏻/I オーディオボタンを押す。
押すごとに電源が
「入」⬌「切」します。

センターユニット

⏻/I STANDBY/ON(スタンバイ/オン)ボタンを押す。
押すごとに電源が
「入」⬌「切」します。

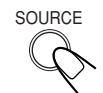
センターユニットのSTANDBYランプが消灯します。
電源を切る前に聞いていたソース(音源)が選ばれ、センターユニットの表示窓に表示されます。

2 DVDをソース(音源)に選ぶ

リモコン

DVDボタンを押す。

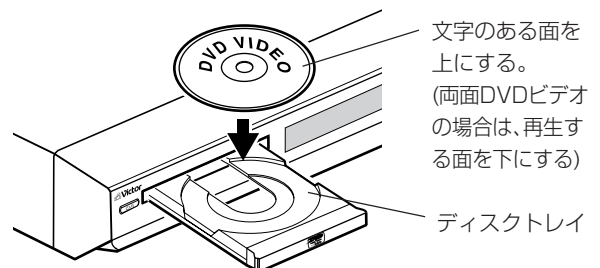
センターユニット

SOURCE(ソース)ボタンをくり返し押して、
「DVD」を選ぶ。

- DVDビデオやビデオCDの映像ソフトをご覧になるときは、テレビの電源も入れ、テレビ側で正しい外部映像入力を選んでください。
  例:ビクター製のテレビでは「ビデオ3」がDVD入力端子です。
- CDやMP3ディスクなどの音楽ソフトをお楽しみになるときも、テレビ画面を見ながら操作を行うと、便利です。
- 他メーカーのテレビをお使いのときは、あらかじめメーカー設定をしておきます。(➡ 70 ページ参照)

3 ディスクを入れる

センターユニットのみ

① **▲(開/閉)ボタンを押す。**
本システムの電源が「入」になり、
ディスクトレイが出てきます。

② **ディスクを入れる。**

- 8センチディスクは、中央の凹部に置きます。
- ディスク・スタビライザーは使用しないでください。

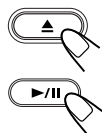
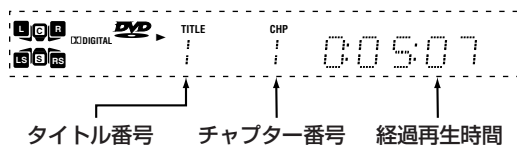
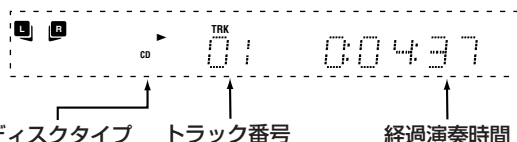
4 ディスクを再生する

リモコン

►(再生)ボタンを押す。

センターユニット

▲(開/閉)ボタンまたは►/❚❚(再生/一時停止)ボタンを押す。

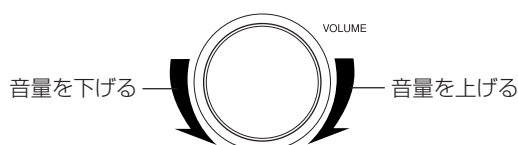
ディスクトレイが閉まり、しばらくすると再生が始まります。(ディスクの検出中は表示窓に「READING(リーディング)」と表示されます)

例:DVDビデオ(ドルビーデジタル5.1ch)を再生したとき

例:オーディオCDを再生したとき

より詳しいディスク操作については、以下のページをご覧ください。

- DVDビデオ
  :「DVDを使いこなす」(➡ 36 ～ 45 ページ)
  過激なシーンなどを含むDVDソフトを視聴制限したいときは「視聴制限をする[パレンタルロック]」(➡ 68 ページ)
- ビデオCD/オーディオCD
  :「ビデオCDやCDを使いこなす」(➡ 46 ～ 53 ページ)
- MP3 :「MP3ディスクを演奏する」(➡ 54 ～ 56 ページ)
- JPEG :「JPEGディスクを再生する」(➡ 57 ～ 60 ページ)

・DVDビデオやビデオCDの再生を開始すると、メニューがテレビ画面に表示されることがあります。このときは、メニュー画面を使いディスクを操作します。(➡ 40 48 ページ)

5 音量を調節する

リモコン

オーディオ音量(+/-)ボタンを押す。

センターユニット

VOLUME(ボリューム)調節つまみを回す。

- 音量レベルは、VOLUME MIN(消音)、01～62、MAX(最大)までの64段階の範囲で調節できます。
- 電源を「切」にすると、次に電源を「入」にしたときの音量レベルは以下のようになります。
  「25」以上のときは「25」
  「25」以下のときは電源を「切」にしたときの音量

6 サラウンドやDSPモードを使う

本システムでは、6つのスピーカー(5.1チャンネル)を使用した臨場感あふれるサラウンドがお楽しみいただけます。再生するディスクによって、以下のサラウンドやDSPモードがお使いいただけます。

■デジタルマルチチャンネルサラウンド

ドルビーデジタル、DTSサラウンドで記録されたディスクを再生するときに使います。

■ドルビープロロジックII

アナログ2チャンネル、リニアPCM*およびドルビーデジタル(2チャンネル)の音声を、5.1チャンネル音声に拡張することができます。

- 操作など詳しくは「サラウンドを使う」(➡ 32 ～ 35 ページ)をご覧ください。

■DSPモード

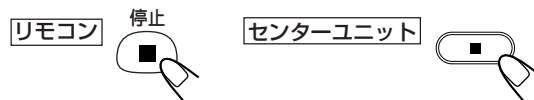
アナログ2チャンネル、リニアPCM*およびドルビーデジタル(2チャンネル)の音声を、デジタル信号処理により臨場感溢れる音場に変換することができます。

- 操作など詳しくは「サラウンドを使う」(➡ 32 ～ 35 ページ)をご覧ください。

＊ リニアPCMとは、CDやDVDビデオなどに使われている2チャンネル信号です。

再生を止めるには

■(停止)ボタンを押す。

リモコン センターユニット

(ディスク上の停止した位置が記憶されます。)
もう一度、再生を始めると、記憶された位置から続きが再生されます(リジューム再生)。

- 次のような操作をしたときは、リジューム再生は働きません。
  ・もう一度**■(停止)ボタン**を押したとき
  ・本システムの電源を切ったとき
  ・ソース(音源)を一度切り換えたとき
  ・ディスクトレイを開けたとき

ディスクを取り出すには

センターユニットのみ

▲(開/閉)ボタンを押す。
ディスクトレイが出てきます。
ディスクを取り出したら、もう一度**▲(開/閉)ボタン**を押して、ディスクトレイを閉めます。

ディスクトレイをロックするには

あやまった操作などによって、ディスクトレイが開閉するのを防ぎます。

センターユニットのみ

►/❚❚(再生/一時停止)ボタンを押しながら**⏮ボタン**を3秒以上押す。
テレビ画面に「LOCKED(ロックド)」と表示されて、ディスクトレイはロックされます。

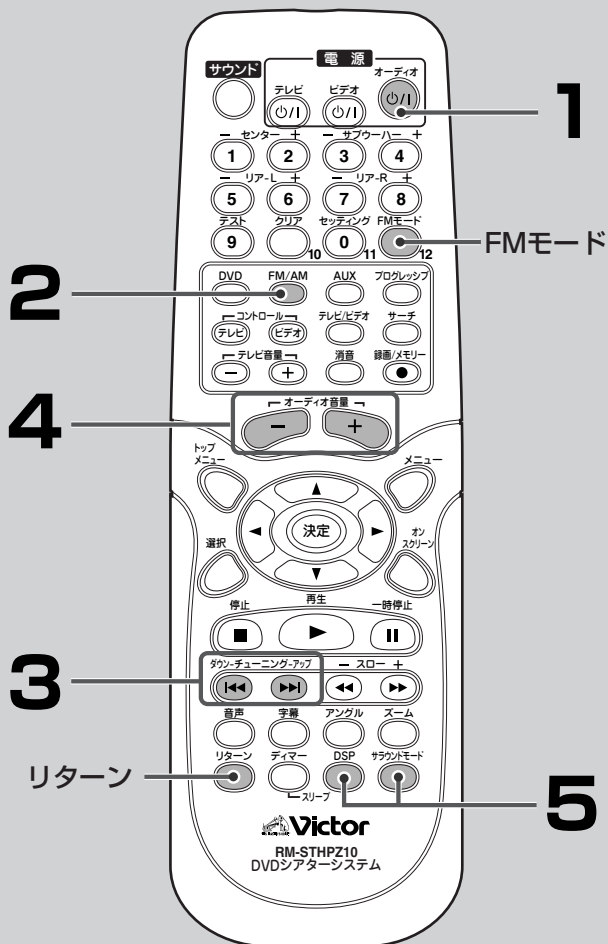
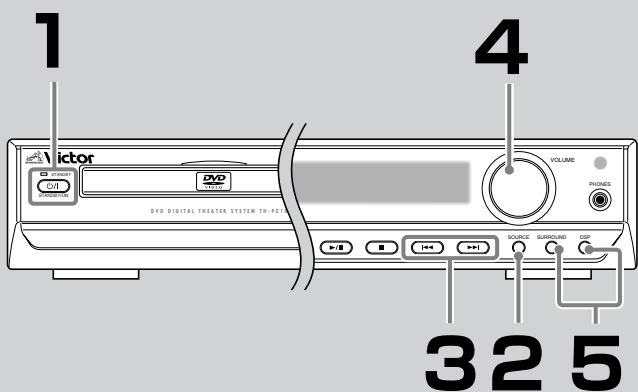
- ロックを解除するには
  もう一度**►/❚❚(再生/一時停止)ボタン**を押しながら**⏮ボタン**を3秒以上押す。テレビ画面に「UNLOCK(アンロック)」と表示されて、ロックは解除されます。

電源を「切」にするには

もう一度、リモコンの **⏻/I オーディオボタン**または
センターユニットの **⏻/I STANDBY(スタンバイ)/ON(オン)ボタン**を押す。
センターユニットのSTANDBYランプが赤く点灯します。

- テレビの電源を忘れずに切ってください。

ラジオ(FM放送/AM放送)を聞く

操作に使うボタン

ご注意

次のような操作をする前には、必ず音量を最小にしてください。音量を上げたまま操作すると、突然大きな音が出て聴力障害の原因となったり、スピーカーを破損したりすることがあります。

- 放送局を選ぶとき

1 本システムの電源を「入」にする

リモコン

⏻/I オーディオボタンを押す。
押すごとに電源が「入」⟷「切」します。

センターユニット

⏻/I STANDBY/ONボタンを押す。
押すごとに電源が「入」⟷「切」します。

センターユニットのSTANDBYランプが消灯します。
電源を切る前に聞いていたソース(音源)が選ばれ、センターユニットの表示窓に表示されます。

2 FM放送またはAM放送をソース(音源)に選ぶ

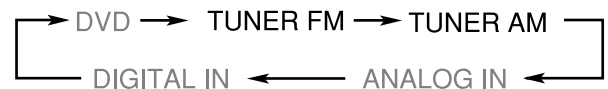
リモコン

FM/AMを押す。
押すごとに、FM放送とAM放送が交互に切り換わります。

センターユニット

SOURCEをくり返し押して、表示窓に「TUNER FM」または「TUNER AM」を表示させる。

ボタンを押すごとに、次のように表示が切り換わります。

→ DVD → TUNER FM → TUNER AM → ANALOG IN → DIGITAL IN →(DVDに戻る)

3 聞きたい放送局を選ぶ

リモコン

チューニング(アップ)ボタンまたはチューニング(ダウン)ボタンを押す。

センターユニット

▶▶|ボタンまたは|◀◀ボタンを押す。

オート選局

チューニング(アップ)ボタンまたは**チューニング(ダウン)ボタン**を押し続け、表示窓の周波数表示が変わりだしたら指を離します。放送局を受信すると自動で周波数が停止します。

マニュアル選局

チューニング(アップ)ボタンまたは**チューニング(ダウン)ボタン**をくり返し押します。押すごとにFM放送は0.05MHz(50kHz)ずつ、AM放送は9kHzずつ変わります。

FM放送	0.05MHzずつ:76.00MHz~108.00MHz
AM放送	9kHzずつ　:531kHz~1,629kHz

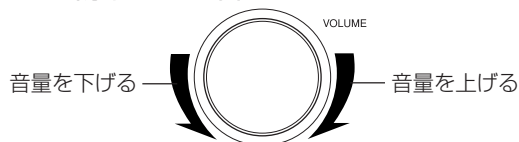
- チューニング(アップ/ダウン)ボタンによる選局のほかに、数字ボタンで直接周波数を入力しても選局できます。

■放送局を記憶させてあるときはプリセット番号で放送局を選ぶことができます(プリセット選局)。

- 「放送局を記憶させて選ぶ[プリセット選局]」61 ページをご覧ください。

4 音量を調節する

リモコン

オーディオ音量(+/−)ボタンを押す。

センターユニット

VOLUME(ボリューム)調節つまみを回す。

- 音量レベルは、VOLUME MIN(消音)、01~62、MAX(最大)までの64段階の範囲で調節できます。
- 電源を「切」にすると、次に電源を「入」にしたときの音量レベルは以下のようになります。
  「25」以上のときは「25」
  「25」以下のときは電源を「切」にしたときの音量

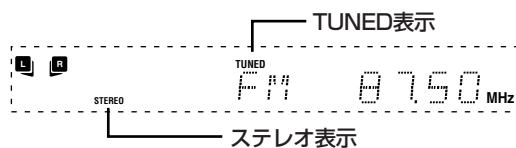
5 サラウンドやDSPモードを使う

FM放送やAM放送を聞いているときに、ドルビープロロジックIIモードやDSPモードがお楽しみいただけます。

- 操作など詳しくは、「サラウンドを使う」(➡ 32 ~ 35 ページ)をご覧ください。

受信表示とFM放送の受信モード

放送を受信すると

放送を受信するとTUNED(チューンド)表示が点灯します。FMステレオ放送を受信すると **STEREO**表示も点灯します(オートステレオモード)。

FM放送の受信モード

FMステレオ放送が雑音で聞きにくいときなどにリモコンの**FMモード**を押します。

音声はモノラルになりますが、雑音が消え放送が聞きやすくなることがあります。(強制モノラルモード:STEREO表示が表示窓から消えます)

リモコンのみ

- 押すごとに、FM放送の受信モードが「オートステレオ」と「強制モノラル」に切り換わります。

AM放送の受信中に「ピー」というビート音が出るときは

リモコンの**リターン**を押します。

リモコンのみ

リターン

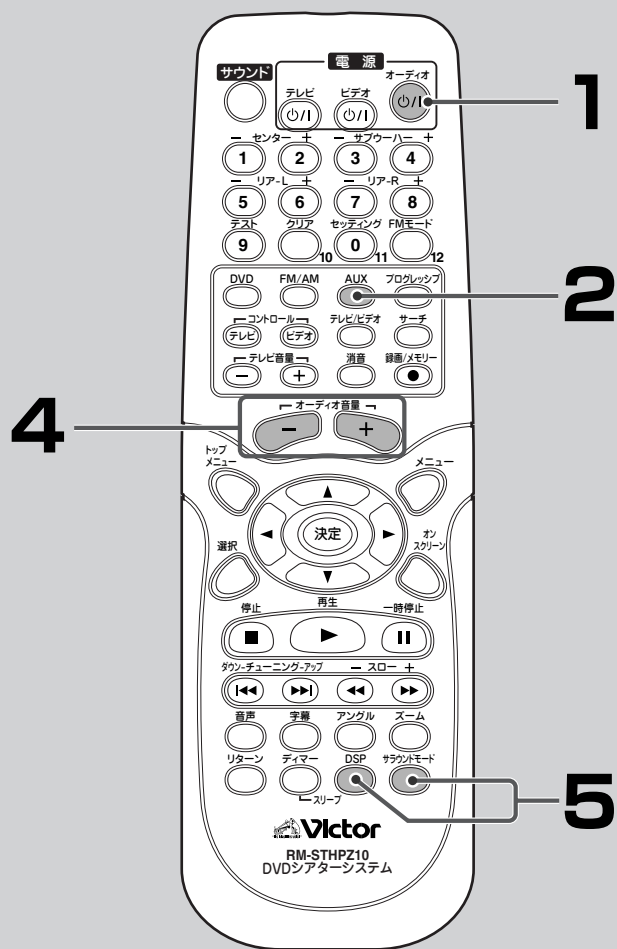
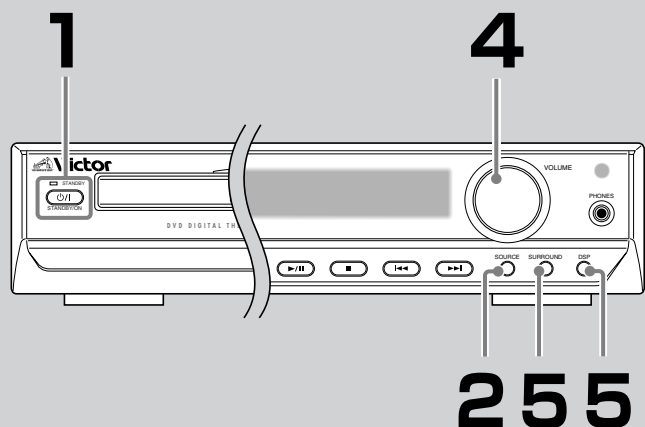
- 押すごとに、「BEAT CUT 1」と「BEAT CUT 2」に切り換わります。ビート音が消える(小さくなる)状態を選びます。

電源を「切」にするには

もう一度、リモコンの ⏻/I **オーディオボタン**または
センターユニットの ⏻/I **STANDBY(スタンバイ)/ON(オン)ボタン**を押す。

センターユニットのSTANDBYランプが赤く点灯します。

他のAV機器からの音声を聞く

操作に使うボタン

ご注意

次のような操作をする前には、必ず音量を最小にしてください。音量を上げたまま操作すると、突然大きな音が出て聴力障害の原因となったり、スピーカーを破損したりすることがあります。

- 再生する機器を選ぶとき

1 本システムの電源を入れる

リモコン

⏻/I オーディオボタンを押す。
押すごとに電源が「入」⟷「切」します。

センターユニット

⏻/I STANDBY/ONボタンを押す。
押すごとに電源が「入」⟷「切」します。

⏻/I
STANDBY/ON

センターユニットのSTANDBYランプが消灯します。
電源を切る前に聞いていたソース(音源)が選ばれ、センターユニットの表示窓に表示されます。

2 外部接続したAV機器をソース(音源)に選ぶ

リモコン

AUXボタンを押す。
ボタンを押すごとに、ソース(音源)は次のように切り換わります。

ANALOG IN ⟷ DIGITAL IN

センターユニット

SOURCEボタンをくり返し押す。
ボタンを押すごとに、ソース(音源)は次のように切り換わります。

SOURCE

→ DVD → TUNER FM → TUNER AM → ANALOG IN → DIGITAL IN →(DVDへ戻る)

外部入力に合わせて、ソース(音源)を選びます。

DIGITAL IN ：センターユニット後面のOPTICAL DIGITAL IN端子に接続した機器からの音声を楽しむとき
ANALOG IN ：センターユニット後面のANALOG IN (AUX)端子に接続した機器からの音声を楽しむとき

3 外部接続のAV機器を操作する

外部接続のAV機器の電源を「入」にして、操作を始めます。

■**外部機器を操作するには、**それぞれの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

■**本システムのリモコンで、ビデオデッキまたはテレビが操作できます。**
- 他メーカーのテレビを操作するには、あらかじめメーカー設定をしておきます（➡ 70 ページ）。
- 接続している機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

ビデオデッキを操作するボタン

ビデオデッキ操作ボタンは日本ビクター製のビデオデッキに限り操作できます。
- 日本ビクター製のビデオデッキには、「A」「B」2種類のリモコンコードを使えるものがあります。本機のリモコンを使って、ビデオデッキを操作するときは、ビデオデッキのリモコンコードを「A」に設定してください。

ビデオコントロールボタンを押したあとで、次の操作が行えます。

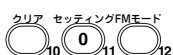
►(再生)ボタン：再生を始めます。
II (一時停止)ボタン：一時停止します。
◄◄ ボタン：テープを巻き戻します。
►► ボタン：テープを早送りします。
■ (停止)：録画･再生を停止します。
●(録画)/メモリーボタン
：**► (再生)ボタン**と一緒に押すと、録画が始まります。
II (一時停止)ボタンと一緒に押すと、録画待機状態になります。そのあと **► (再生)ボタン**を押すと、録画を開始します。
数字ボタン：受信チャンネルを変更します。

番号の選びかた
- 1～12のいずれかの数字ボタンを押します。
（10～12を選ぶときは、次のボタンを押します。ボタン右下の数字に対応しています）

テレビを操作するボタン

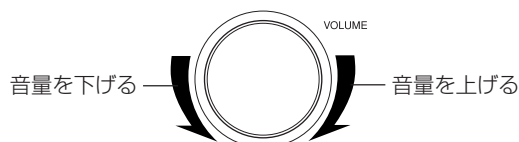
テレビコントロールボタンを押したあとで、次の操作ができます。
テレビ音量(＋/－)ボタン：テレビの音量を調節します。
テレビ/ビデオボタン：テレビの外部入力を切り換えます。
数字ボタン：テレビの受信チャンネルを変更します。

番号の選びかた
- 1～12のいずれかの数字ボタンを押します。
（10～12を選ぶときは、次のボタンを押します。ボタン右下の数字に対応しています）

ご注意

テレビやビデオデッキの操作を終了した後は、必ず**DVDボタン**、または**FM/AMボタン**を押してください。リモコンで本システムが再び操作できるようになります。

4 音量を調節する

リモコン

オーディオ音量(＋/－)ボタンを押す。

センターユニット

VOLUME(ボリューム)調節つまみを回す。

- 音量レベルは、VOLUME MIN（消音）、01～62、MAX（最大）までの64段階の範囲で調節できます。
- 電源を「切」にすると、次に電源を「入」にしたときの音量レベルは以下のようになります。
  「25」以上のときは「25」
  「25」以下のときは電源を「切」にしたときの音量

5 サラウンドやDSPモードを使う

ドルビープロロジックIIモードやDSPモードがお楽しみいただけます。
外部入力した信号によっては、対応できないサラウンドがあります。「入力信号/サラウンド対応表」（➡ 72 ページ）をご覧ください。

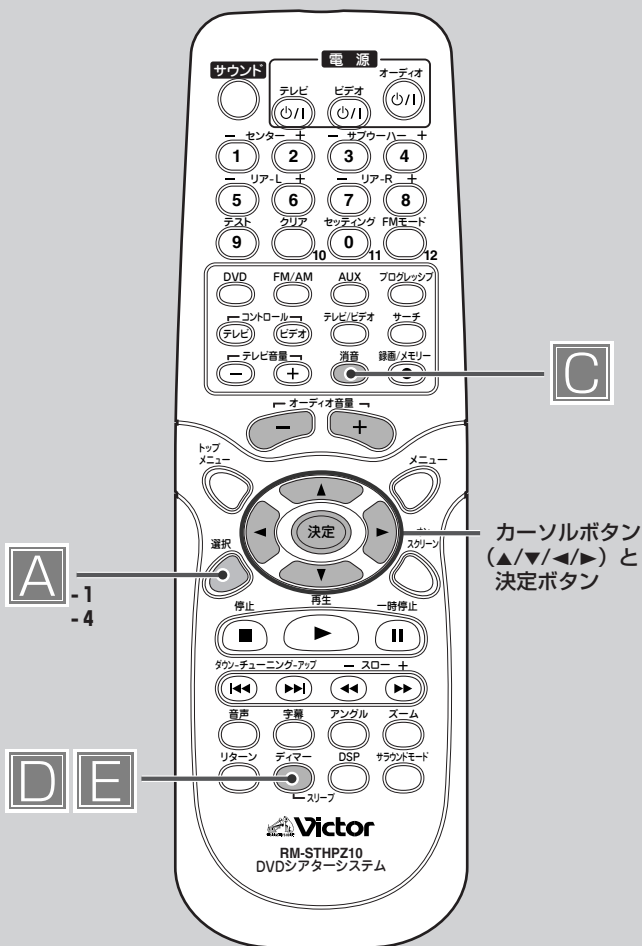
- 入力信号によっては、サブウーハーから音が出ないことがあります。
- 操作など詳しくは、「サラウンドを使う」（➡ 32～35 ページ）をご覧ください。

電源を「切」にするには

もう一度、リモコンの ⏻/I **オーディオボタン**または
センターユニットの ⏻/I **STANDBY(スタンバイ)/ON(オン)ボタン**を押す。

センターユニットのSTANDBYランプが赤く点灯します。
- 外部接続のAV機器の電源も忘れずに切ってください。

ふだん使う便利な操作

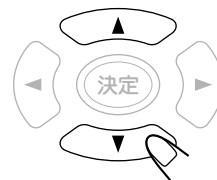
操作に使うボタン

A 画質を調節する

映像の明るさや色の濃さなどをお好みに合わせて調節できます。

リモコンのみ

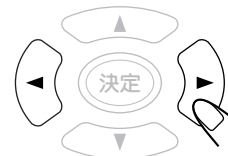
1 再生中に選択ボタンを押す

テレビ画面に調節メニューが表示されます。

2 カーソルボタン(▲/▼)を押して項目を選ぶ

画質調節項目

輝度　　　：お好みの明るさに調節したいとき
シャープネス：お好みの輪郭に調節したいとき
カラー　　：お好みの色調に調節したいとき
コントラスト：お好みの明暗比に調節したいとき

3 カーソルボタン(◀/▶)を押してお好みの画質に調節する

- 他の項目も調節したいときは、手順2と手順3をくり返します。

4 選択ボタンを押す

調節メニューが消えます。

ご注意

上記の映像調節の変更値は、電源を「切」にするとお買い上げ時の設定値に戻ります。

B ヘッドホンで楽しむ

センターユニット前面のPHONES端子に、ヘッドホンを差し込むとヘッドホンモードになり、スピーカーからの音声は出なくなります。

- ヘッドホンをつけるときや、ヘッドホンのプラグを抜き差しするときは、必ず音量を最小にしてから行ってください。
  突然大きな音がでて聴力障害などの原因となったり、スピーカーを破損することがあります。

C 一時的に音を消す

電話がかかってきたときなど、音を一時的に出なくするときに便利です。

リモコンのみ

消音ボタンを押す。

スピーカーからの音が聞こえなくなります。
もう一度押すと、元の音量に戻ります。
オーディオ音量(＋/－)ボタンを押しても、元の音量に戻ります。

D 表示窓の明るさを変える ［ディマー］

センターユニットの表示窓の明るさを変えられます。
映画ソフトを鑑賞するときなどで表示窓の明るさが気になるときに使います。

リモコンのみ

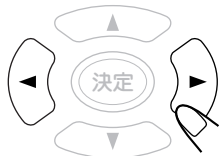
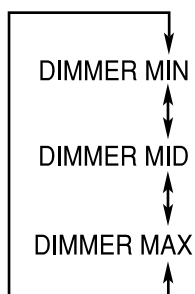
1 ディマーボタンをくり返し押して表示窓に「DIMMER」を表示させる

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

DIMMER ←→ SLEEP*

＊SLEEPについては「おやすみタイマーを使う」をご覧ください。

2 カーソルボタン(◄/►)を押してお好みの明るさを選ぶ

ボタンを押すごとに、明るさが切り換わります。

3 決定ボタンを押す

表示窓に「OK」と表示され、お好みの明るさに設定されます。

E おやすみタイマーを使う ［スリープ］

おやすみタイマーを使うと、設定した時間に本システムの電源が自動的に「切」になります。音楽を聞きながら眠りたいときなどにお使いください。

リモコンのみ

1 スリープボタンをくり返し押して表示窓に「SLEEP」を表示させる

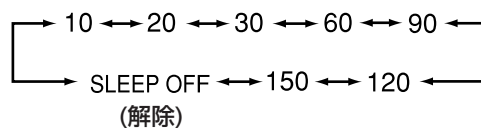
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

DIMMER* ←→ SLEEP

＊DIMMERについては「表示窓の明るさを変える」をご覧ください。

2 カーソルボタン(◄/►)を押してご希望の時間(分)を選ぶ

電源が「切」になるまでの時間(分)を設定します。
ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

→ 10 ←→ 20 ←→ 30 ←→ 60 ←→ 90 ←
→ SLEEP OFF (解除) ←→ 150 ←→ 120 ←

3 決定ボタンを押す

表示窓に「OK」と表示され、►(SLEEP)表示が点灯します。

● **電源が「切」になるまでの時間を確かめたり、設定時間を変えるには**
おやすみタイマーを設定後に、**スリープボタン**をくり返し押して表示窓に「SLEEP」を表示させると、電源が「**切**」になるまでの残り時間が確かめられます。
設定時間を変更するときは、**カーソルボタン(◄/►)**を押して希望の時間を選び直し、**決定ボタン**を押します。

● **おやすみタイマーを解除するには**
1. **スリープボタン**をくり返し押して表示窓に「SLEEP」を表示させます。
2. **カーソルボタン(◄/►)**を押して「SLEEP OFF(解除)」を選びます。

おやすみタイマーが解除され、SLEEP表示は消灯します。
• 電源を「**切**」にしたときは、おやすみタイマーは解除されます。

プログレッシブスキャンを設定する

スキャンモード(方式)とは

スキャンモード(方式)には従来のテレビに使われているインターレーススキャンモードと、より高画質の映像再生を可能にしたプログレッシブスキャンモードがあります。
日本やアメリカなどのテレビ方式(NTSC)では毎秒30コマ(フレーム)の画像を扱います。

- **インターレーススキャンモード(飛び越し走査方式):**
  従来のテレビで用いられている方式で、映像の各フレーム情報を半分に「間引き」して1つのフィールド情報とし、連続した2つのフィールドを使って1つの画像(フレーム)を作るビデオ方式です。つまり実際には毎秒60フィールドで30画像を映し出しています。お買い上げ時にはこちらが選択されています。

- **プログレッシブスキャンモード(順次走査方式):**
  すべてのフレーム情報を1つのフィールドで映し出します。したがって映像情報が従来方式に比べて倍になり、チラツキの少ない高密度の画像になります。
  プログレッシブ対応のテレビが必要です。またテレビ側の接続端子として、D2〜D4に対応したD端子、またはプログレッシブ対応のコンポーネント端子が必要です。

プログレッシブスキャンモードとは

プログレッシブスキャンモードは、一度にすべての走査線を表示する映像方式です。従来のインターレーススキャンモードに比べて、倍の走査線で表現されるため、より高精細な映像を再現します(左記「スキャンモードとは」参照)。

本システムは、従来のインターレーススキャンモード(480i*)とともにプログレッシブスキャンモード(480p*)にも対応しています。

本システムをプログレッシブ対応のテレビと接続してお使いのときは、スキャンモードをP-SCAN(プログレッシブスキャン)に設定しておきます(➡ 31 ページ「スキャンモードを設定する」参照)。

＊「480i」および「480p」は、それぞれ走査線の数およびスキャンモードを表しています。i はインターレース、p はプログレッシブの略です。

お知らせ

- **プログレッシブ映像出力の著作権保護信号について**
  ソース(音源)によっては、プログレッシブ映像出力(525p)には著作権保護信号が付加されていることがあります。この信号に対応していないテレビ、モニターでは映像が乱れることがあります。このようなときは、スキャンモードをインターレースに切り換えてお使いください。この信号に対応している当社のテレビはHD-32LS1やAV-32ADなどです。詳しくは「お客様ご相談センター」にお問い合わせください。

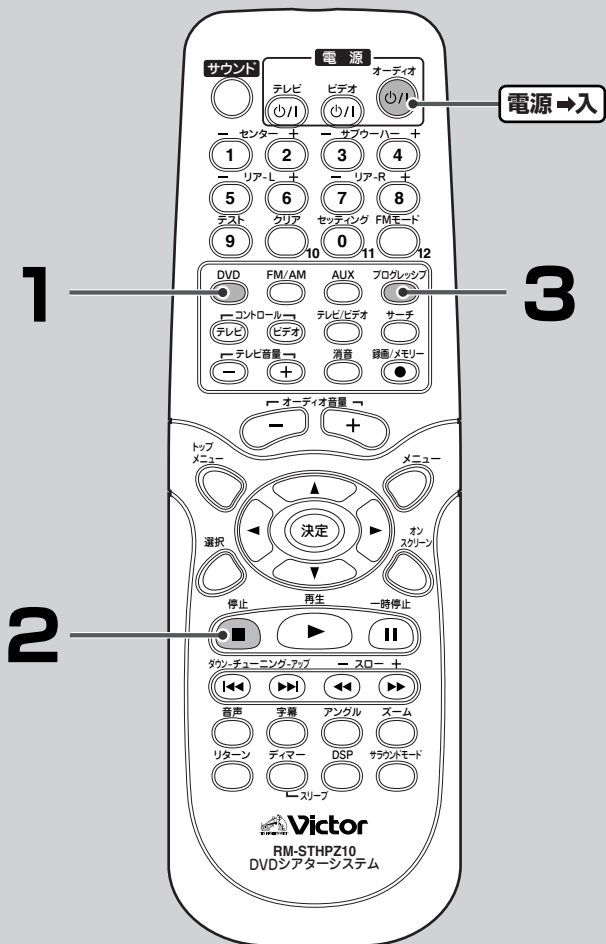
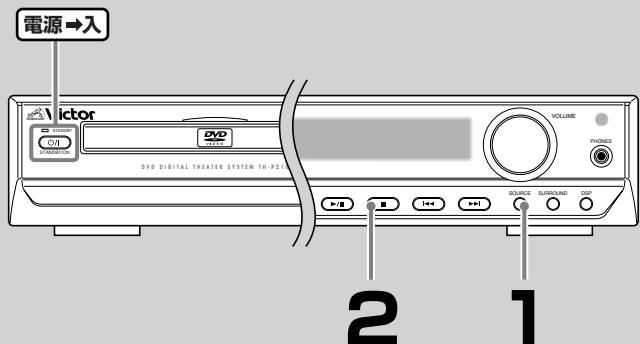
操作に使うボタン

電源⇒入

2　1

1　3

2

電源⇒入

スキャンモードを設定する

お使いのテレビがプログレッシブスキャンに対応している場合、本システムのスキャンモードをプログレッシブ(P-SCAN MODE)に設定すると、高画質映像をお楽しみいただけます。

1 DVDを選ぶ

リモコン

DVDボタンを押す。

センターユニット

SOURCE(ソース)ボタンをくり返し押して、表示窓に「DVD」を表示させる。

- 表示窓に「NO DISC」と表示されるときは、手順**3**に進みます。

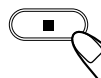
2 再生を止める

ディスクを再生しているときは再生を止めます。

リモコン

■(停止)ボタンを押す。

センターユニット

■(停止)ボタンを押す。

3 スキャンモードを設定する

リモコンのみ

プログレッシブボタンを押す。

表示窓のP-SCAN(プログレッシブ スキャン)表示が点灯します。
ボタンを押すごとにスキャンモードが次のように切り換わります。

P-SCAN(プログレッシブ スキャン) INTERLACE(インターレース(スキャン))

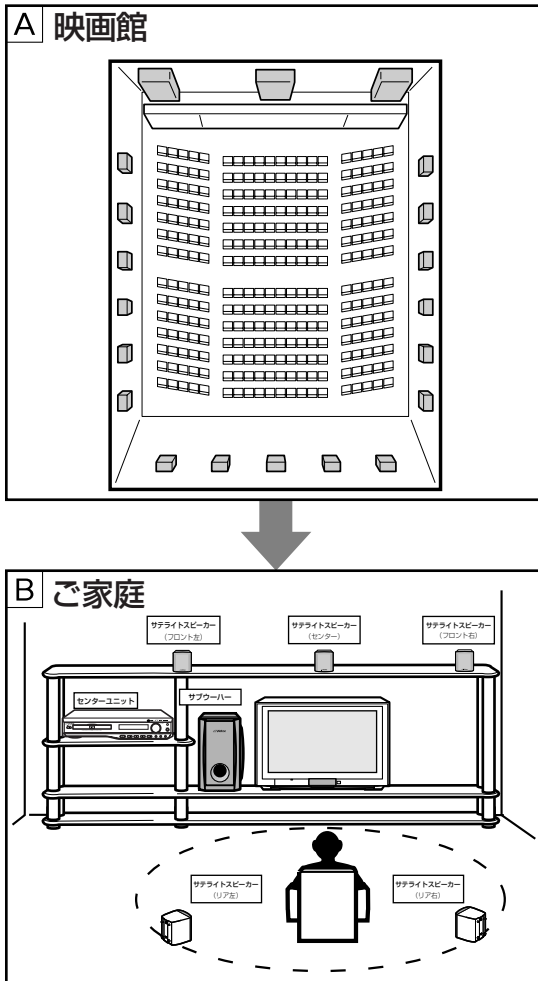
ご注意

- テレビ画面にメニューなどが表示されているときは、スキャンモードの設定が切り換わらないことがあります。
  スキャンモードの設定を切り換えるときは、メニューなどの表示を消してから行ってください。

サラウンドを使う

サラウンドとは

映画館は、計算された効果音で臨場感を再現するために、壁に多くのスピーカーを配置して、あらゆる方向から音声が聞こえてくるように設計されています。**(図A)**
客席を包みこむように多くのスピーカーを配置することによって、音の定位感を飛躍的に高めることができます。

本機は、5つのスピーカーとサブウーハーを使うことで、映画館そのままの臨場感をご家庭で再現することを可能にしました。**(図B)**

本機では、内蔵のDSP(デジタル･シグナル･プロセッサー)により次のサラウンドをお楽しみいただけます。

- **マルチチャンネルサラウンド (ドルビーデジタル、DTSデジタルサラウンド、MPEG-2 AACサラウンド)**
- **ドルビープロロジックII (プロロジック II ムービー、プロロジックII ミュージック)**
- **DSP (CONCERT、STADIUM、HALL、THEATER、LIVE HOUSE)**

■ ドルビーデジタル *1

DVDに使われているマルチチャンネル対応の音声圧縮方式のひとつです(このようなソフトには DOLBY DIGITAL マークが記載されます)。
ドルビーデジタル5.1チャンネルの場合、フロント左右、センター、リア左右、サブウーハーの5.1チャンネル(サブウーハーは0.1チャンネルと数えます)の各チャンネルを完全に独立した音声として再生するので、チャンネル間の干渉も少なく、より優れた音質でより立体的なサラウンドが再現できます。
本機にはドルビーデジタルデコーダーが内蔵されていますので、ドルビーデジタルの映像ソフトが再生できます。

- ドルビーデジタル信号が検出されると、表示窓の DIGITAL表示が点灯します。

■ DTSデジタルサラウンド *2

DTSデジタルサラウンドは、CD、LD、DVDなどに使われています(このようなソフトには dts マークが記載されています)。
ドルビーデジタル同様5.1チャンネルのデジタル音声フォーマットですが、音声圧縮率を低く設定してあるため、厚みのある、より高音質な再生が可能となります。
本機にはDTSサラウンドデコーダーが内蔵されていますので、DTSデジタルサラウンドの映像ソフトが再生できます。

- DTS信号が検出されると、表示窓にdts表示が点灯します。

■ MPEG-2 AAC(Advanced Audio Coding)サラウンド

MPEG-2オーディオの標準方式のひとつで、BSデジタル放送で採用されている音声符合化規格です。
低ビットレートで高音質を確保できる点が特長で、番組内容により5.1チャンネルのマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。

- AACサラウンドの音声を聞くには、お使いになる機器を本機背面のOPTICAL DIGITAL IN(AUX)音声入力端子に接続してください。(➡ 20ページ)

米国パテントナンバー

5,848,391; 5,291,557; 5,451,954;
5,400,433; 5,222,189; 5,357,594;
5,752,225; 5,394,473; 5,583,962;
5,274,740; 5,633,981; 5,297,236;
4,914,701; 5,235,671; 07/640,550;
5,579,430; 08/678,666; 98/03037;
97/02875; 97/02874; 98/03036;
5,227,788; 5,285,498; 5,481,614;
5,592,584; 5,781,888; 08/039,478;
08/211,547; 5,703,999; 08/557,046;
08/894,844

■ **ドルビープロロジックII** *3

本機にはドルビープロロジックIIデコーダーが内蔵されています。ドルビーサラウンド方式で記録された2チャンネル音声はもちろん、通常の2チャンネル音声も5.1チャンネル音声に拡張することができます。
また、従来のドルビープロロジック方式に比べて、リアスピーカーの高音域も再生することができます。これにより、立体感・包囲感のあるサラウンドがお楽しみいただけます。
ドルビープロロジックIIには次の2つのモードがあります。

プロロジックII ムービー

DOLBY SURROUND マークのついたドルビーサラウンド方式で記録された2チャンネル音声の映像ソフトの再生に向いています。DVDソフトなどのマルチチャンネル5.1チャンネル音声に近い音場での再生をお楽しみいただけます。

プロロジックII ミュージック

2チャンネル音声*の音楽ソフトの再生に向いています。音楽ソフトの再生に適した広がりと奥行きを持った音場をお楽しみいただけます。

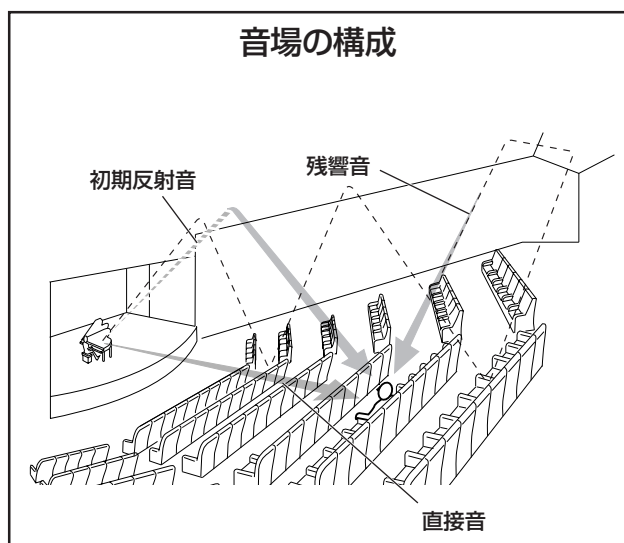
* DTS、MP3ディスクを除いた2チャンネル音声に対して有効です。
• ドルビープロロジックIIデコーダーが働いていると、表示窓に ProLogic II 表示が点灯します。

DSPとは

コンサートホールやライブハウスなどで聞く音は、音源から直接耳に届く音(**直接音**)と天井や壁などに反射してから耳に届く音(**初期反射音**)、そして、何回も反射を繰り返してから耳に届く音(**残響音**)によって構成されています。これらの反射音/残響音は、リスナーと天井、壁の距離によって様々な遅延時間をもった音となり、コンサートなどでは、直接音とこれらの反射音/残響音によって、音場が作り出されています。
本機に搭載されているDSPモードは、これらの反射音や残響音をデジタル信号処理により創り出しコンサートホールやライブハウスなどの臨場感を再現します。

本機では次のDSPモードをお楽しみいただけます。

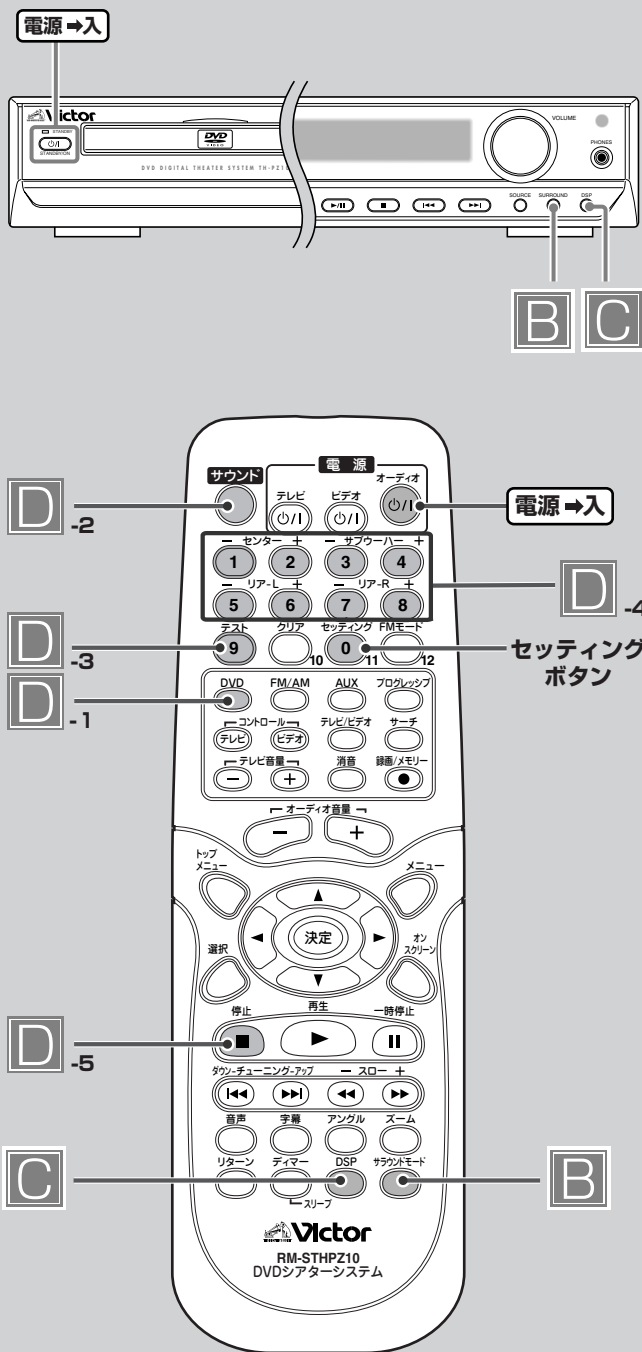
• LIVE HOUSE(ライブ ハウス) ：天井の低いライブハウスの臨場感を再現します。
• HALL(ホール) ：比較的小さなコンサートホールの臨場感を再現します。特にボーカルがはっきりします。
• CONCERT(コンサート) ：主にクラシックのコンサートに使われる大ホールの臨場感を再現します。
• STADIUM(スタジアム) ：屋外スタジアムの臨場感を再現します。
• THEATER(シアター) ：劇場の臨場感を再現します。

音場の構成

• DSPは、アナログ2チャンネル、リニアPCMおよびドルビーデジタル(2チャンネル)の音声を、デジタル信号処理により臨場感溢れる音場に変換することができます。
• DSPをお楽しみいただくときは、すべてのサテライトスピーカーとサブウーハーを接続しておきます(DSPのモードにより、出力するスピーカーが自動的に選択されます)。

<お知らせ>

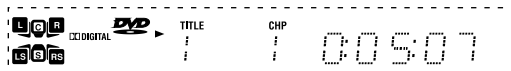
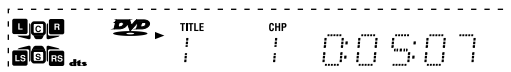
• サラウンドをお使いになるときは、以下の項目をあらかじめ正しく設定しておいてください。
  スピーカーの出力レベル(➡ 35 ページ)
  スピーカーのサイズ(➡ 67 ページ)
  スピーカーのディレイタイム(遅延時間)(➡ 67 ページ)

• **それぞれの信号と、それに対応するサラウンドについては、入力信号/サラウンド対応表(➡ 72 ページ)をご覧ください。**

*1､*3 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
*2 DTSおよびDTS Digital Surroundは、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

A マルチチャンネルサラウンドを使う

ドルビーデジタル、**DTS**のマルチチャンネルのDVDを再生するときや**MPEG-2 AAC**のマルチチャンネル（外部接続のBSデジタルチューナーから）の信号が入力されると、自動的にマルチチャンネルサラウンドが「入」になります。

- **ドルビーデジタルまたはDTSを再生すると、表示窓にDDDIGITAL表示または dts 表示が点灯します。**

例:ドルビーデジタルのとき

例:DTSデジタルサラウンドのとき

- **MPEG-2 AACのマルチチャンネル信号が入力されると、表示窓に「MPEG-2 AAC」と表示されます。**

B ドルビープロロジックIIモードを使う

アナログ2チャンネル、リニアPCM*およびドルビーデジタル（2チャンネル）の音声を5.1チャンネル音声に拡張したいときに使います。

＊ リニアPCMとは、CDやDVDビデオなどに使われている2チャンネル信号です。

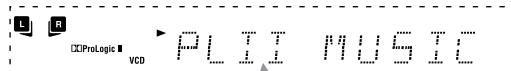
リモコン

サラウンドモードボタンを押す。

センターユニット

SURROUND（サラウンド）ボタンを押す。

押すごとに、サラウンドが次のように切り換わります。

PL II MUSIC → PL II MOVIE → PL II OFF →

- ドルビープロロジックIIモードが選ばれているときは、表示窓のDDProLogicII表示が点灯します。
- 各サウンドモードについては、33ページをご覧ください。

C DSPモードを使う

アナログ2チャンネル、リニアPCM*およびドルビーデジタル(2チャンネル)の音声を、デジタル信号処理により臨場感溢れる音場に変換することができます。

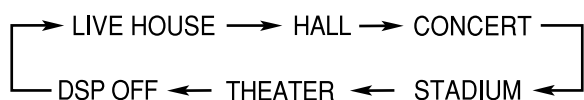
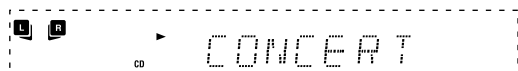
＊ リニアPCMとは、CDやDVDビデオなどに使われている2チャンネル信号です。

リモコン

DSPボタンを押す。

センターユニット

DSPボタンを押す。

押すごとに、DSPモードが次のように切り換わります。

- DSPモードは、ソース(音源)により、適切な効果を発揮できないことがあります。そのようなときは、別のDSPモードに切り換えてください。

お知らせ

サラウンドやDSPモードをお使いになるときは、以下の項目をあらかじめ正しく設定しておいてください。

- スピーカーの出力レベル(➡ 35 ページ)
- スピーカーセット(➡ 67 ページ)
- ディレイタイム(遅延時間)(➡ 67 ページ)
  すべてのスピーカーから音声が出力される設定のとき以外は、お使いになれません。

D スピーカーの出力レベルを調節する

センタースピーカー、左右リアスピーカー、サブウーハーの出力レベルを調節します。

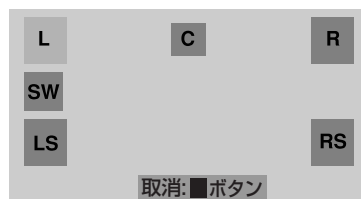
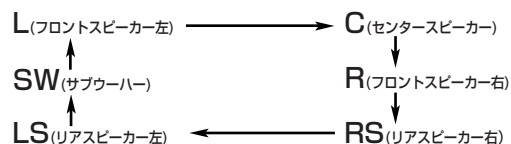
リモコンのみ

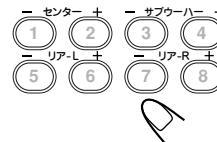
1 DVDボタンを押す

ソース(音源)が「DVD」になります。

2 サウンドボタンを押す

3 テストボタンを押す

テストトーンメニューがテレビ画面に表示されます。

つづいて、テストトーンがスピーカーごとに出力されます。出力の順番は次のとおりです。

4 出力レベルをテストトーンを聞いて調節する

テストトーンは、スピーカーごとに約3秒間ずつ、くり返し出力されます。以下のボタンを操作して、お好みの音量に調節します。

「リアスピーカー(左)」: リアーL(+/−)ボタンで調節します。
「リアスピーカー(右)」: リアーR(+/−)ボタンで調節します。
「センタースピーカー」: センター(+/−)ボタンで調節します。
「サブウーハー」: サブウーハー(+/−)ボタンで調節します。

- 各スピーカーの調節範囲は、−6dBから+6dBまでです。
- ディスクトレイにMP3ディスクが入っているときは、サブウーハーの出力レベル調節はできません。
- スピーカー音量の調節ができなくなったときは、もう一度サウンドボタンを押して本体表示窓に「SOUND」と表示させてから、行います。

5 ■(停止)ボタンを押して終了する

テストトーンメニューがテレビ画面から消えます。

お知らせ

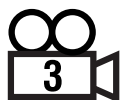
リモコンの**サウンドボタン**を押したあと、**セッティングボタン**を押すと、設定するスピーカーの構成(5.1チャンネルまたは2.1チャンネル*)が選べます。テレビ画面に「5.1ch」と表示され、ボタンを押すごとに、「2.1ch」と交互に切り換わります。

＊5.1チャンネルは、すべてのサテライトスピーカーとサブウーハー。
　2.1チャンネルは、フロントスピーカーとサブウーハー。

DVDビデオの便利な操作

DVDソフトの中には、複数の音声が収録されたものや、字幕が表示されるもの、複数のカメラを使って異なる角度から撮影した映像(マルチアングル)が複数収録されたものなどがあります。
このようなディスクのパッケージには以下のようなマークが入っています。

:複数の音声(例:日本語、英語など)が収録されています。マーク中の数字は、収録されている音声言語の数を示しています。
このようなDVDソフトを再生中は、「音声言語」を切り換えることができます。(➡ 37 ページ)

:複数の字幕(例:日本語、英語など)が収録されています。マーク中の数字は、収録されている字幕言語の数を示しています。
このようなDVDソフトを再生中は、「字幕言語」を切り換えることができます。(➡ 38 ページ)

:マルチアングルで収録されています。マーク中の数字は、収録されているマルチアングル映像の数を示しています。
このようなDVDソフトを再生中は、「マルチアングル映像」を切り換えることができます。(➡ 38 ページ)

お知らせ

操作中にテレビ画面に「⃠」が表示されたら…
その操作は無効です。以下のような理由が考えられます。

- ディスクにその操作に必要とされる情報が収録されていない。
  例: メニューを押しても、ディスクメニューが出てこない
  ➡ディスクメニューが収録されていない。
- ディスク上のプログラムで、その操作を禁止している。
  例: ディスクによって早送り、早戻し、スローモーション再生などの操作が禁止されている。
- 再生中や一時停止中は、その操作を禁止している。

ディスクの入れかた・取り出しかた、再生・停止のしかたなどの操作方法については、「DVDビデオなどのディスクを見る・聞く」(➡ 22 ページ)をご覧ください。

オンスクリーンメニューを表示する

ここでは、ディスク情報の確認、シャッフル再生・プログラム再生およびリピート再生の設定を変更するためのオンスクリーンメニューを表示します。

- ディスク再生中に操作します。

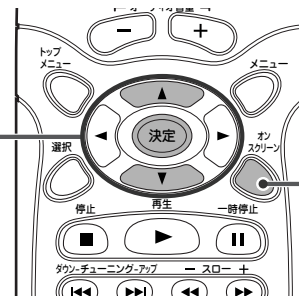
リモコンのみ

オンスクリーンボタンを押す。
オンスクリーンメニューがテレビ画面に表示されます。

再生モード	
モード	オフ
リピート	オフ
リピート A-B	⋒ オフ
OSD	オフ
OK	

オンスクリーンメニューを消すには
もう一度、**オンスクリーンボタン**を押します。

ディスクの情報をテレビ画面に表示する

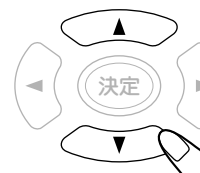
ディスクの再生中に、そのディスクに収録されているタイトル数、チャプター数、音声言語など、色々な情報を確認することができます。

リモコンのみ

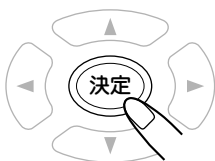
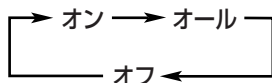
1 再生中に、オンスクリーンボタンを押す

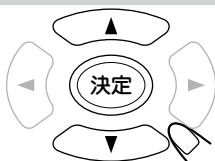
オンスクリーンメニューがテレビ画面に表示されます。

再生モード	
モード	オフ
リピート	オフ
リピート A-B	⋒ オフ
OSD	オフ
OK	

2 カーソルボタン(▲/▼)を押して「OSD」を選ぶ

再生モード	
モード	オフ
リピート	オフ
リピート A-B	⋒ オフ
OSD	オフ
OK	

3 決定ボタンをくり返し押して表示させたいディスク情報を選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

4 カーソルボタン(▲/▼)を押して「OK」を選び、決定ボタンを押す

オンスクリーンメニューが消えて、ディスクの情報が画面に表示されます。

■ ディスク情報の画面

OSD:「**オン**」のとき

① 00:01:16 01:40:45

OSD:「**オール**」のとき

① ：**現在再生中の経過再生時間と残り時間**

② ：**ディスクの種類**

③ ：**現在再生中のタイトル番号とディスクの総タイトル数**
例：15タイトル中の最初のタイトルを再生中のとき

④ ：**音声言語**(➡ 37 ページ)
例：3つの音声言語中のひとつめの音声が選ばれているとき

⑤ ：**現在再生中のチャプター番号と再生中のタイトルに収録されているチャプター数**
例：10チャプター中の2番目のチャプターを再生中のとき

⑥ ：**字幕**(➡ 38 ページ)
例：「Off」のとき

⑦ ：**音声録音方式の種類**ードルビーデジタル、DTS、リニアPCM(ステレオ)とサンプリング周波数を表示します。
例：ドルビーデジタル 5.1チャンネルのディスクを再生中のとき

⑧ ：**マルチアングル映像**(➡ 38 ページ)
例：収録されている3つのうちの最初の映像を再生中のとき

設定の変更を中止したいときは

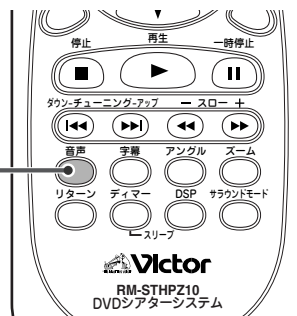
手順**4**で**決定ボタン**を押す前に次の操作を行います。
もう一度、**オンスクリーンボタン**を押してオンスクリーンメニューを消す。

ディスク情報の画面を消すには

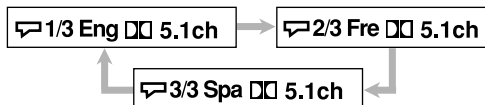
オンスクリーンボタンをくり返し押す。

音声を選ぶ [音声言語]

外国映画のソフトなど、複数の音声が収録されているときは、お好みの音声を選ぶことができます。

リモコンのみ

1 再生中に、音声ボタンを押す

現在の音声言語がテレビ画面に表示されます。
音声言語が表示されている間にボタンを押すと、次のように切り換わります。

例：3つの音声言語(英語、フランス語、スペイン語)がディスクに収録されているとき

しばらくすると、音声言語の表示は自動的に消えます。

お知らせ

- 初期設定で、日本語や英語などの音声でディスク再生が始まるように設定しておくこともできます。(➡ 64 ページ)

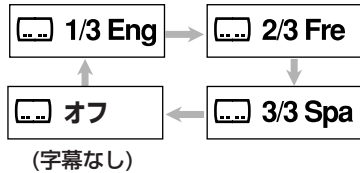
字幕を選ぶ ［字幕言語］

外国映画のソフトなど、字幕を表示できるときは、字幕の種類（または字幕なし—Off）を選ぶことができます。

リモコンのみ

1 再生中に、字幕ボタンを押す

現在の字幕言語がテレビ画面に表示されます。
字幕言語が表示されている間にボタンを押すと、次のように切り換わります。

例：3つの字幕言語(英語、フランス語、スペイン語)が収録されているとき

しばらくすると、字幕言語の表示は自動的に消えます。

お知らせ

- 初期設定メニューで、日本語や英語などの字幕でディスク再生が始まるように設定しておくこともできます。（➡ 64 ページ）

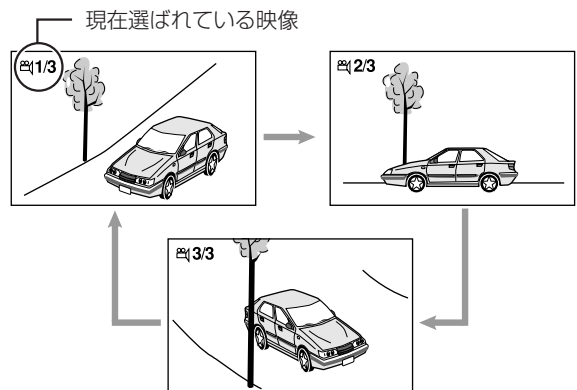
映像のアングルを変える ［アングル］

音楽ライブソフトなどには、複数のカメラを使って異なる角度から撮影した映像（マルチアングル）が複数収録されたものがあります。このようなディスクを再生するときには、どの角度からの映像を見るか選ぶことができます。

リモコンのみ

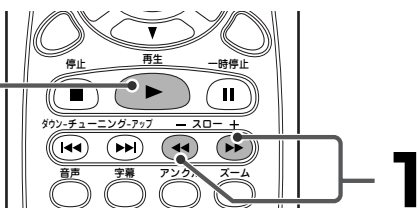
1 再生中に、アングルボタンを押す

現在のアングル/マルチアングル映像の数がテレビ画面に表示されます。
表示されている間にボタンを押すと、次のように切り換わります。

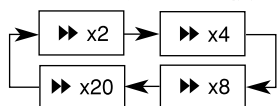
例：3つのマルチアングル映像が収録されているとき

見たい映像を選ぶ・探す

映像を見ながら探す

再生する速度を変えて、見たい場面へ素早く移動することができます（可変速再生）。

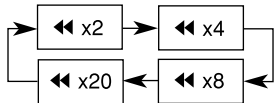
リモコンのみ

■可変速再生で先の映像へ進む

1 再生中に、►►ボタンを押す

現在の再生速度がテレビ画面に表示されます。
ボタンを押すごとに、再生速度が切り換わります。

・可変速再生では、音声は聞こえなくなります。

■可変速再生で前の映像へ戻る

1 再生中に、◄◄ボタンを押す

現在の再生速度がテレビ画面に表示されます。
ボタンを押すごとに、再生速度が切り換わります。

・可変速再生では、音声は聞こえなくなります。

通常の再生（正方向）に戻すには

►**（再生）ボタン**を押す。

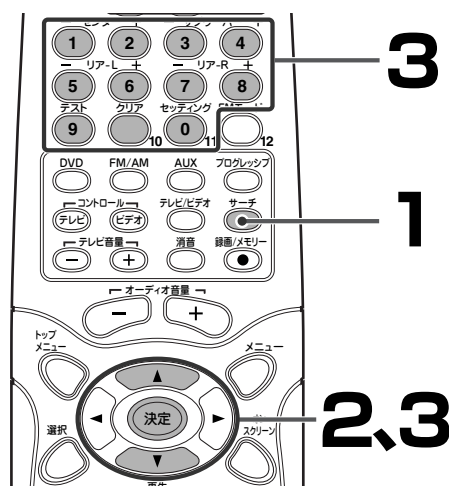
他のチャプターへスキップする

前後のチャプターの頭へスキップすることができます。

再生中に、I◄◄または►►Iボタンを押す

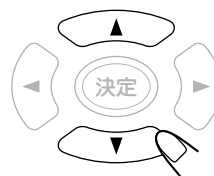
- **先のチャプターへスキップするには**
  リモコンまたはセンターユニットの►►I**ボタン**をくり返し押します。
  テレビ画面に►►I スキップ（表示窓には選んだチャプター番号が）表示され、再生が始まります。
- **手前のチャプターへスキップするには**
  リモコンまたはセンターユニットのI◄◄**ボタン**をくり返し押します。
  テレビ画面にI◄◄ スキップ（表示窓には選んだチャプター番号が）表示され、再生が始まります。
- **現在再生しているチャプターの頭へスキップするには**
  リモコンまたはセンターユニットのI◄◄**ボタン**を1回だけ押します。

時間、タイトル、チャプターを指定して選ぶ ［サーチ］

リモコンのみ

1 再生中に、サーチを押す

設定メニューがテレビ画面に表示されます。

- **時間**　：現在のタイトルの経過時間を指定します。
- **タイトル**　：タイトル番号を指定します。
- **チャプター**　：チャプター番号を指定します。

2 カーソルボタン（▲/▼）を押して項目を選ぶ

3 数字ボタン（1〜9、0）を押して番号や経過時間を指定し、決定ボタンを押す

指定したタイトル、チャプター、または経過時間の場面から再生されます。

タイトル番号やチャプター番号を指定するには

・1ケタの番号を指定する場合
　1〜9を押す。その後、しばらく待つか、**決定ボタン**を押す。

・2ケタの番号を指定する場合
　10の位の数字を押してから、1の位の数字を押す。
　例：11番を選ぶとき、「1」➡「1」と押す。
　　　20番を選ぶとき、「2」➡「0」と押す。

経過時間を指定するには

・「00:45:23」（45分23秒）を指定する場合
　「4」➡「5」➡「2」➡「3」➡**決定ボタン**の順に押す。

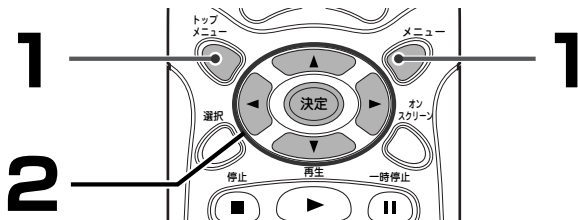
・「01:23:05」（1時間23分05秒）を指定する場合
　「1」➡「2」➡「3」➡「0」➡「5」➡**決定ボタン**の順に押す。

・数字を押し間違えたときは、**クリアボタン**を押します。

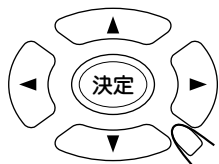
見たい映像を選ぶ・探す(つづき)/順番を変えて再生する

ディスクメニューで選ぶ
[メニュー/トップメニュー]

DVDには、通常メニュー画面が収録されています。
メニューの内容はさまざまで、映画のタイトルや曲目、またはアーティスト情報などが収録されています。このメニュー画面から見たいところを選ぶことができます。

リモコンのみ

1 再生中に、メニューボタンまたはトップメニューボタンを押す

ディスクに収録されているメニューが、テレビ画面に表示されます。

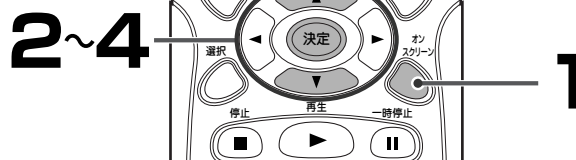
2 カーソルボタン(▲/▼/◄/►)を押して見たい項目を選び、決定ボタンを押す

選んだ項目から再生されます。
- メニュー画面によっては、数字ボタンでも選ぶことができます。

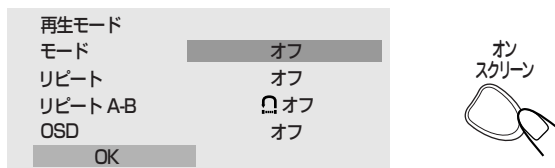
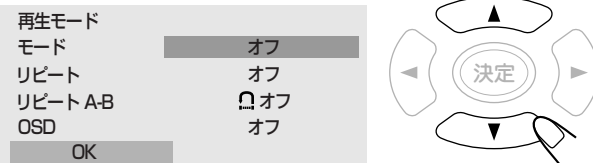
メニューボタンとトップメニューボタンの使い分け

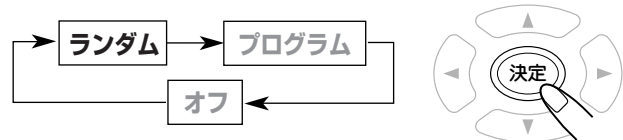
複数のタイトルが収録されているディスクは、タイトル名のリストが表示されるなど目次のような役割を持ったメニュー画面が収録されていることがあります。このようなときには、**トップメニューボタン**を押します。
また、複数のタイトルが収録されていないディスクでも何らかのメニュー画面が収録されていることがあります。このようなときには、**メニューボタン**を押します。収録されているメニュー画面が表示されます。
- 各ディスクのメニュー構成については、ディスクの説明書をご覧ください。

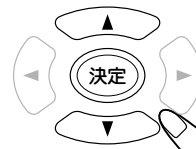
タイトル内のチャプターをランダムに再生する [ランダム再生]

本システムが次に再生するチャプターを選び、ランダムに再生します。
- ランダム再生では、同じチャプターは一度しか再生されません。

リモコンのみ

1 再生中に、オンスクリーンボタンを押す

オンスクリーンメニューがテレビ画面に表示されます。

2 カーソルボタン(▲/▼)を押して「モード」を選ぶ

3 決定ボタンをくり返し押して「ランダム」を選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

- 「プログラム」が選ばれているときにプレイモードを切り換えると、プログラムは取り消されます。

4 カーソルボタン(▲/▼)を押して「OK」を選び、決定ボタンを押す

5 ►(再生)ボタンを押す

ランダム再生が始まります。

ランダム再生を解除するには

1. 手順**3**で**決定ボタン**をくり返し押して、「オフ」を選ぶ。
2. **カーソルボタン(▲/▼)**を押して「OK」を選び、**決定ボタン**を押す。

ランダム再生中に、**■(停止)ボタン**を押しても解除されます。

プログラムを予約・再生する ［プログラム再生］

ディスクのチャプターを好きな順番で再生できます。
12ステップまで予約できます。

リモコンのみ

1 再生中に、オンスクリーンボタンを押す

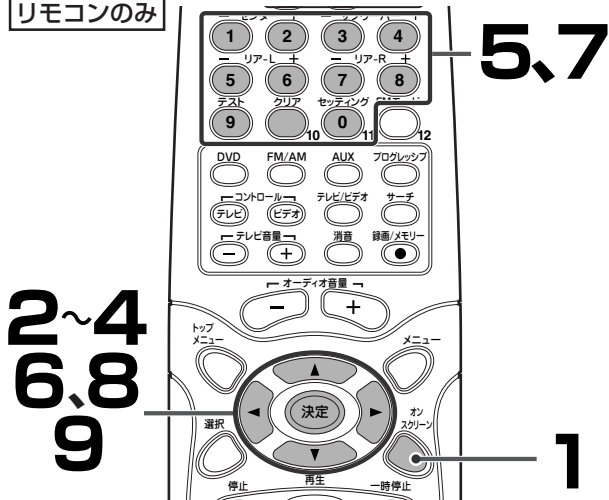
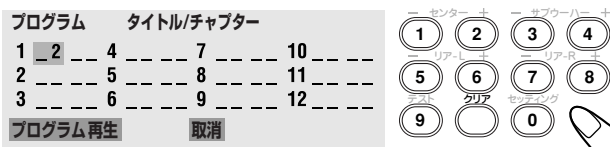
オンスクリーンメニューがテレビ画面に表示されます。

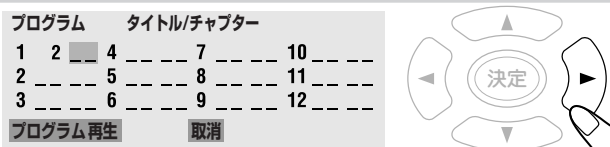
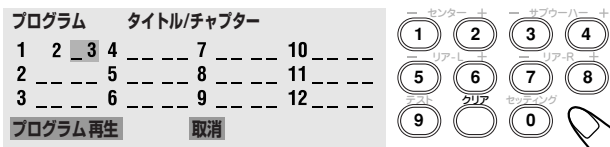
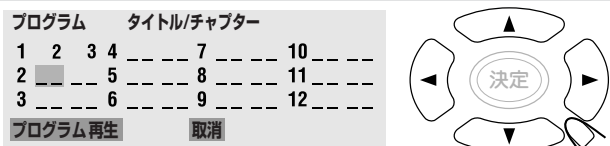
2 カーソルボタン(▲/▼)を押して「モード」を選ぶ

3 決定ボタンをくり返し押して「プログラム」を選ぶ

ボタンを押すごとに、
次のように切り換わります。

4 カーソルボタン(▲/▼)を押して「OK」を選び、決定ボタンを押す

テレビ画面に設定画面が表示されます。

5 数字ボタンを押してタイトル番号を予約する

数字入力について
例：タイトル番号［5］を入力するときは、「5」を押す。
タイトル番号［10］を入力するときは、「1」➡「0」の順に押す。
押し間違えたときは、**クリアボタン**を押す。

6 カーソルボタンの(►)を押してカーソルをチャプター番号欄へ移す

7 数字ボタンを押してチャプター番号を予約する

8 カーソルボタン(▲/▼/◄/►)を押して次に再生したいプログラム番号を選ぶ

9 手順5から手順7をくり返し、他の番号を予約する

10 カーソルボタン(▲/▼/◄/►)を押して「プログラム再生」を選び、決定ボタンを押す

テレビ画面の設定画面が消えて、センターユニットの表示窓にPROG表示が点灯します。予約した順番で再生されます。

プログラム再生を途中で停止するには

■(停止)ボタンを押します。
- 再び再生したいときは**►(再生)ボタン**を押します。途中で停止したところから再生が始まります。

プログラム再生を解除するには

1. 手順**3**で**決定ボタン**をくり返し押して、「オフ」を選ぶ。
2. **カーソルボタン(▼)**を押して「OK」を選び、**決定ボタン**を押す。
- プログラム再生を解除すると、プログラムの内容は消去されます。

プログラムを追加・変更するには

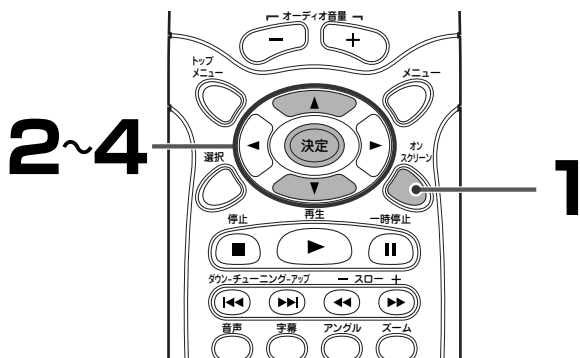
1. 手順**5**から手順**7**で、**カーソルボタン(▲/▼/◄/►)** を押して追加または変更したい番号欄へカーソルを移し、新しい番号を入力する。
2. **カーソルボタン(▼)**を押して「プログラム再生」を選び、**決定ボタン**を押す。

プログラムを取り消すには

手順**4**で**カーソルボタン(►)**を押して「取消」を選び、**決定ボタン**を押す。

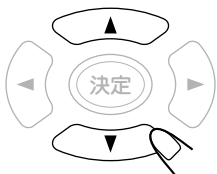
見たい映像をくり返す

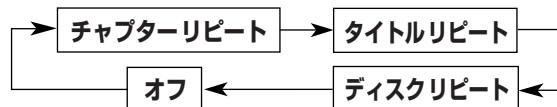
タイトルやチャプターをくり返す [リピート]

再生中のタイトルやチャプターをリピート(くり返し)再生できます。

リモコンのみ

1 再生中に、オンスクリーンボタンを押す

オンスクリーンメニューが
テレビ画面に表示されます。

2 カーソルボタン(▲/▼)を押して「リピート」を選ぶ

3 決定ボタンを押す

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

- リピートを設定すると、センターユニットの表示窓にリピート表示*が点灯します。

＊各リピートとリピート表示は下記をご覧ください。

- **チャプターリピート**　：現在のチャプターをくり返し再生します。表示窓に「REPEAT 1」表示が点灯します。
- **タイトルリピート**　：現在のタイトルをくり返し再生します。表示窓に「REPEAT」表示が点灯します。
- **ディスクリピート**　：現在のディスクをくり返し再生します。表示窓に「REPEAT」表示が点灯します。
- **オフ**　：リピートを解除します。

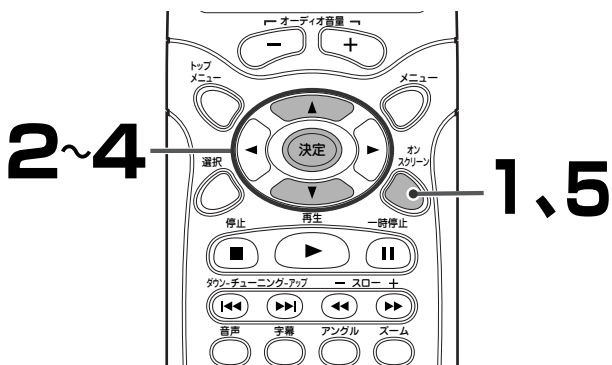
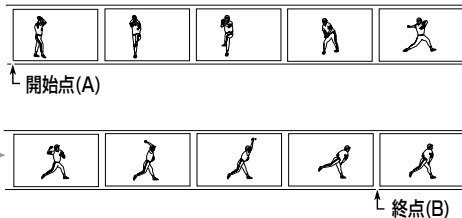
4 カーソルボタン(▼)を押して「OK」を選び、決定ボタンを押す。

リピートを解除するには

1. 手順**3**で**決定ボタン**をくり返し押して、「オフ」を選ぶ。
2. **カーソルボタン(▼)**を押して「OK」を選び、**決定ボタン**を押す。

指定した範囲をくり返す [A-Bリピート]

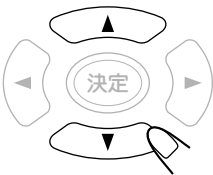
再生中に範囲を指定して、見たい(聞きたい)部分をくり返し再生できます。語学の学習などに便利です。

リモコンのみ

例:

1 再生中に、オンスクリーンボタンを押す

オンスクリーンメニューがテレビ画面に表示されます。

再生モード	
モード	オフ
リピート	オフ
リピート A-B	Ω オフ
OSD	オフ
OK	

2 カーソルボタン(▲/▼)を押して「リピート A-B」を選ぶ

再生モード	
モード	オフ
リピート	オフ
リピート A-B	Ω オフ
OSD	オフ
OK	

3 再生中に、くり返しを始めたい部分で、決定ボタンを押す

くり返したい部分の最初のところが、開始点(A)として記憶されます。

- センターユニットの表示窓に「A-」と、テレビ画面には「ΩA-」と表示されます。

4 くり返したい部分の終わりで、もう一度決定ボタンを押す

くり返す部分の最後のところが、終点(B)として記憶されます。

- センターユニットの表示窓に「A-B」表示が点灯し、A-B間がくり返し再生されます。

5 オンスクリーンボタンを押す

オンスクリーンメニューがテレビ画面から消えます。

A-Bリピートを解除するには

1. 手順**3**で**決定ボタン**をくり返し押して「Ωオフ」を選ぶ。
2. **カーソルボタン(▼)**を押して「OK」を選び、**決定ボタン**を押す。

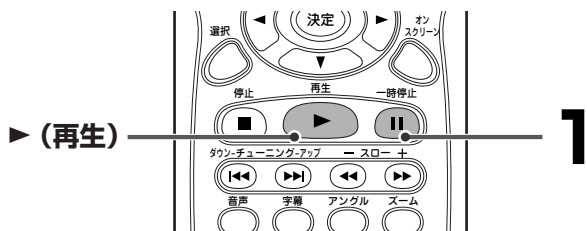
お知らせ

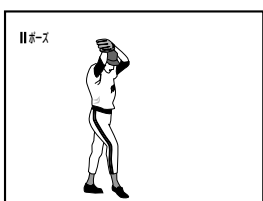
- 2つのタイトルにまたがるA-Bリピートはできません。
- プログラム再生中は、A-Bリピートはできません。
- A-Bリピートは、リピート(チャプターリピート、タイトルリピートおよびディスクリピート)とは同時に設定できません。

DVDビデオの特殊再生

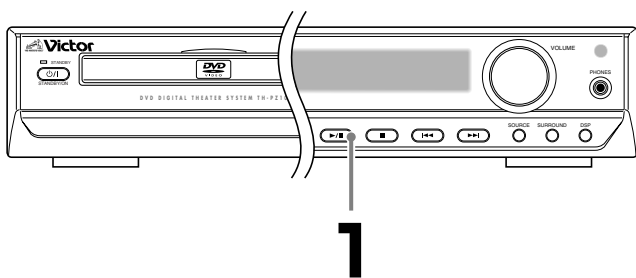
静止画を再生する ［静止画］

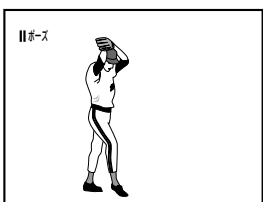
再生を一時停止して、静止画を再生できます。

リモコン

1 再生中に、II（一時停止）ボタンを押す

映像が静止します。（音声も聞こえなくなります）

通常の再生に戻すには

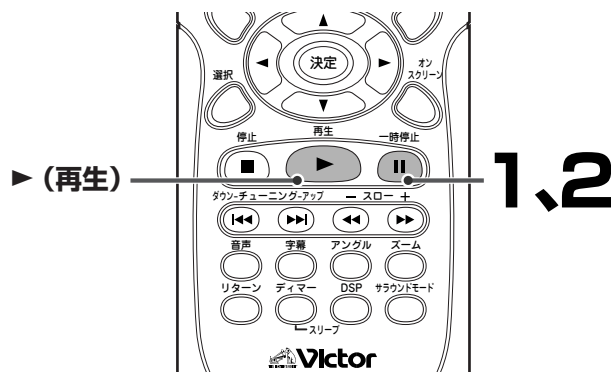
►（再生）ボタンを押します。

センターユニット

1 再生中に、►/II（再生/一時停止）ボタンを押す

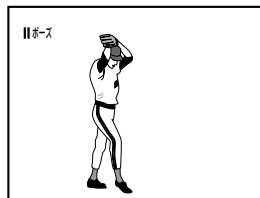
映像が静止します。（音声も聞こえなくなります）

通常の再生に戻すには

もう一度►/II（再生/一時停止）ボタンを押します。

コマ送りで再生する

静止中の映像をコマ送りで再生できます。

リモコンのみ

1 再生中に、II（一時停止）ボタンを押す

映像が静止します。（音声も聞こえなくなります）

2 II（一時停止）ボタンをくり返し押す

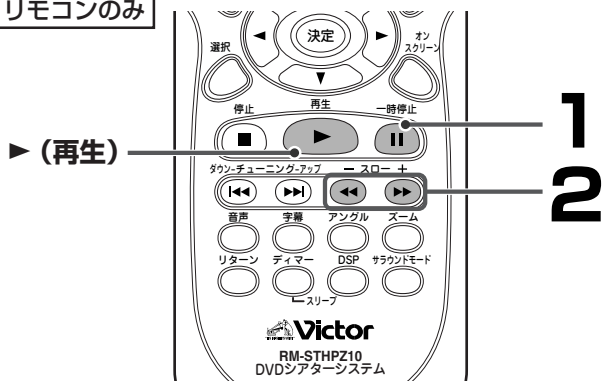
押すごとに、静止画が次のフレームに進みます。

通常の再生に戻すには

►（再生）ボタンを押します。

スローモーションで再生する [スロー]

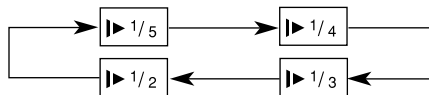
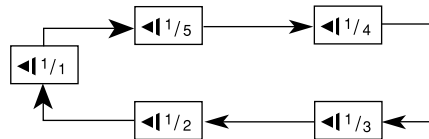
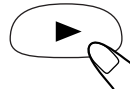
連続したシーンをゆっくり再生できます。

・スローモーションで再生すると、音声は聞こえなくなります。

リモコンのみ

1 再生中にスローモーションで見たいところで、II(一時停止)ボタンを押す

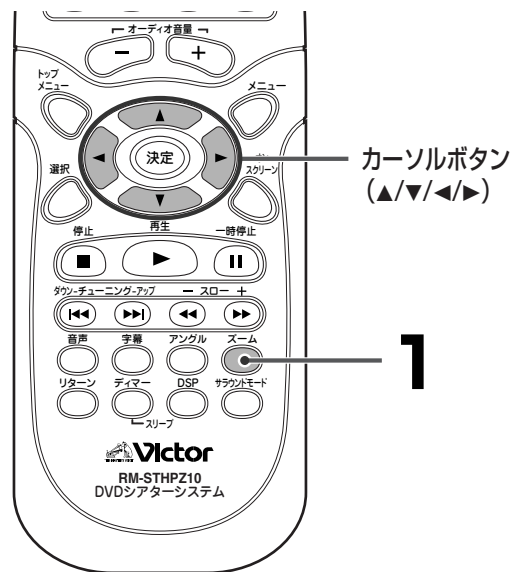
映像が静止します。

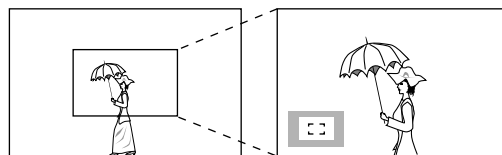
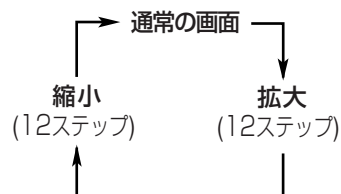
2 スロー(＋)ボタンまたはスロー(－)ボタンを押す

ボタンを押すごとに、再生速度が次のように切り換わります。

逆方向のスローモーションを再生する場合は、次のように切り換わります。

通常の再生に戻すには

►(再生)ボタンを押します。

映像を拡大・縮小する [ズーム]

再生中や静止画中に映像の一部を拡大・縮小できます。

リモコンのみ

1 拡大したいところで、ズームボタンを押す

ボタンを押すごとに、画面が拡大または縮小されます。
ズーム倍率は12ステップの範囲で拡大または縮小されます。

・画像が拡大されているときに**カーソルボタン(▲/▼/◄/►)**を押すと、ご覧になりたい部分に画面を動かすことができます。

拡大または縮小を解除するには

►(再生)ボタンを押します。

ビデオCDやCDの便利な操作

ディスクの入れかた·取り出しかた、再生·停止のしかたなどの操作方法については、「DVDビデオなどのディスクを見る·聞く」(➡22ページ)をご覧ください。

お知らせ

操作中にテレビ画面に「⃠」が表示されたら…
その操作は無効です。以下のような理由が考えられます。
- ディスクにその操作に必要とされる情報が収録されていない。
- ディスク上のプログラムで、その操作を禁止している。
  例: ディスクによって早送り、早戻し、スローモーション再生などの操作が禁止されている。
- 再生中や一時停止中は、その操作を禁止している。

オンスクリーンメニューを表示する

ここでは、ディスク情報の確認、ランダム再生·プログラム再生およびリピート再生の設定を変更するためのオンスクリーンメニューを表示します。
- ディスクを再生中に操作します。

リモコンのみ

オンスクリーンボタンを押す。
オンスクリーンメニューがテレビ画面に表示されます。

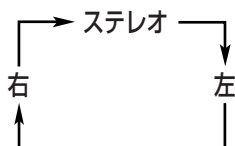
再生モード	
モード	オフ
リピート	オフ
リピート A-B	⩍オフ
OSD	オフ
OK	

オンスクリーンメニューを消すには
もう一度、**オンスクリーンボタン**を押します。

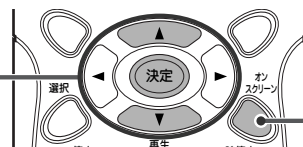
音声チャンネルを切り換える

ビデオCDやCDを再生中、通常のステレオ再生のほか、左右の音声チャンネルを切り換え、それぞれの音声チャンネルの音声をモノラルでフロントスピーカー(左右)に振り分けて再生することができます。

リモコンのみ

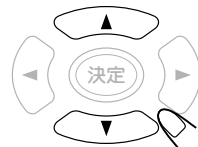
音声ボタンをくり返し押す。
ボタンを押すごとに、音声チャンネルがテレビ画面に表示され、次のように切り換わります。

- サラウンドやDSPモードをお使いのときには、音声チャンネルの切り換えはできません。
- ディスクによっては、音声チャンネルの切り換えができないことがあります。

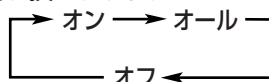
ディスクの情報をテレビ画面に表示する

ディスクの再生中に、そのディスクに収録されているトラック数など色々な情報を確認することができます。

リモコンのみ

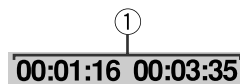
1 再生中に、オンスクリーンボタンを押す

オンスクリーンメニューがテレビ画面に表示されます。

2 カーソルボタン(▲/▼)を押して「OSD」を選ぶ

3 決定ボタンをくり返し押して表示させたいディスク情報を選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

4 カーソルボタン(▲/▼)を押して「OK」を選び、決定ボタンを押す

オンスクリーンメニューが消えて、ディスク情報の画面が表示されます。

■ ディスク情報の画面

① :**現在再生中のトラックの経過時間と残り時間**
② :**ディスクの種類とビデオCDのバージョン番号**
・ビデオCDのバージョン番号が表示されるのは、ビデオCDが挿入されたときのみです。
③ :**現在再生中のトラック番号とディスクの総トラック数**
例: 15トラック中の最初のトラックを再生中のとき

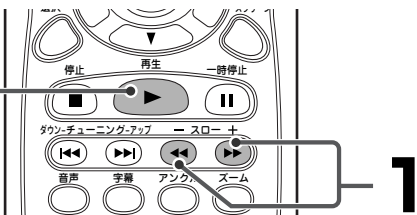
設定の変更を中止したいときは
手順**4**で**決定ボタン**を押す前に次の操作を行います。
オンスクリーンボタンを押してオンスクリーンメニューを消す。

ディスク情報の画面を消すには
オンスクリーンボタンをくり返し押す。

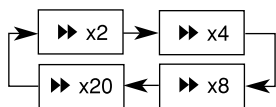
見たい映像や聞きたい曲を選ぶ・探す

再生しながら探す

再生する速度を変えて、見たい場面や聞きたいフレーズに素早く移動できます（可変速再生）。

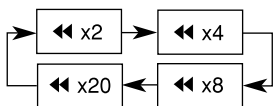
リモコンのみ

■先へ進む

1 再生中に、►►ボタンを押す

ボタンを押すごとに、再生速度が切り換わります。

• ビデオCDの可変速再生中は、音声は聞こえなくなります。

■前へ戻る

1 再生中に、◄◄ボタンを押す

ボタンを押すごとに、再生速度が切り換わります。

• ビデオCDの可変速再生中は、音声は聞こえなくなります。

通常の再生に戻すには

►**(再生)ボタン**を押します。

他のトラックへスキップする

前後のトラックの頭へスキップすることができます。

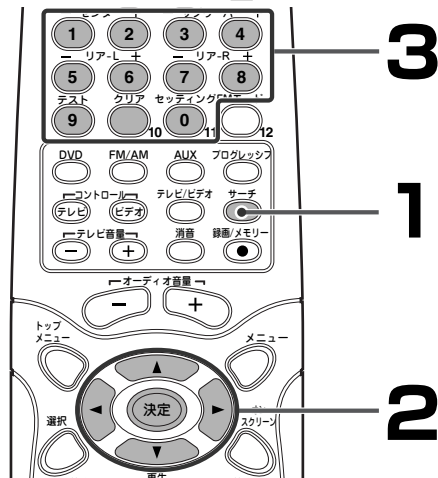
再生中に、I◄◄または►►Iボタンを押す

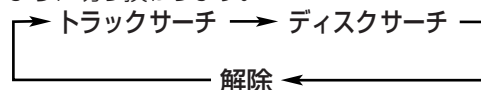
• **先のトラックへスキップするには**
  リモコンまたはセンターユニットの►►I**ボタン**をくり返し押します。
  テレビ画面に►►I スキップ（表示窓には選んだチャプター番号が）表示され、再生が始まります。
• **手前のトラックへスキップするには**
  リモコンまたはセンターユニットのI◄◄**ボタン**をくり返し押します。
  テレビ画面にI◄◄ スキップ（表示窓には選んだチャプター番号が）表示され、再生が始まります。
• **現在再生しているトラックの頭へスキップするには**
  リモコンまたはセンターユニットのI◄◄**ボタン**を1回だけ押します。

時間やトラック番号を指定して選ぶ ［サーチ］

トラックの経過時間を指定して、お好みの位置から再生できます。

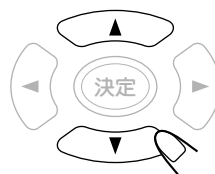
• この操作をするとビデオCDのPBC機能（➡48ページ）は解除されます。

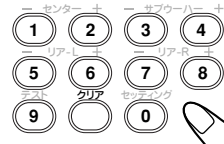
リモコンのみ

1 再生中、または一時停止のときにサーチボタンを押す

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

→ トラックサーチ → ディスクサーチ → 解除

2 カーソルボタン（▲/▼）を押して項目を選ぶ（ディスクサーチのみ）

トラックサーチ
• **時間**　：トラックの特定部分を経過時間で指定します。

ディスクサーチ
• **時間**　：ディスクの特定部分を経過時間で指定します。
　⬍
• **トラック**：特定のトラックをトラック番号で指定します。

3 数字ボタンを押してご希望の経過時間またはトラック番号を指定し、決定ボタンを押す

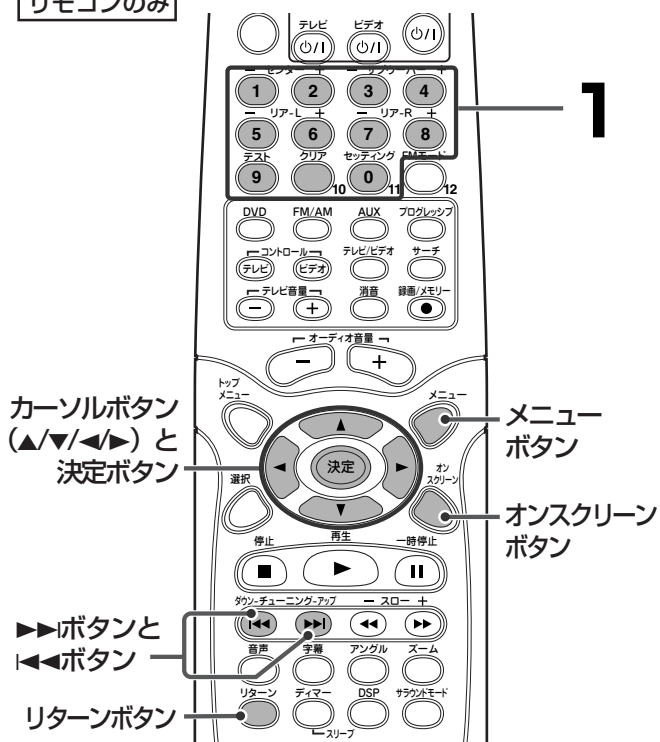
指定した経過時間、またはトラック番号の位置から再生されます。

• 「02:34」（2分34秒）を指定するには：
  2➡3➡4➡決定の順に押す。
• 「45:03」（45分03秒）を指定するには：
  4➡5➡0➡3➡決定の順に押す。
• 数字を押し間違えたときは、**クリアボタン**を押します。

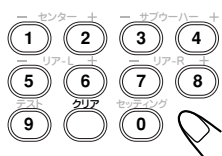
ご注意

停止中はディスクサーチに限り選べます。

ディスクメニューで選ぶ (ビデオCDのみ)

ビデオCD(バージョン2.0)には、PBC機能と呼ばれる「メニュー再生機能」(Playback Control)が付いているディスクがあります。この機能があるときは、画面の指示にしたがって階層を進みながら再生できます。PBC対応のディスクを再生すると、通常の場合、最初にメニュー画面を表示します。メニュー画面に表示された項目や番号を選んで次の画面に進んでいきます。

リモコンのみ

1 ディスクメニューが表示されたら、数字ボタンを押して、再生したい項目を選ぶ

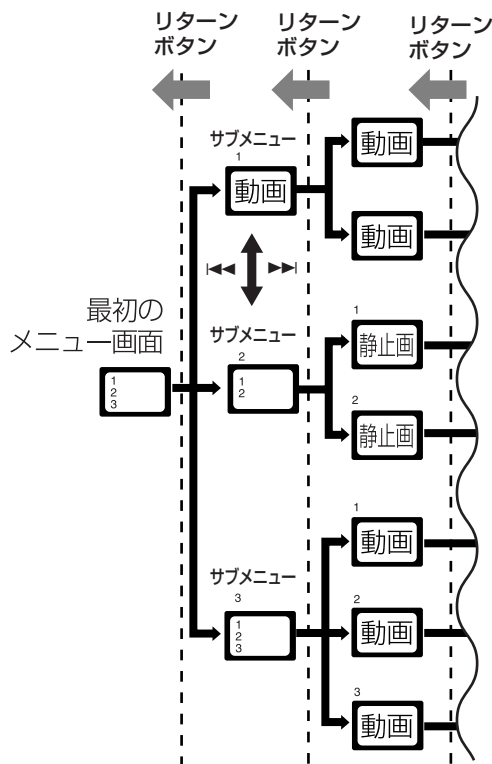
選んだ項目が再生されます。

- **画面に[次へ]または[前へ]などという表示があるときは**
  ▶▶|ボタンを押すと、画面に「▶▶|Next」と表示され、次のサブメニューへ進みます。
  |◀◀ボタンを押すと、画面に「|◀◀Prev」と表示され、前のサブメニューへ戻ります。

操作方法はディスクによって異なります。

数字入力について

例: タイトル番号 [5]を入力するときは、「5」を押す。
タイトル番号[10]を入力するときは、「1」➡「0」の順に押す。
押し間違えたときは、**クリアボタン**を押す。

■ プレイバックコントロール(PBC)機能

メニュー再生機能の基本的な流れは、下図のようになります。

・次のサブメニューへ進むときは、▶▶|**ボタン**を押します。
・前のサブメニューへ進むときは、|◀◀**ボタン**を押します。
・上位階層に戻るときは、**リターンボタン**を押します。

自動的にPBC再生するには

PBC機能付きのビデオCDを再生すると、自動的にPBC再生が始まります(お買い上げ時の設定)。
PBC機能付きのビデオCDを入れてもPBC再生が始まらないときは、次の操作を行います。

リモコンのみ

1. **オンスクリーンボタン**を押す。
2. **カーソルボタン(▲/▼)**を押して「モード」を選ぶ。
3. **決定ボタン**を押して「PBC」を選ぶ。
4. **カーソルボタン(▲/▼)**を押して「OK」を選び、**決定ボタン**を押す。

- ランダム再生、プログラム再生、リピート再生を選ぶと、PBC機能は解除されます。

PBC機能を使わないときは

PBC機能付きのディスクでも、PBC機能を使わないで、収録されているトラックを連続して再生できます。
PBC機能を使わないで再生したいときは、次の操作を行います。

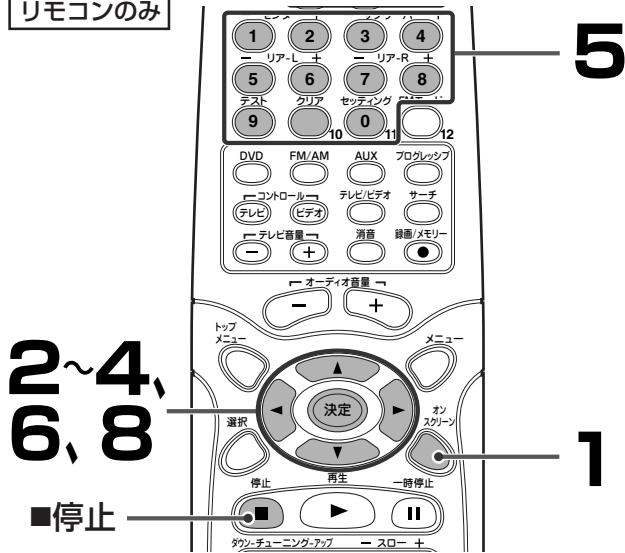
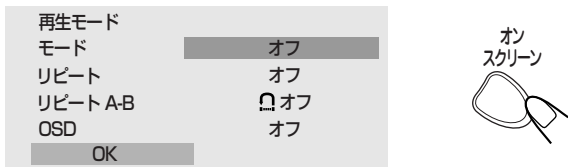
リモコンのみ

メニューボタンを押す。
ボタンを押すごとに、PBC機能が次のように「入」⟷「切」します。

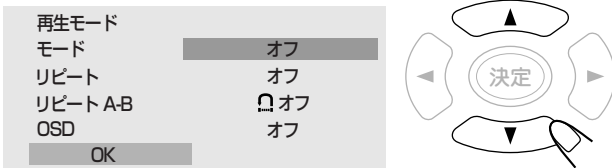
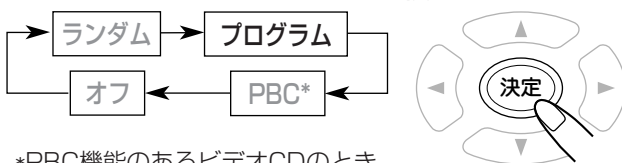
PBC オン ⟷ PBC オフ

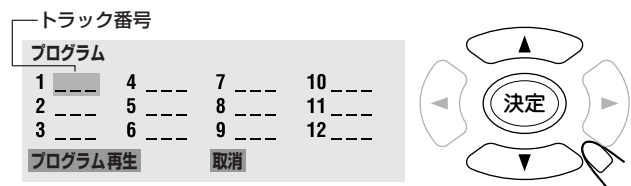
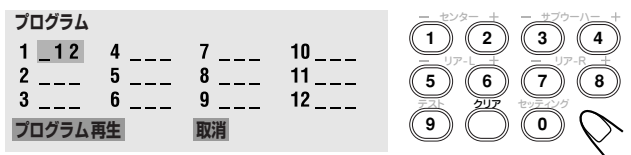
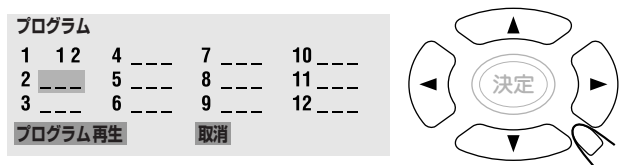
順番を変えて再生する

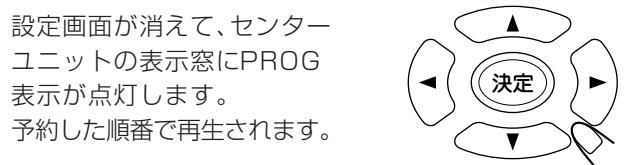
プログラムを予約・再生する
[プログラム再生]

トラックを好きな順番で再生できます。
12ステップまで予約できます。
・この操作をするとPBC機能(➡48ページ)は解除されます。

リモコンのみ

1 再生中に、オンスクリーンボタンを押す
オンスクリーンメニューがテレビ画面に表示されます。

2 カーソルボタン(▲/▼)を押して「モード」を選ぶ

3 決定ボタンをくり返し押して「プログラム」を選ぶ
ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

*PBC機能のあるビデオCDのとき のみ表示されます。

4 カーソルボタン(▲/▼)を押して「OK」を選び、決定ボタンを押す
設定画面が表示されます。

5 数字ボタンを押してトラック番号を予約する

6 カーソルボタン(▲/▼/◄/►)を押して次に再生したいプログラム番号を選ぶ

7 手順5と手順6をくり返して他のトラック番号を予約する

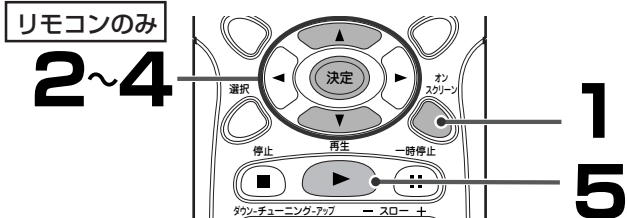
8 カーソルボタン(▲/▼/◄/►)を押して「プログラム再生」を選び、決定ボタンを押す
設定画面が消えて、センターユニットの表示窓にPROG表示が点灯します。
予約した順番で再生されます。

プログラム再生を途中で停止するには
■(停止)ボタンを押します。
・ 再び再生したいときは►(再生)ボタンを押します。途中で停止したところから再生が始まります。

プログラム再生を解除するには
1. 手順**3**で**決定ボタン**をくり返し押して、「オフ」を選ぶ。
2. **カーソルボタン(▼)**を押して「OK」を選び、**決定ボタン**を押す。
・ プログラム再生を解除すると、プログラム内容は消去されます。

プログラムを追加・変更するには
1. 手順**5**から手順**7**で、**カーソルボタン(▲/▼/◄/►)**を押して追加または変更したい番号欄へカーソルを移し、新しい番号を入力する。
2. **カーソルボタン(▼)**を押して「プログラム再生」を選び、**決定ボタン**を押す。

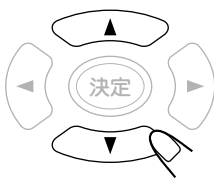
プログラムを取り消すには
手順**4**で**カーソルボタン(►)**を押して「取消」を選び、**決定ボタン**を押す。

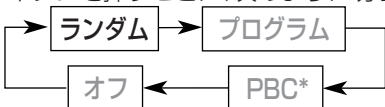
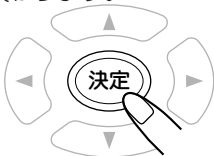
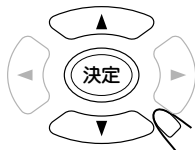
ディスク内のトラックをランダムに再生する　[ランダム再生]

本システムが次に再生するトラックを選び、ランダムに再生します。
- ランダム再生では、同じトラックは一度しか再生されません。
- この操作をするとPBC機能(➡48ページ)は解除されます。

リモコンのみ

1 再生中に、オンスクリーンボタンを押す

オンスクリーンメニューがテレビ画面に表示されます。

2 カーソルボタン(▲/▼)を押して「モード」を選ぶ

3 決定ボタンをくり返し押して「ランダム」を選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

*PBC機能のあるビデオCDのときのみ表示されます。

4 カーソルボタン(▲/▼)を押して「OK」を選び、決定ボタンを押す

5 ►(再生)ボタンを押す

ランダム再生が始まります。

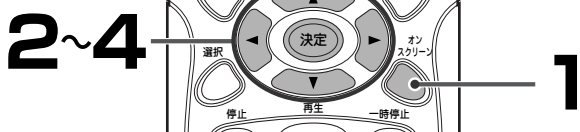
ランダム再生を解除するには

1. 手順**3**で**決定ボタン**をくり返し押して、「オフ」を選ぶ。
2. **カーソルボタン(▲/▼)**を押して「OK」を選び、**決定ボタン**を押す。

ランダム再生中に、**■(停止)ボタン**を押しても解除されます。

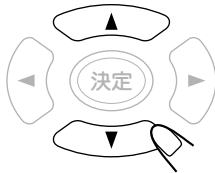
見たい映像や聞きたいところをくり返す

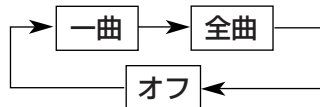
トラックをくり返す ［リピート］

再生中のディスクやトラックをリピート(くり返し)再生できます。

リモコンのみ

1 再生中に、オンスクリーンボタンを押す

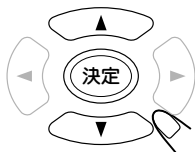
オンスクリーンメニューがテレビ画面に表示されます。

2 カーソルボタン(▲/▼)を押して「リピート」を選ぶ

3 決定ボタンを押す

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

- リピートを設定すると、センターユニットの表示窓にリピート表示*が点灯します。

＊各リピートとリピート表示は下記をご覧ください。

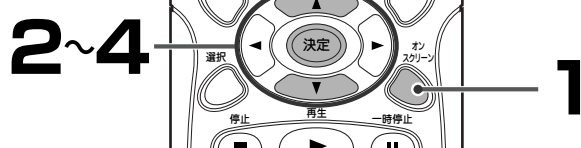
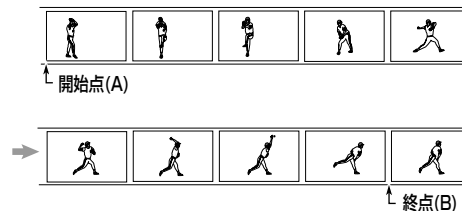
- **一曲**　：現在のトラックをくり返し再生します。表示窓に「REPEAT 1」と表示されます。
- **全曲**　：ディスクをくり返し再生します。表示窓に「REPEAT」と表示されます。
- **オフ**　：リピートを解除します。

4 カーソルボタン(▲/▼)を押して「OK」を選び、決定ボタンを押す。

リピートを解除するには

1. 手順**3**で**決定ボタン**をくり返し押して、「オフ」を選ぶ。
2. **カーソルボタン(▲/▼)**を押して「OK」を選び、**決定ボタン**を押す。

- プログラム再生中やビデオCDのPBC再生中は、リピートできません。

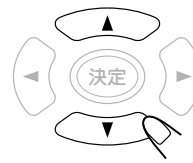
指定した範囲をくり返す ［A-Bリピート］

再生中に範囲を指定して、見たい(聞きたい)部分をリピート(くり返し)再生できます。語学の学習などに便利です。

リモコンのみ

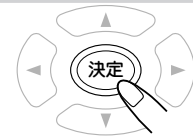
1 再生中に、オンスクリーンボタンを押す

オンスクリーンメニューがテレビ画面に表示されます。

再生モード
モード　オフ
リピート　オフ
リピート A-B　オフ
OSD　オフ
OK

2 カーソルボタン(▲/▼)を押して「リピート A-B」を選ぶ

3 再生中に、くり返しを始めたい部分で、決定ボタンを押す

くり返したい部分の最初のところが、開始点(A)として記憶されます。

•テレビ画面に「A-」と表示されます。

4 くり返したい部分の終わりで、もう一度決定ボタンを押す

くり返す部分の最後のところが、終点(B)として記憶されます。

•センターユニットの表示窓に「A-B」と表示され、A-B間がくり返し再生されます。

5 オンスクリーンボタンを押す

オンスクリーンメニューがテレビ画面から消えます。

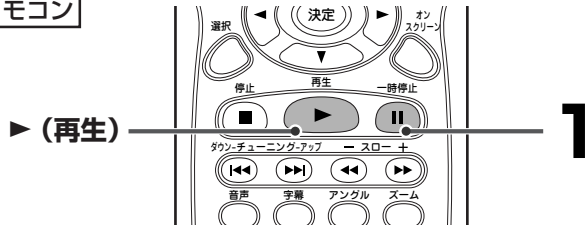
A-Bリピートを解除するには

1. 手順**3**で**決定ボタン**をくり返し押して、「オフを選ぶ。
2. **カーソルボタン(▲/▼)**を押して「OK」を選び、**決定ボタン**を押す。

- プログラム再生中や、ビデオCDのPBC再生中は、A-Bリピートはできません。
- A-Bリピートは、リピート(一曲、全曲)とは同時に設定できません。

ビデオCDの特殊再生

一時停止する [静止画]

再生を一時停止できます。ビデオCD再生中は静止画をご覧になれます。

リモコン

1 再生中に、II(一時停止)ボタンを押す

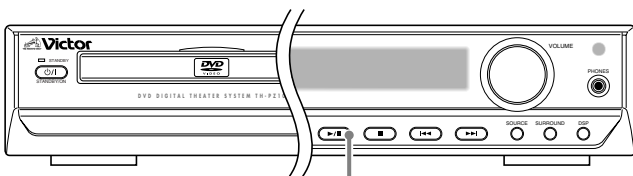
一時停止します。

- ビデオCD再生中は、映像が静止します。（音声も聞こえなくなります）

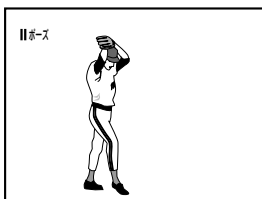
通常の再生に戻すには

►**(再生)ボタン**を押します。

再生

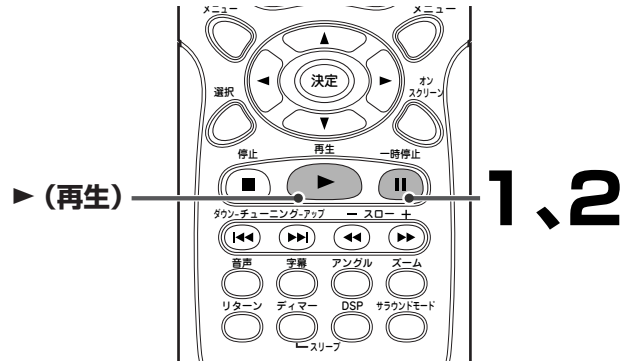
センターユニット

1 再生中に、►/II(再生/一時停止)ボタンを押す

一時停止します。

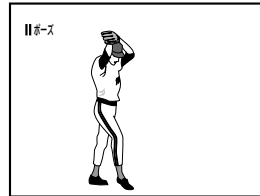
- ビデオCD再生中は、映像が静止します。（音声も聞こえなくなります）

通常の再生に戻すには

もう一度►/II**(再生/一時停止)ボタン**を押します。

コマ送りで再生する

ビデオCD再生中に映像を静止し、その静止中の映像をコマ送りで再生できます。

リモコンのみ

1 再生中に、II(一時停止)ボタンを押す

映像が静止します。（音声も聞こえなくなります）

2 II(一時停止)ボタンをくり返し押す

押すごとに、静止画が次のフレームに進みます。

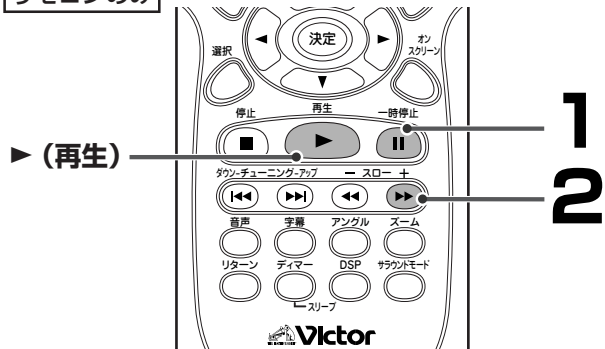
通常の再生に戻すには

►**(再生)ボタン**を押します。

お知らせ

- オーディオCDでは、コマ送りはできません。

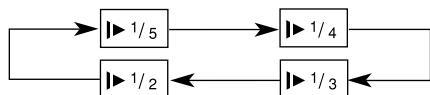
スローモーションで再生する [スロー]

ビデオCD再生中に、連続したシーンをゆっくり再生できます。
・スローモーションで再生すると、音声は聞こえなくなります。

リモコンのみ

1 スローモーションで見たいところで、II(一時停止)ボタンを押す

映像が静止します。

2 スロー(+)ボタンを押す

ボタンを押すごとに、再生速度が次のように切り換わります。

通常の再生に戻すには

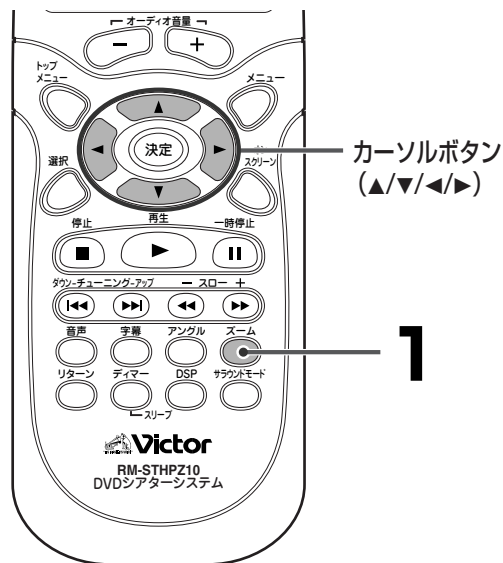
►(再生)ボタンを押します。

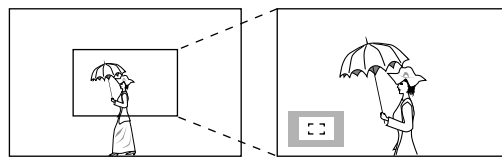
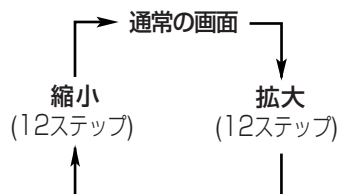
お知らせ

- オーディオCDでは、スローモーションはできません。
- ビデオCDでは、逆方向のスローモーションはできません。

映像を拡大・縮小する [ズーム]

ビデオCD再生中や静止画中に、映像の一部を拡大または縮小できます。

リモコンのみ

1 拡大したいところで、ズームボタンを押す

ボタンを押すごとに、画面が拡大または縮小されます。
ズーム倍率は12ステップの範囲で拡大または縮小されます。

- 画像が拡大されているときに**カーソルボタン(▲/▼/◄/►)**を押すと、ご覧になりたい部分に画面を動かすことができます。

拡大または縮小を解除するには

►(再生)ボタンを押します。

お知らせ

- オーディオCDでは、ズームはできません。

MP3ディスクを再生する

MP3ディスクについて

MP3とは

少ないデータ容量で高音質のステレオデータを記録することのできる記録方法です。本システムは、MP3ファイルを記録したCD-R/CD-RWディスクを再生することもできます。本取扱説明書ではこれらのディスクを「MP3ディスク」と呼びます。

MP3ディスクの構造

MP3ディスクには、それぞれの曲が各「**トラック**(ファイル)」として記録されています。さらに複数の**トラック**は、カテゴリー別、アーティスト別などの「**グループ**(フォルダ)」としてまとめて分類することができます。

このトラック/グループは、パソコンにおけるファイル/フォルダの構造と同様に階層構造をつくることができます。

(右の「MP3ディスクの階層構造図」参照)

CD-R/CD-RWドライブを使ってMP3ディスクを作るときの注意点

ご自分でMP3ディスクを作成する場合は、以下の点にご注意ください。

MP3ファイルについて

- 本機では、次のようなファイルは再生できません。
  - 「.MP3」「.mP3」「.Mp3」「.mp3」の拡張子のないもの
- ファイル名は、漢字・ひらがな・カナ・全角英数字が使用されていると、正しく表示されない場合があります。
- 本システムはMP3の「ID3v1(ID3バージョン1)タグ」対応です。「ID3v2(ID3バージョン2)タグ」には対応していません。

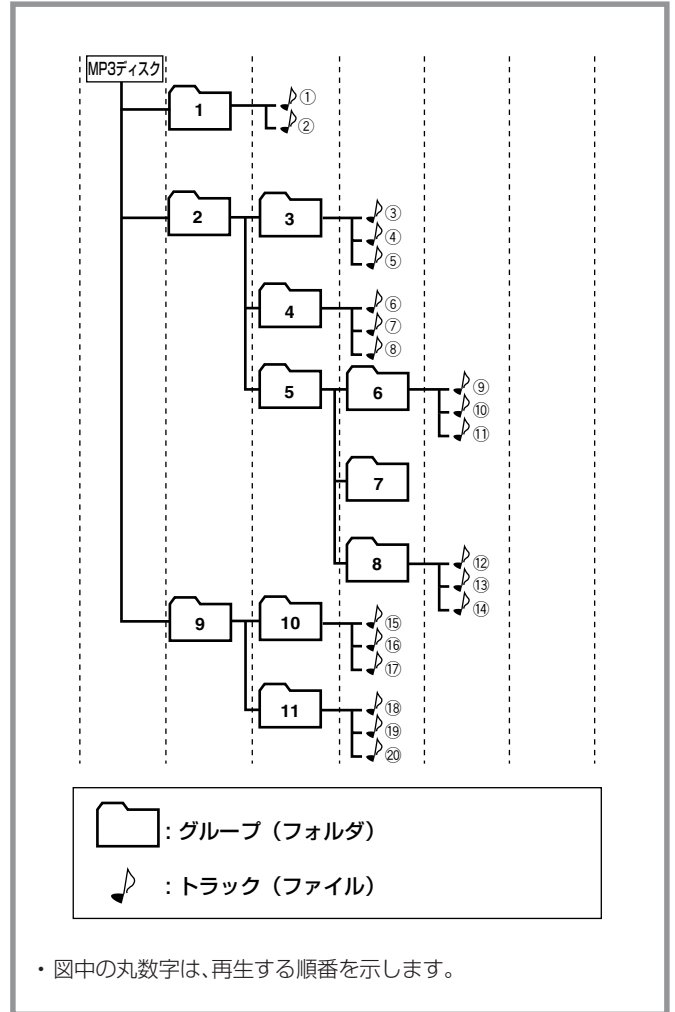
MP3ディスクについて

- 本機では、次のようなディスクについては、一部またはすべてを再生できません。
  - ディスクフォーマットが「ISO9660」ではないもの
  - 6つ以上のマルチセッション記録やパケットライト方式で記録されたもの
  - ファイナライズされていないもの

ご注意

- ディスクの記録状態や特性により、再生できないことがあります。
- MP3作成ソフトとCD-R/CD-RW作成ソフトによっては、本機で再生できないこともあります。
- ディスクトレイにMP3ディスクが入っているときは、サブウーハーの出力レベル調節はできません。
- MP3以外のファイルが含まれているMP3ディスクを再生したときは、機能が制限されることがあります。

■ MP3ディスクの階層構造図

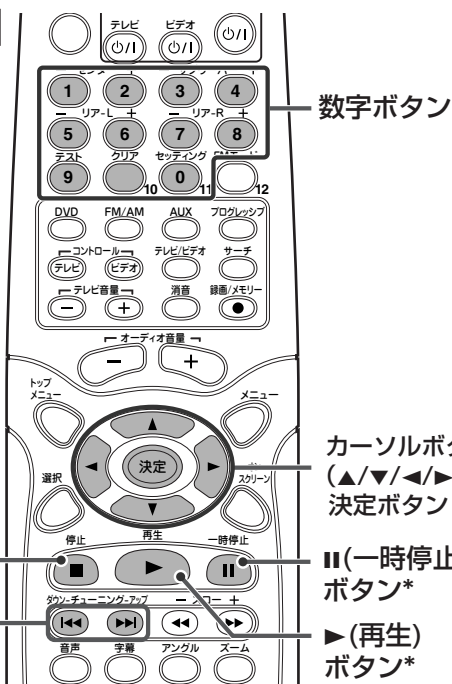
・図中の丸数字は、再生する順番を示します。

MP3コントロール画面で操作する

ディスクの入れかた・取り出しかた、再生・停止のしかたなどの操作方法については、「DVDビデオなどのディスクを見る・聞く」(➡ 22 ページ)をご覧ください。

・オーディオCDフォーマット、MP3ファイルおよびJPEGファイル以外に記録されたディスクは再生されず、テレビ画面に「エラー」と表示されます。

お知らせ

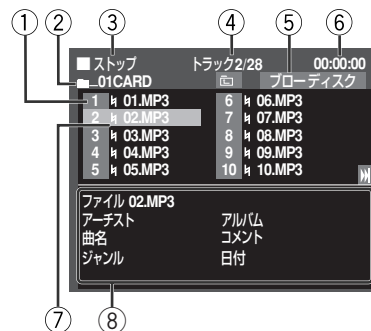
- **MP3ディスクでは早送り、早戻しなどの操作ができません。**
- **操作中にテレビ画面に「⊘」が表示されたら…**
  その操作は無効です。以下のような理由が考えられます。
  - MP3ディスクにその操作に必要とされる情報が収録されていない。

リモコン

1 MP3ディスクを入れる

MP3コントロール画面がテレビ画面に表示されます。

＊基本操作ボタン

- **▶(再生)ボタン**：再生を始めます。MP3コントロール画面の再生状態表示は▶**再生**になります。
- **■(停止)ボタン**：再生を停止します。MP3コントロール画面の再生状態表示は■**ストップ**になります。
- **II(一時停止)ボタン**：再生を一時停止します。MP3コントロール画面の再生状態表示は**IIポーズ**になります。ふたたび▶**(再生)ボタン**を押すと、リジューム再生が始まります。

■ MP3コントロール画面

① ：**トラック番号**

② ：**現在のフォルダ名**

③ ：**再生状態(▶ 再生/■ ストップ/II ポーズ)**

④ ：**現在選択中のトラック(ファイル)番号とフォルダ内の総トラック数**
例: 28トラック中の2つめのトラックを選んだとき

⑤ ：**プレイモード**

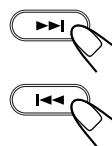
⑥ ：**再生経過時間**

⑦ ：**選択中のトラック(ハイライト表示)**

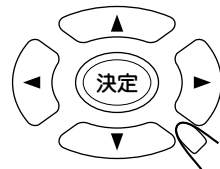
⑧ ：**ファイル情報**
•MP3ファイルにID3v1タグが含まれていればファイル情報が表示されます。

他のトラックに進むには

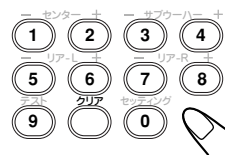
再生中に、▶▶|**ボタン**または|◀◀**ボタン**を押す。

- ▶▶|**ボタン**：次のトラックの頭へスキップします。
- |◀◀**ボタン**：前のトラックの頭へスキップします。

お好みのトラックを選んで再生するには

カーソルボタン(▲/▼/◀/▶)を押してトラックを選び、**決定ボタン**を押す。

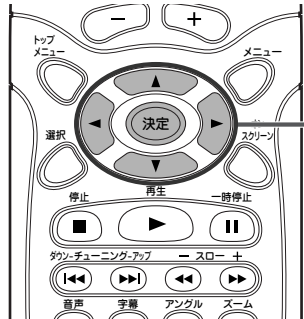
- MP3コントロール画面に表示されるのは10トラックです。
  次の10トラックを表示するには**カーソルボタン(▶)**をくり返し押す。
  前の10トラックを表示するには**カーソルボタン(◀)**をくり返し押す。
- 別のフォルダに移動すると再生が停止します。

トラック番号を直接入力して選ぶには

数字ボタンを押してお好みのトラック番号を入力する。

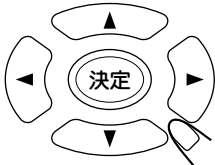
- トラックは、現在選択中のフォルダ内から選びます。
- **数字入力について**
  例: トラック番号[5]を入力するときは「5」を押し、**決定ボタン**を押す。
  トラック番号[10]を入力するときは「1」➡「0」の順に押し、**決定ボタン**を押す。
  トラック番号[123]を入力するときは「1」➡「2」➡「3」の順に押し、**決定ボタン**を押す。
  押し間違えたときは**クリアボタン**を押す。

MP3ディスクを再生する（つづき）

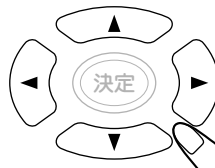
プログラムを予約・再生する ［プログラム再生］

お好みの順番でトラック再生できます。

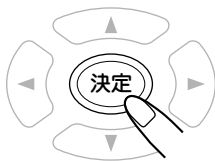
・「MP3コントロール画面」（➡ 55 ページ）で操作します。

リモコンのみ

1 カーソルボタン（▲/▼/◀/▶）を押してプレイモードの「ブローディスク」を選び、決定ボタンを押す

プレイモードの表示が「ブローディスク」から「プログラム」に切り換わり、予約モードになります。

2 カーソルボタン（▲/▼/◀/▶）を押して聞きたいトラック番号を選ぶ

例：トラック番号「3」を選んだとき

3 決定ボタンを押す

選んだトラック番号がハイライト表示されます。

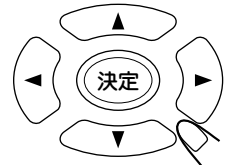
- もう一度、**決定ボタン**を押すと、選択が解除されます。

4 手順2から手順3をくり返して聞きたいトラック番号を選ぶ

- 他のグループ（フォルダ）のトラック番号も選べます。

5 カーソルボタン（▲/▼/◀/▶）を押してプレイモードの「プログラム」を選び、決定ボタンを押す

プレイモードの表示が「プログラム」から「ブロープログラム」に切り換わり、プログラムモードになります。同時に選んだトラックが表示されます。

6 カーソルボタン（▲/▼/◀/▶）を押して再生を始めたいトラックの表示欄にカーソルを移動し、決定ボタンを押す

トラックは、プログラムした順番に再生されます。

プログラム再生を解除するには

リモコンのみ

カーソルボタン（▲/▼/◀/▶）を押してプレイモードの「ブロープログラム」を選び、決定ボタンを押す。

- プレイモードの表示が「ブロープログラム」から「ブローディスク」に切り換わります。同時に再生が停止し、プログラム再生は解除されます。

JPEGディスクを再生する

JPEGディスクについて

JPEGとは

JPEG(Joint Photographic Experts Groupの略称)とは インターネットやデジカメなどに広く利用されている静止画情報圧縮フォーマットのひとつです。

本システムはJPEGファイルを記録したCD-R/CD-RWディスクを再生することができます。本取扱説明書ではこれらのディスクを「JPEGディスク」と呼んでいます。

JPEGディスクの構造

JPEGディスクには、それぞれの画像が各「**ファイル**」として記録されています。さらに複数の**ファイル**は、カテゴリー別などの「**グループ**(フォルダ)」としてまとめて分類することができます。

このファイル/グループは、パソコンにおけるファイル/フォルダの構造と同様に階層構造をつくることができます。

(右の「JPEGディスクの階層構造図」参照)

CD-R/CD-RWドライブを使ってJPEGディスクを作るときの注意点

ご自分でJPEGディスクを作成する場合は、以下の点にご注意ください。

JPEGファイルについて

- 本機では、次のようなファイルは再生できません。
  - ベースライン方式以外のフォーマットで作成されているもの
  - 「.jpg」「.jpeg」「.JPG」「.JPEG」の拡張子のないもの
- ファイル名は、漢字・ひらがな・カナ・全角英数字が使用されていると、正しく表示されない場合があります。
- ファイル読み込み速度上、解像度640×480以内のファイルをお使いになることをおすすめします。

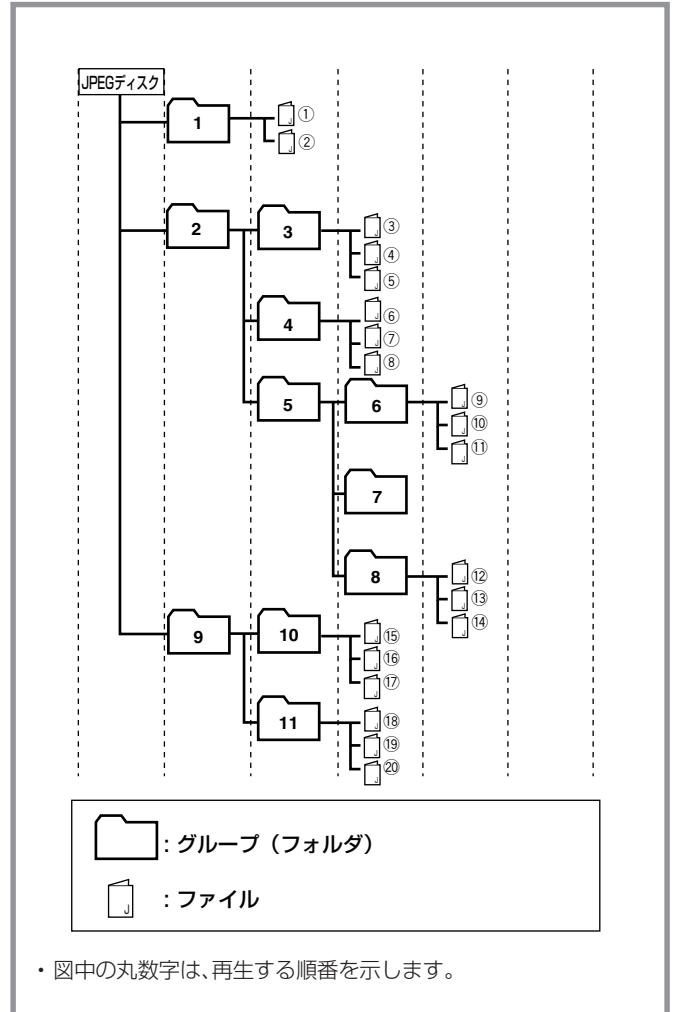
JPEGディスクについて

- 本機では、次のようなディスクについては、一部またはすべてを再生できません。
  - ディスクフォーマットが「ISO9660」でないもの
  - 6つ以上のマルチセッション記録やパケットライト方式で記録されたもの
  - ファイナライズされていないもの

ご注意

- ディスクの記録状態や特性により、再生できないことがあります。
- JPEG以外のファイルが含まれているJPEGディスクを再生したときは、機能が制限されることがあります。

■ JPEGディスクの階層構造図

・図中の丸数字は、再生する順番を示します。

JPEGディスクを再生する(つづき)

JPEGコントロール画面で操作する

ディスクの入れかた・取り出しかた、再生・停止のしかたなどの操作方法については、「DVDビデオなどのディスクを見る・聞く」
(➡ 22 ページ)をご覧ください。

お知らせ

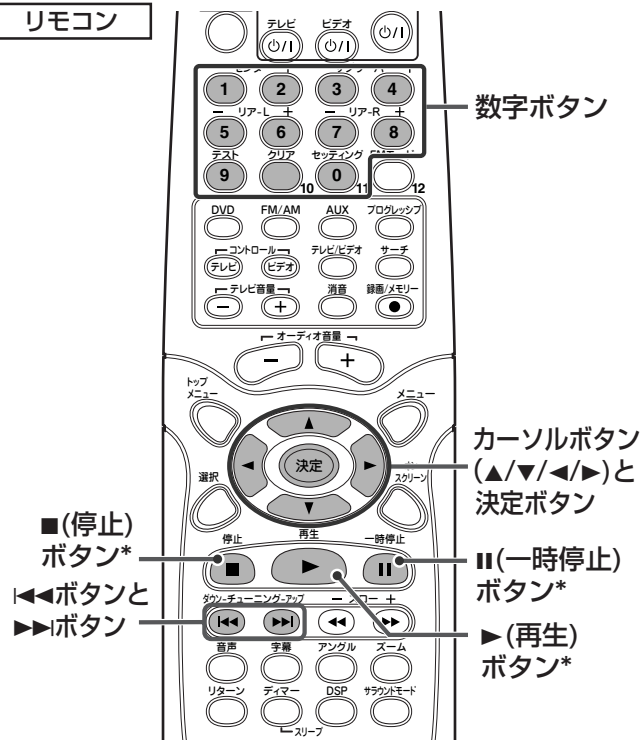
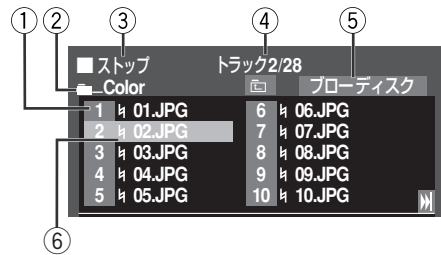
- **操作中にテレビ画面に「⊘」が表示されたら…**
  その操作は無効です。以下のような理由が考えられます。
  - JPEGディスクにその操作に必要とされる情報が収録されていない。

リモコン

1 JPEGディスクを入れる

JPEGコントロール画面がテレビ画面に表示されます。

＊基本操作ボタン

- **▶(再生)ボタン**：スライドショー再生(➡ 59 ページ)を始めます。
- **■(停止)ボタン**：スライドショー再生を停止します。JPEGコントロール画面の再生状態表示は**■ストップ**になります。
- **Ⅱ(一時停止)ボタン**：スライドショー再生を一時停止します。ふたたび**▶(再生)ボタン**を押すと、リジューム再生が始まります。

■ JPEGコントロール画面

① ：**ファイル番号**

② ：**現在のフォルダ名**

③ ：**再生状態(▶再生/■ストップ/Ⅱポーズ)**

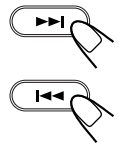
④ ：**現在選択中のファイル番号とフォルダの総ファイル数**
例：28ファイル中の2つめのファイルを選んだとき

⑤ ：**プレイモード**

⑥ ：**停止前に再生していたファイル(ハイライト表示)**
▶(再生)ボタンを押すと、このファイルからスライドショー再生(➡ 59 ページ)が始まります。

他のファイルに進むには

再生中に、**⏭ボタン**または**⏮ボタン**を押す。

- **⏭ボタン**：次のファイルへスキップします。
- **⏮ボタン**：前のファイルへスキップします。

お好みのファイルを選んで再生するには

カーソルボタン(▲/▼/◀/▶)を押してファイルを選び、決定ボタンを押す。

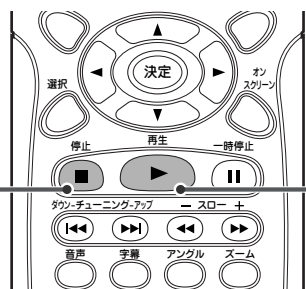
- JPEGコントロール画面に表示されるのは10ファイルです。
  次の10ファイルを表示するには**カーソルボタン(▶)**をくり返し押す。
  次の10ファイルを表示するには**カーソルボタン(◀)**をくり返し押す。

お知らせ

- 画像の大きさは、テレビ画面に合わせて自動的に変わります。

ファイルを連続再生する [スライドショー再生]

画像を数秒間ずつ連続して再生することができます。

リモコンのみ

1 ►(再生)ボタンを押す

スライドショー再生が始まります。

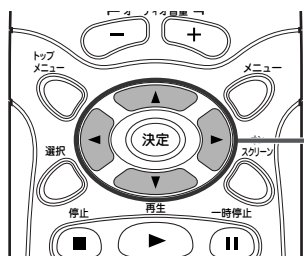
- 画像が選択されているときに►(再生)ボタンを押すと、そこからスライドショー再生が始まります。

スライドショー再生を途中でやめるには

■(停止)ボタンを押します。
JPEGコントロール画面が表示されます。

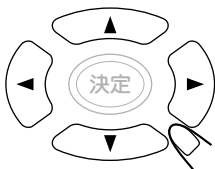
画像を回転させる

再生中の画像を回転させることができます。

リモコンのみ

1 カーソルボタン(▲/▼/◄/►)を押す

スライドショーが停止し、画像が回転します。

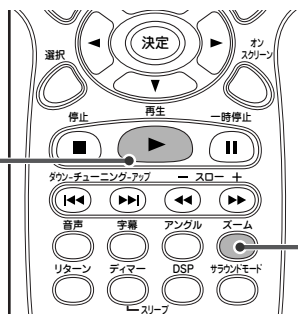
それぞれのカーソルボタンの回転角度は次のとおりです。

- **カーソルボタン(►)**：90度
- **カーソルボタン(▼)**：180度
- **カーソルボタン(◄)**：270度
- **カーソルボタン(▲)**：0度

通常の向きに戻すには

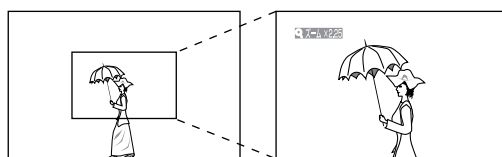
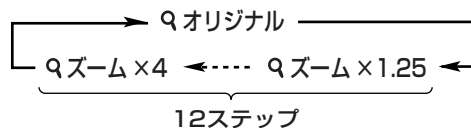
もう一度、同じボタンを押すか、または**カーソルボタン(▲)**を押します。

画像を拡大する [ズーム]

再生中の画像を拡大してみることができます。

リモコンのみ

1 拡大したいところでズームボタンを押す

ズーム倍率がテレビ画面に表示されます。

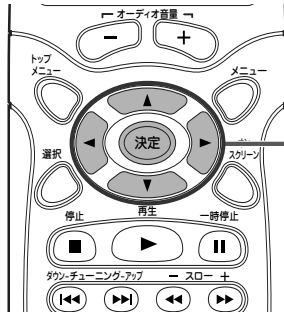
ズーム倍率が出ている間にズームボタンを押すと、次のように倍率が切り換わります。

- 画像が拡大されているときに**カーソルボタン(▲/▼/◄/►)**を押すと、ご覧になりたい部分に画面を動かすことができます。

拡大を解除するには

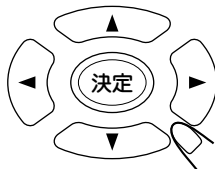
►(再生)ボタンを押します。
拡大が解除され、スライドショー再生になります。

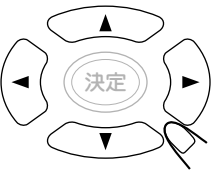
プログラムを予約・再生する [プログラム再生]

お好みの順番でファイル再生できます。
・「JPEGコントロール画面」(➡ 58 ページ)で操作します。

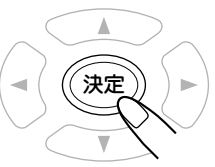
リモコンのみ

1 カーソルボタン(▲/▼/◄/►)を押してプレイモードの「ブローディスク」を選び、決定ボタンを押す

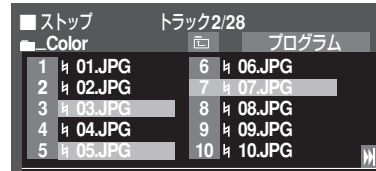
プレイモードの表示が「ブローディスク」から「プログラム」に切り換わり、予約モードになります。

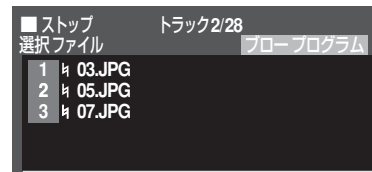
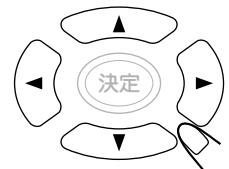
プレイモード

2 カーソルボタン(▲/▼/◄/►)を押して見たいファイル番号を選ぶ

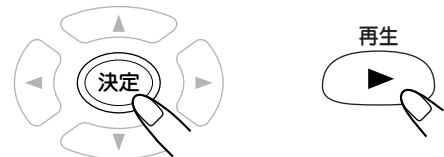
例:ファイル番号「3」を選んだとき

3 決定ボタンを押す

選んだファイル番号がハイライト表示されます。
• もう一度、**決定ボタン**を押すと、選択が解除されます。

■ストップ トラック2/28
_Color プログラム
1 01.JPG 6 06.JPG
2 02.JPG 7 07.JPG
3 03.JPG 8 08.JPG
4 04.JPG 9 09.JPG
5 05.JPG 10 10.JPG

4 手順2と手順3をくり返して見たいファイル番号を選ぶ

• 他のグループ(フォルダ)のファイル番号も選べます。

5 カーソルボタン(▲/▼/◄/►)を押してプレイモードの「プログラム」を選び、決定ボタンを押す

プレイモードの表示が「プログラム」から「ブロープログラム」に切り換わり、プログラムモードになります。同時に選んだファイルが表示されます。

6 カーソルボタン(▲/▼/◄/►)を押して再生を始めたいファイルの表示欄にカーソルを移動する

7 決定ボタンまたは►(再生)ボタンを押す

ファイルは、プログラムした順番に再生されます。

プログラム再生を解除するには

リモコンのみ

カーソルボタン(▲/▼/◄/►)を押して、プレイモードの「ブロープログラム」を選び、決定ボタンを押す。
• プレイモードの表示が「ブロープログラム」から「ブローディスク」に切り換わります。同時に再生が停止し、プログラム再生は解除されます。

ラジオ(FM放送/AM放送)の設定をする

放送局を記憶させて選ぶ [プリセット選局]

一度記憶させておくと、次からは簡単に放送局を選ぶことができます。

FM放送を30局、AM放送を15局まで記憶させることができます。

リモコンのみ

■放送局を自動的に記憶させる

1 録画/メモリーボタンを押し続ける

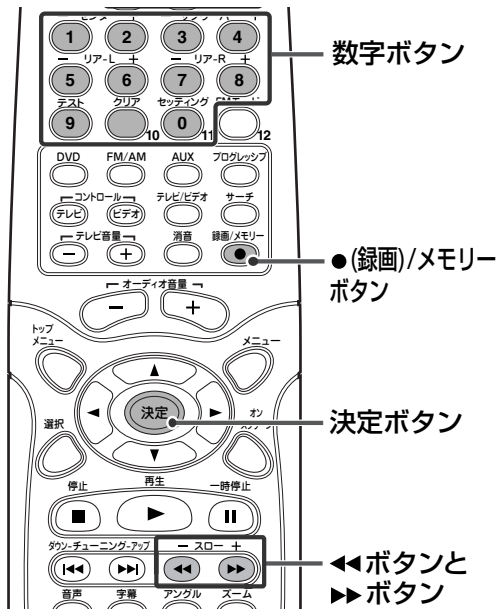
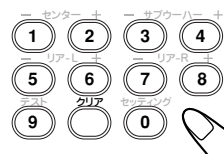
センターユニットの表示窓に「AUTO SAVE」と表示され、自動的に放送局を探して記憶します。

FM、AMの順に電波の強い放送局を探して自動的に記憶します。(FMは30局、AMは15局まで)

■お好みの放送局を記憶させる

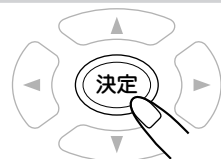
1 記憶させたい放送局を選ぶ(➡ 24ページ)

2 ●(録画)/メモリーボタンを押す

センターユニットの表示窓に「SAVE TO」と表示されます。

3 数字ボタン(1〜9、0)を押して記憶させたいプリセット番号を選ぶ

数字入力について

例:選ぶ番号が [5]のときは、「**5**」を押す。
選ぶ番号が[10]のときは、「**1**」➡「**0**」と押す。
押し間違えたときは、**クリアボタン**を押す。

4 決定ボタンを押して放送局を記憶させる

センターユニットの表示窓に「SAVED」と表示されます。

5 手順1から手順4で他の放送局を記憶させる

- **記憶させた放送局を削除するには**
  同じプリセット番号に新しい放送局を記憶させると、前の放送局の記憶は消えます。

■記憶させた放送局を選ぶ

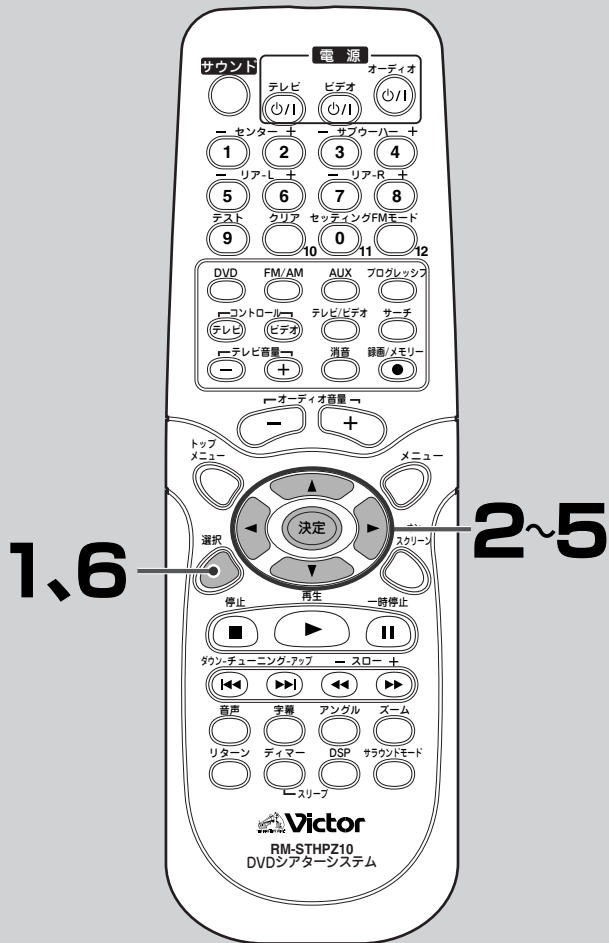
1 FM/AMボタンを押してFM放送かAM放送を選ぶ

2 数字ボタンを押して記憶させたプリセット番号を選び、決定ボタンを押す

▶▶ボタンと**◀◀ボタン**を使ってプリセット選局することもできます。

- **▶▶ボタン** :プリセット番号がふえる方向へ選局するとき
- **◀◀ボタン** :プリセット番号がへる方向へ選局するとき

DVDの初期設定をする

操作に使うボタン

初期設定メニュー画面で設定する

DVDを便利に使うための初期設定を行います。
本システムでは、5つの設定メニューで構成された初期設定メニュー画面で行います。

準備：初期設定メニューは、テレビ(モニター)画面へ表示します。本システムとテレビ(モニター)との接続をご確認ください。(➡ 17 ページ)

- ソース(音源)が「DVD」で、ディスク停止中に限り、初期設定メニュー画面を表示できます。

■初期設定メニューについて

言語：複数の音声や字幕が収録されているDVDを再生するときや、オンスクリーン言語などの言語を選ぶことができます。

ピクチャ：お手持ちのテレビ(モニター)に合わせて画面サイズなどを変更するときに選びます。

オーディオ：センターユニット後面のDIGITAL OUT (OPTICAL)端子から出力するデジタル音声信号の種類を選びます。

セッティング：スピーカーの配置に合わせた設定を行います。

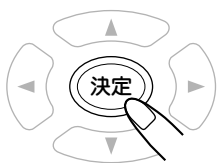
パレンタル：パレンタルロック(視聴制限)の設定レベルを選びます。

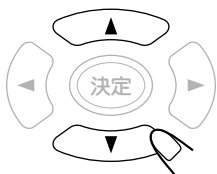
1 選択ボタンを押す

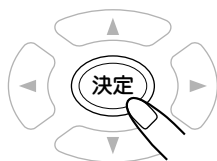
テレビ画面に初期設定メニュー画面が表示されます。

2 カーソルボタン(◄/►)を押して設定したいメニューを選ぶ

3 決定ボタンを押す

テレビ画面に選ばれたメニューの
設定画面が表示されます。

例:「セッティング」を選んだとき

4 カーソルボタン(▲/▼)を押して設定したい項目を選ぶ

5 決定ボタンをくり返し押してお好みの設定を選ぶ

ボタンを押すごとに、設定が切り換わり、
お好みの設定に変更できます。

例:「C ディレイ」の設定を変更したところ

- 他のメニューを選ぶときは、**カーソルボタン(▲)**でカーソルを最上段にして**カーソルボタン(◄/►)**を押して、設定したいメニューを選び、決定ボタンを押します。

6 選択ボタンを押して、初期設定メニュー画面を消す

設定画面が2ページにわたるときは

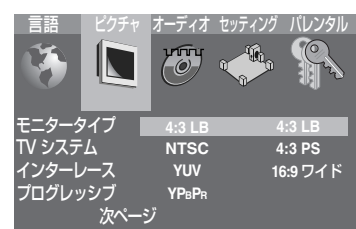
初期設定メニューの中には、設定画面が2ページにわたるものがあります。

2ページ目の画面を表示するには、1ページ目の画面で「次ページ」を選び、**決定ボタン**を押します。

- 前のページに戻るときは、**カーソルボタン(▲/▼/◄/►)**を押して「前ページ」を選び、**決定ボタン**を押します。

サブメニューがあるときは

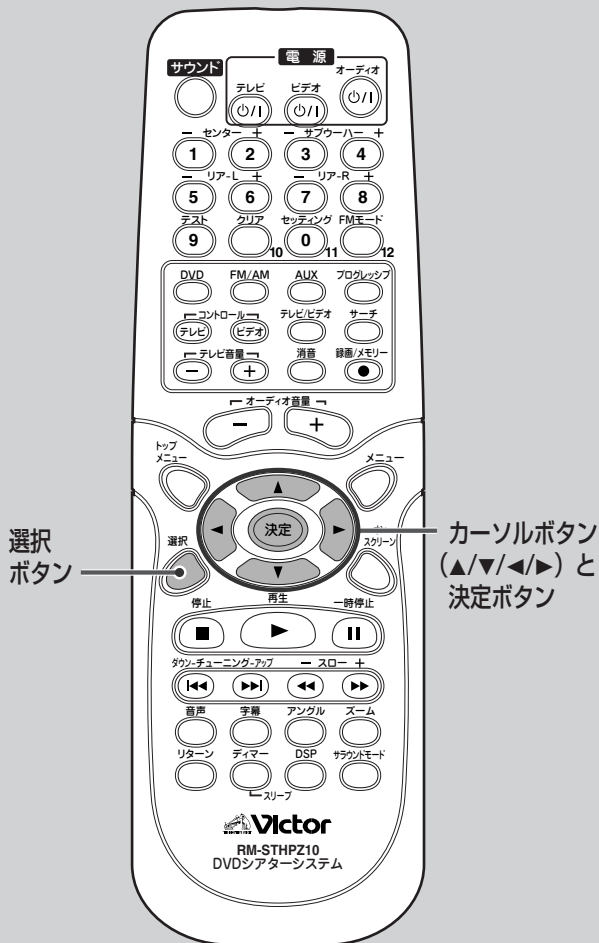
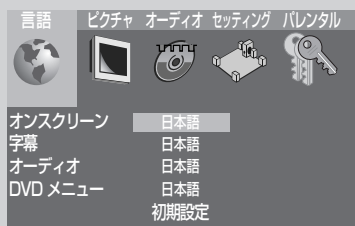
設定メニューの中には、更にサブメニューがある項目があります。

サブメニューは、項目を選んで、**決定ボタン**を押すと表示されます。

例:「モニタータイプ」のサブメニュー

- サブメニューから戻るときは、**カーソルボタン(◄)**を押します。

操作に使うボタン

選択ボタン

カーソルボタン（▲/▼/◀/▶）と決定ボタン

言語メニュー画面

言語を選ぶ ［言語設定］

DVDを便利に使うための初期設定を行います。
テレビ画面の初期設定メニューを見ながら、言語設定を行います。

言語メニューで次の言語を選びます。

- **オンスクリーン言語**
- **字幕言語**
- **オーディオ言語**
- **DVDメニュー言語**

オンスクリーン言語

初期設定メニューやオンスクリーン画面の表示言語を切り換えることができます。

英語、**日本語**が選べます。

- 日本語に設定してもアルファベットで表示される項目もあります。

字幕言語

外国映画などのDVDには複数の言語による字幕が収録されているものがあります。このようなDVDを再生するときに、最初にどの言語の字幕で再生するか決めることができます。

英語、**日本語**、**オート**、**オフ**が選べます。

オーディオ言語

DVDには複数のオーディオ言語が収録されているものがあります。このようなDVDを再生するときに、最初にどのオーディオ言語で再生するか決めることができます。

英語、**日本語**が選べます。

DVDメニュー言語

DVDには複数の言語によるメニュー画面が収録されているものがあります。このようなDVDを再生するときに、最初にどの言語でメニュー表示をするか決めることができます。

英語、**日本語**が選べます。

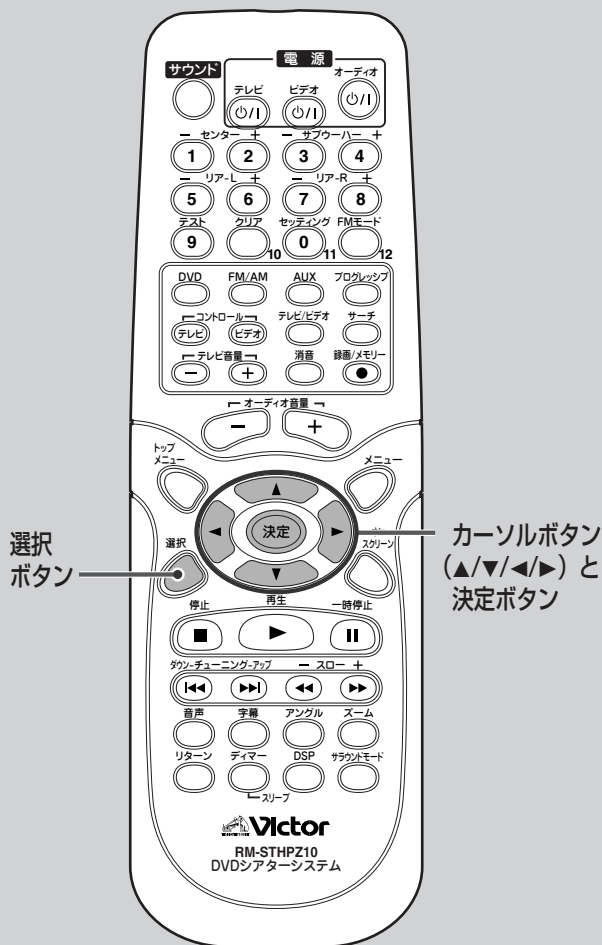
お買い上げ時の設定に戻すには

メニュー画面で、「初期設定」を選び、**決定ボタン**を押します。
ただし、以下の項目は初期設定に戻りません。

- ピクチャメニューの「インターレース」
- パレンタルメニュー

お知らせ

- 言語メニューで選んだ言語（英語、日本語など）がディスクに収録されていないときは、ディスクに収録されているオリジナル言語で再生・表示されます。

操作に使うボタン

ピクチャーメニュー画面

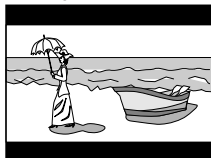
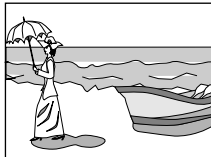
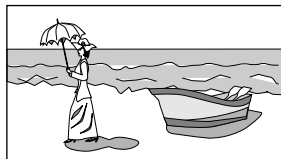
画像を設定する ［ピクチャー設定］

ピクチャーメニューで次の項目を設定します。

- モニタータイプ
- TVシステム
- インターレース
- プログレッシブ
- TEモード
- ポーズ/スチル

モニタータイプ

DVDの映画ソフトの多くは、縦横比16対9の横長(ワイド)テレビ用の映像が収録されています。この横長(ワイド)テレビ用の映像を、ご覧になるテレビのタイプに合わせることができます。

「4:3 LB(レターボックス)」：縦横比4対3のテレビで見るときに選びます。上下に黒い隙間がある状態で映ります。左右両端の映像は切り取られません。

「4:3 PS(パンスキャン)」：縦横比4対3のテレビで見るときに選びます。左右両端が切り取られる状態で映ります。上下に黒い隙間は映りません。
- パンスキャンを選んでも、ディスクが対応していないときは、レターボックスになります。

「16:9 ワイド」：横長(ワイド)テレビで見るときに選びます。

TVシステム

この項目は設定を変更することができません。

インターレース

テレビと接続する出力端子を選びます。

- 「S-ビデオ」：S映像入力端子付のテレビと接続するときに選びます。D1/D2 VIDEO OUT端子からは出力されません。
- 「YUV」　：D1/D2 VIDEO OUT端子に接続するときに選びます。S1-VIDEO映像出力端子からは出力されません。

プログレッシブ

この項目は設定を変更することができません。

TEモード(トランジッション・エフェクト・モード)

画像の切り換え時に特殊効果が加わります。

- 「オン」：TE機能を使って画像を切り換えます。
- 「オフ」：TE機能を解除します。

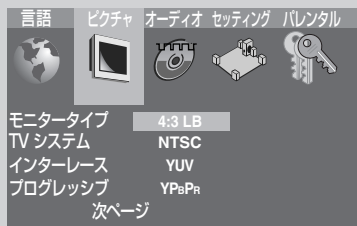
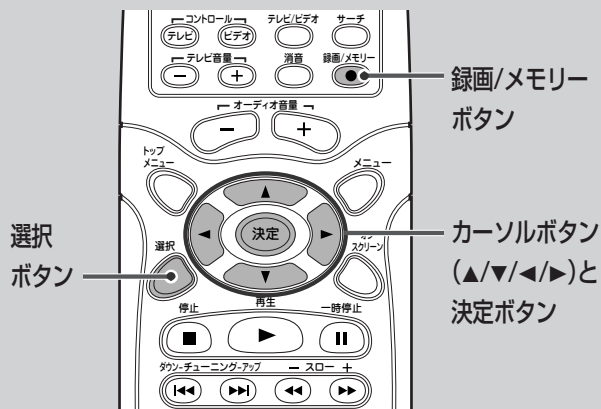
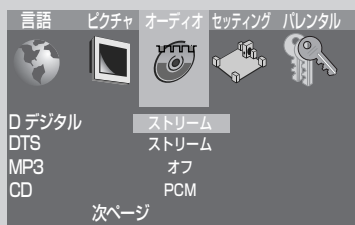
ポーズ/スチル

映像にノイズがでたり不鮮明なときに使います。通常は「オート」に設定します。(➡ 30 ページ)

- 「オート」　：通常の設定モード。ディスクにより正しく再生されないときは、モードを切り換えてください。
- 「フレーム」　：映像が不鮮明なときに選びます。
- 「フィールド」：映像にスジ状のノイズなどが出たときに選びます。

操作に使うボタン

録画/メモリーボタン

選択ボタン

カーソルボタン（▲/▼/◀/▶）と決定ボタン

オーディオメニュー画面

2ページ目

音声出力を設定する ［オーディオ設定］

センターユニット後面のOPTICAL DIGITAL OUT端子から出力される音声信号を設定します。
オーディオメニューで次の信号を再生時の音声出力信号に設定します。（➡ 77 ページ）

- Dデジタル（ドルビーデジタル）
- DTS
- MP3
- CD
- PCM
- ダウンサンプリング

Dデジタル/DTS

- 「PCM」　：リニアPCMのみに対応しているデジタル端子付きのアンプやMDレコーダーなどに接続するときに選びます。
- 「ストリーム」：DTSデコーダーやドルビーデジタルデコーダーなどの機能を内蔵したアンプと接続するときに選びます。
- 「オフ」　：OPTICAL DIGITAL OUT端子から信号を出力しないときに選びます。

MP3

- 「オフ」　：MP3ディスク再生時はOPTICAL DIGITAL OUT端子に信号を出力しません。この項目の設定は変更できません。

CD/PCM

- 「PCM」　：OPTICAL DIGITAL OUT端子から信号を出力するときに選びます。
- 「オフ」　：OPTICAL DIGITAL OUT端子から信号を出力しないときに選びます。

ダウンサンプリング

- 「オン」　：サンプリング周波数の低い機器とデジタル接続するときに選びます。
- 「オフ」　：ダウンサンプリング機能を使わないときに選びます。

設定画面が2ページにわたるときは

初期設定メニューの中には、設定画面が2ページにわたるものがあります。
2ページ目の画面を表示するには、1ページ目の画面で「次ページ」を選び、**決定ボタン**を押します。
- 前のページに戻るときは、**カーソルボタン（▲/▼/◀/▶）**を押して、「前ページ」を選び、**決定ボタン**を押します。

ご注意

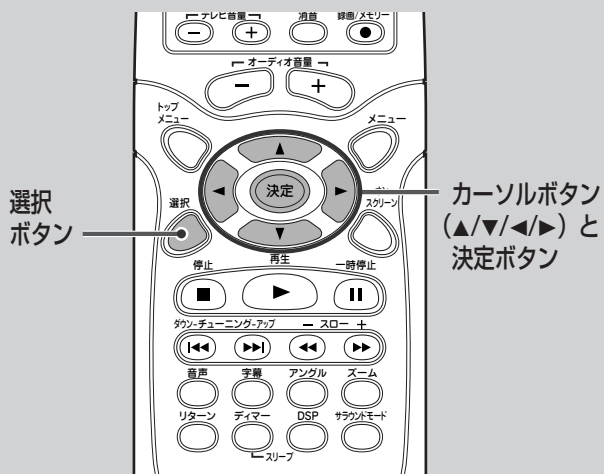
「Dデジタル/DTS」と「CD/PCM」で「PCM」を選んだときは

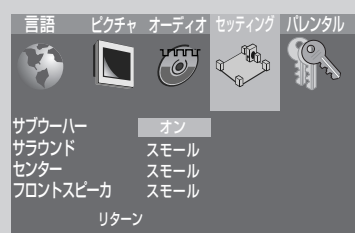
本機のDIGITAL OUTは簡易機能のため、いくつかの制限があります。オリジナルに近い音声で録音などする場合は、下記の操作でPCM RECモードを「入」にしてください。

1. ソース（音源）をDVDにする
2. リモコンの**録画/メモリーボタン**を押しながら**選択ボタン**を押す
   本体表示窓に「PCM REC ON」と表示され、PCM RECモードは「入」になります。

PCM RECモードが「入」のときは
- サラウンド/DSPは使えなくなります。また、現在選んでいるサラウンド/DSPモードは解除されます。
- 本機のセンタースピーカー、リアスピーカーから音声は出力されません。
- 音量を「50」以上にしないでください。

PCM RECモードを「切」にするには
リモコンの**録画/メモリーボタン**を押しながら**選択ボタン**を押す
本体表示窓に「REC OFF」と表示され、PCM RECモードは「切」になります。
- 次の操作でも、PCM RECモードは「切」になります。
  ー ソース（音源）を切り換える
  ー 本機の電源を「切」にする

操作に使うボタン

セッティングメニュー画面

スピーカーセットのサブメニュー画面

スピーカーを設定する [セッティング設定]

使用するスピーカーの選択やディレイタイム(遅延時間)などの配置に関する設定を行うときに選びます。
セッティングメニューで次の項目を設定します。

- ダイナミックレンジ
- C ディレイ(センタースピーカーのディレイタイム)
- S ディレイ(リアスピーカーのディレイタイム)
- スピーカーセット
- テストトーン

ダイナミックレンジ

最大音声と最小音声の差を圧縮することができます。
この機能はドルビーデジタルの再生時のみ働きます。
- **「オン」**　:夜間などにサラウンドを楽しみたいとき。
- **「オフ」**　:ダイナミックレンジはそのままで楽しみたいとき。

C ディレイ(センタースピーカーのディレイタイム)

リスニングポジションからフロントスピーカーまでの距離と、センタースピーカーまでの距離を比較したときのセンタースピーカーの音の遅れを設定できます。
設定単位は 0ms から 5msまでです。
(「ディレイタイム設定の目安」参照)

S ディレイ(リアスピーカーのディレイタイム)

リスニングポジションからフロントスピーカーまでの距離と、リアスピーカーまでの距離を比較したときのリアスピーカーの音の遅れを設定できます。
設定単位は 0ms から 15msまでです。
(「ディレイタイム設定の目安」参照)

スピーカセット

使用するスピーカーの設定ができます。
この項目は、サブメニューで設定します。

サブウーハー
この項目の設定は変更できません。

サラウンド/センター/フロントスピーカー
各スピーカーの設定を行います(フロントスピーカーを「オフ」にすることはできません)。
- **「スモール」**:付属のスピーカーを使うときに選びます。
- **「オフ」**　:スピーカーを使わないときに選びます。
  - ・モノラルの音声をフロントスピーカーでお聴きになりたいときは、センタースピーカーを「オフ」にしてください。

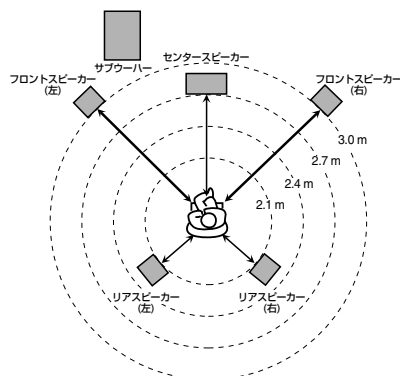
リターン
カーソルを合わせて**決定ボタン**を押すと、セッティング(スピーカー設定)メニュー画面に戻ります。

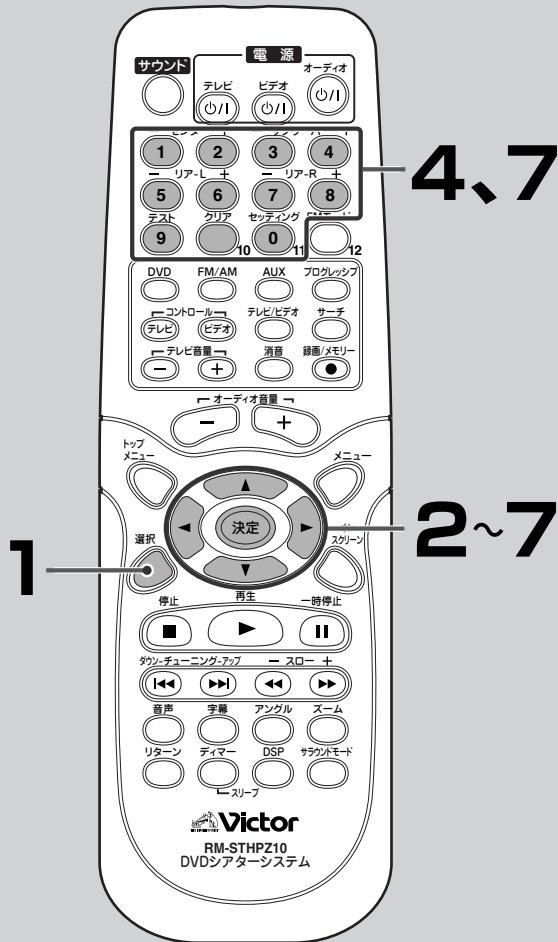
テストトーン

テストトーンメニューは、テレビ画面に表示され、スピーカーごとにテストトーンが出力されます。詳しくは、35 ページの「スピーカーの出力レベルを調節する」をご覧ください。
- テストトーンが出力されないときは、スピーカーの接続を確認してください(➡ 16 ページ)。

■ディレイタイム(遅延時間)設定の目安

リスニングポジションからサラウンドスピーカーまでの距離が、フロントスピーカーまでの距離とほぼ同じときは「0ms」にします。サラウンドスピーカーまでの距離の方が短くなるにしたがって、ディレイタイムを長くします。

- **1msのディレイタイムの増減は、30cmの距離の増減に相当します。**

例:センタースピーカーのディレイタイムを「1ms」に、リアスピーカーのディレイタイムを「3ms」に設定します。

操作に使うボタン

視聴制限をする ［パレンタルロック設定］

過激なシーンなどを含むDVD映画ソフトの視聴を、レベルを設定することによって制限することができます。
パレンタルロックが設定されているときは、設定レベル以上のディスクは再生できません。そのときはパレンタルロックを一時的に解除してご覧になることもできます。(「パレンタルロックを一時的に解除するには」➡ 69 ページ)

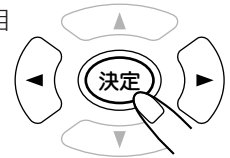
- レベルの設定は、レベル1からレベル8の中から選びます。レベル値が小さいほど、制限が厳しくなります。

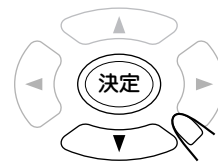
リモコンのみ

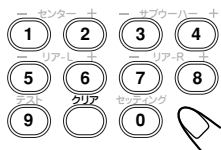
1 選択ボタンを押す

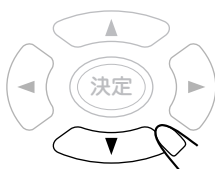
テレビ画面に初期設定メニュー画面が表示されます。

2 カーソルボタン(◀/▶)をくり返し押して「パレンタル」を選び、決定ボタンを押す

テレビ画面に「パレンタル」の項目が表示されます。

3 カーソルボタン(▼)を押して「パスワード」を選び、決定ボタンを押す

選ばれた項目はハイライト表示されます。

4 数字ボタン(1〜9、0)を押して4ケタのパスワードを入力し、決定ボタンを押す

「パスワード」の🔒マークが🔓マークに変わり、ロックは解除されます。

- 万一、パスワードを忘れたときは、非常手段として、「1987」と入力すると、ロックは解除されます。

5 カーソルボタン(▼)を押して「パレンタル」を選ぶ

- パレンタルロックを解除していないとき(「パスワード」に🔒マークが表示されている状態)は、「パレンタル」は選択できません。必ず、パスワードを入力してください。

6 決定ボタンをくり返し押して設定したいパレンタルレベルを選ぶ

ボタンを押すごとに、パレンタルレベルが切り換わります。

7 カーソルボタン(▲)を押して「パスワード」を選び、4ケタのパスワードを入力し、決定ボタンを押す

「パスワード」の🔓マークが🔒マークに変わり、パレンタルロックが設定されます。

パスワードを変更するには

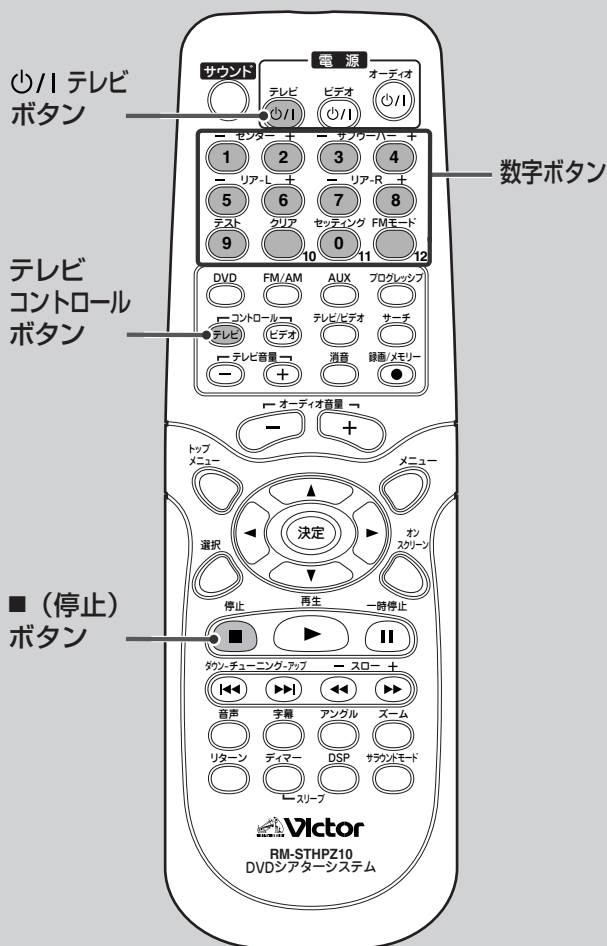
1. 手順**1**から手順**4**を行って、パレンタルロックを解除する。(「パスワード」の🔒マークが🔓マークに変わる)
2. 新しいパスワード(4ケタ)を入力する。
3. **決定ボタン**を押す。

パレンタルロックを一時的に解除するには

パレンタルロックの制限により再生できないディスクを再生するには、パスワードを入力して、ロックを一時的に解除する必要があります。
制限の対象となるディスクを再生すると、テレビ画面に「パスワード ＿＿」とパレンタルロック画面が表示されます。手順**4**で入力したパスワードを入力すると、ロックは一時的に解除されます。

- 正しいパスワードを入力しないと解除できません。
- 3回以上間違ったパスワードを入力すると「パレンタルロック」と画面に表示され、再びディスクを入れ直すまで再生できなくなります。

リモコンを使って他の機器を操作する

操作に使うボタン

本システムのリモコンを使ってテレビやビデオデッキを操作することができます。
テレビは、日本ビクターを含め国内10社の製品を操作できます。
ビデオデッキは日本ビクターの製品に限り操作できます。

テレビのメーカーコードを設定する

テレビを操作するときは、あらかじめテレビのメーカーコードを設定する必要があります。

1 テレビコントロールボタンを押す

2 ⏻/I テレビボタンを押し続ける

- 手順**4**の操作が終わるまで押し続けます。

3 数字ボタンを押してメーカーコード番号(2ケタ)を入力する

- 例：お持ちのテレビが松下製(52)のとき
  5➡2と押します。

メーカーコード表

メーカー名	メーカーコード番号
日本ビクター	51、01
NEC	62
サンヨー	58、59
シャープ	60
ソニー	55
東芝	57
パイオニア	61
日立	56
松下	52、53、04、11
三菱	54

メーカーコードは、改善のため予告なく変更することがあります。

4 ■(停止)ボタンを押す

5 ⏻/I テレビボタンから指を離す

6 ⏻/I テレビボタンを押してテレビを操作してみる

テレビの電源が「入」⟷「切」できたら設定は終了です。
うまく機能しないときは、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定をやり直してください。

テレビやビデオデッキを操作する

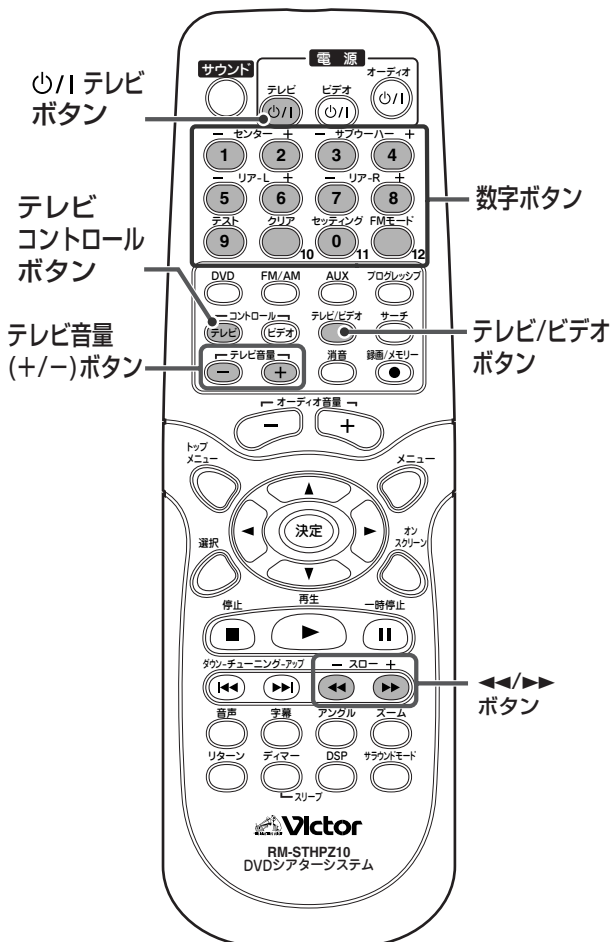
テレビの操作に使うボタン

テレビコントロールボタンを押したあとで、次の操作ができます。

⏻/I テレビボタン	:テレビの電源を「入」⟷「切」します。
テレビ音量(+、−)ボタン	:テレビの音量を調節します。
数字ボタン	:テレビの受信チャンネルを変更します。
テレビ/ビデオボタン	:テレビの外部入力を切り換えます。
◀◀ /▶▶ ボタン	:テレビの受信チャンネルを変更します。

番号の選びかた

- 1～12のいずれかの数字ボタンを押します。

（10～12を選ぶときは、次のボタンを押します。ボタン右下の数字に対応しています）

ビデオデッキの操作に使うボタン

日本ビクター製のビデオデッキには、「A」「B」2種類のリモコンコードを使えるものがあります。本システムのリモコンを使って、ビデオデッキを操作するときは、ビデオデッキのリモコンコードを「A」に設定してください。

ビデオコントロールボタンを押したあとで、次の操作ができます。

⏻/I ビデオボタン	:ビデオデッキの電源を「入」⟷「切」します。
▶ (再生)ボタン	:再生を始めます。
II (一時停止)ボタン	:録画･再生を一時停止します。**▶ (再生)ボタン**を押すと録画･再生を再開します。
I◀◀ ボタン	:テープを巻き戻します。
▶▶I ボタン	:テープを早送りします。
■ (停止)ボタン	:録画･再生を停止します。

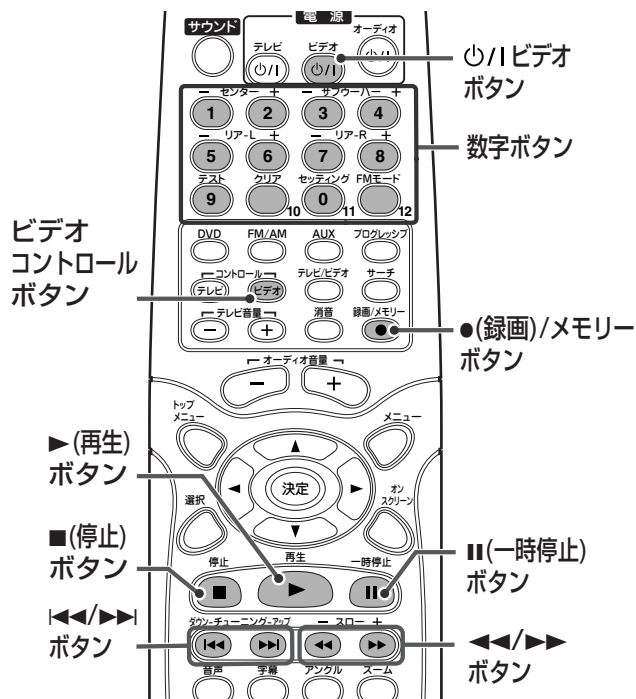
●(録画)/メモリーボタン
:**▶ (再生)ボタン**と一緒に押すと、録画が始まります。
II (一時停止)ボタンと一緒に押すと、録画待機状態になります。そのあと**▶ (再生)ボタン**を押すと録画を開始します。

◀◀ /▶▶ ボタン、数字ボタン
:受信チャンネルを変更します。

番号の選びかた

- 1～12のいずれかの数字ボタンを押します。

（10～12を選ぶときは、次のボタンを押します。ボタン右下の数字に対応しています）

ご注意

テレビやビデオデッキの操作を終了したあとは、必ず**DVDボタン**、または**FM/AMボタン**を押してください。リモコンで本システムが再び操作できるようになります。

音声信号/サラウンド対応表

入力信号/サラウンド対応表 （➡32、33ページ）

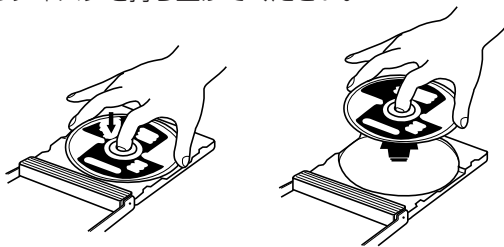
○: 可　×: 不可

	マルチチャンネルサラウンド	プロロジック II		DSP					PLII「切」DSP「切」(サラウンド解除)
		PLII ムービー	PLII ミュージック	LIVE HOUSE	HALL	CONCERT	STADIUM	THEATER	
アナログ	×	○	○	○	○	○	○	○	○
リニアPCM	×	○	○	○	○	○	○	○	○
ドルビーデジタル(マルチチャンネル)	○	×	×	×	×	×	×	×	—
ドルビーデジタル(2チャンネル)	×	○	○	○	○	○	○	○	○
DTSデジタルサラウンド(マルチチャンネル)	○	×	×	×	×	×	×	×	—
DTS(2チャンネル)	×	×	×	×	×	×	×	×	○
MPEG-2 AACサラウンド(マルチチャンネル)	○	×	×	×	×	×	×	×	—
MPEG-2 AAC(2チャンネル)	×	×	×	×	×	×	×	×	○
MP3	×	×	×	×	×	×	×	×	○

ディスクの取り扱いとお手入れ

取り扱い時の注意

ディスクを取り扱うときは、以下のことにご注意ください。正しく取り扱わないと、信号を読み取れなくなったり、ノイズが生じたり、また誤動作の原因となることがあります。

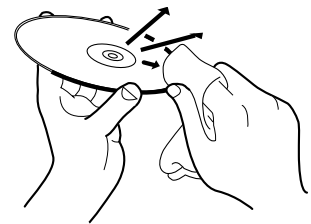
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながらディスクを持ち上げてください。

- ディスクに傷をつけないでください。
- ディスクの信号面（鏡面）を汚したり、ラベル面に紙やセロハンテープなどを張らないでください。
- ディスクを反らせないでください。

ディスクの保管

使用するディスクは、ほこり、傷、変形などを防ぐため、必ず専用のケースの中に入れて保管し、次のようなところには絶対に置かないでください。

- 直射日光の当たるところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 暖房器のそばや車の中など

ディスクのクリーニング

- ディスクの信号面についたほこりや指紋は、柔らかい乾いた布でディスクの中心から外に向かって軽く拭いてください。ディスクの円周方向には拭かないでください。

- レコードクリーナーやレコードスプレー、シンナーおよびベンジンなどの溶剤を、ディスクのクリーニングには使用しないでください。

お知らせ

- ハートや花などの形をしたシェイプCD（特殊形状のCD）は、絶対に使用しないでください。本体の故障の原因となります。
- ディスク·スタビライザーは使用しないでください。

故障かな?と思う前に

故障かな？と思ったら、修理に出す前に以下の点検をしてください。下記の項目に当てはまらないときは、本システム以外の原因も考えられます。接続している機器なども併せてお調べください。なお、下記の項目をチェックしても直らないときは、「保証とアフターサービス」(➡ 75 ページ)をお読みの上、修理を依頼してください。

電源について

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。	電源コードがコンセントから抜けている。	電源プラグをしっかりと差し込む。
再生中に電源が「**切**」になる。	おやすみタイマーが設定されている。	おやすみタイマーを解除する。(➡ 29 ページ)
システムが正しく働かない。		電源を「切」にして、電源プラグをコンセントからいったん抜き、差し込み直して電源を入れ直す。

リモコン操作について

症　状	原　因	処　置
リモコンが働かない。	センターユニットから離れすぎている。	リモコン受光部に向けて約5m以内で障害物を避けて送信する。
	電池が消耗している。	電池を交換する。(➡ 21 ページ)
	電池の極性(⊕、⊖)が違う。	電池を正しく入れ直す。(➡ 21 ページ)
	リモコン受光部に日光が直接当たっている。	直射日光をさえぎる。
	リモコンがテレビ操作モードやビデオデッキ操作モードになっている。	**DVDボタン**、**FM/AMボタン**、**AUXボタン**のいずれかを押して、テレビ操作モードやビデオデッキ操作モードを解除する。(➡ 71 ページ)
リモコンでテレビやビデオデッキが操作できない。	入力したメーカーのコード番号が間違っている。	正しいコード番号を入力し直す。(➡ 70 ページ)
	リモコンがテレビ操作モードになっていない。	**テレビコントロールボタン**を押して、テレビ操作モードにする。(➡ 71 ページ)
	リモコンがビデオデッキ操作モードになっていない。	**ビデオコントロールボタン**を押して、ビデオデッキ操作モードにする。(➡ 71 ページ)
	ビデオデッキが日本ビクター製ではない。	本システムのリモコンで操作できるのは、リモコンコードが「A」に設定されている日本ビクター製のビデオデッキです。

音声について

症　状	原　因	処　置
音が出ない。	スピーカーコードが接続されていない。	正しく接続する。
	スピーカーコードがショート(短絡)している。	正しく接続し、センターユニットの電源を入れ直す。
	オーディオコードを正しく接続していない。	正しく接続する。
	間違ったソースが選ばれている。	正しいソースを選ぶ。
	消音機能が働いている。	**消音**ボタンを押して消音機能を解除する。(➡ 29 ページ)
	ディスクが汚れている。	ディスクをクリーニングする。(➡ 72 ページ)
片方のスピーカーからしか音が出ない。	スピーカーコードを正しく接続していない。	正しく接続する。
音がひずむ。	ディスクが汚れている。	ディスクをクリーニングする。(➡ 72 ページ)

映像について

症　状	原　因	処　置
映像が出ない。	ビデオコードを正しく接続していない。	正しく接続する。
	間違ったソースが選ばれている。	正しいソースを選ぶ。
	テレビの入力選択が間違っている。	正しい入力を選ぶ。
	プログレッシブ非対応のテレビを接続しているが、本システムのスキャンモードがプログレッシブスキャンモードに設定されている。	本システムのスキャンモードをインターレーススキャンモードに設定する。(➡ 30 ページ)
映像がひずむ。	ディスクが汚れている。	ディスクをクリーニングする。(➡ 72 ページ)
	センターユニットとテレビの間にビデオデッキを接続している。	センターユニットとテレビを直接接続する。
動画にノイズが出る。	ピクチャ(画像設定)のポーズ/スチルが「オート」に設定されているとき、ディスクによっては画像ノイズが発生することがある。	ピクチャ(画像設定)のポーズ/スチルの設定を「オート」から「フィールド」に変更する。(➡ 30 65 ページ)

故障かな?と思う前に(つづき)

DVDビデオについて

症　状	原　因	処　置
テレビ画面に「リージョンエラー」と表示される。	本システムとディスクのリージョンコード(再生可能地域番号)が異なっている。	ディスクを取り換える。
再生ができない。 (センターユニットの表示窓に「ERROR」と表示されて、再生が始まらない。	ディスクが正しくセットされていない。	ディスクを正しくセットする。
	本システムで再生できないディスクを再生しようとしている。	ディスクを確認する。(➡ 9 10 ページ)
	暖房を始めた直後や、寒いところから急に暖かいところへ移動したことによってセンターユニットの内部に水滴がついている。	電源を入れたままラジオなどを聞き、1〜2時間してからディスクを入れる。
ディスクを再生するとパスワード画面が表示される。	パレンタルロックが設定されている。	パレンタルロックの設定を変更する。(➡ 68 69 ページ)
音声言語/字幕言語が切り換えられない。	再生中のディスクに複数の言語が収録されていない。	複数の言語が収録されているディスクに換える。
	再生中のディスクに字幕が収録されていない。	字幕が収録されているディスクに換える。
字幕が出ない。	「字幕言語」の設定が「字幕なし」になっている。	「字幕言語」を正しく設定する。(➡ 38 ページ)
アングルが切り換えられない。	再生中のディスクに複数のアングル(マルチアングル)が収録されていない。	複数のアングル(マルチアングル)が収録されているディスクに換える。

ビデオCDやCDについて

症　状	原　因	処　置
再生ができない。 (センターユニットの表示窓に「ERROR」と表示されて、再生が始まらない。)	ディスクが正しくセットされていない。	ディスクを正しくセットする。
	本システムで再生できないディスクがディスクトレイに入っている。	ディスクを確認する。(➡ 9 10 ページ)
正しく動作しない。	暖房を始めた直後や、寒いところから急に暖かいところへ移動したことによってセンターユニットの内部に水滴がついている。	電源を入れたままラジオなどを聞き、1〜2時間してからディスクを入れる。

MP3ディスクやJPEGディスクについて

症　状	原　因	処　置
再生ができない。 (センターユニットの表示窓に「ERROR」と表示されて、再生が始まらない。)	ディスクが正しくセットされていない。	ディスクを正しくセットする。
	本システムで再生できないディスクがディスクトレイに入っている。	ディスクを確認する。(➡ 9 10 ページ)
再生されないファイルがある。	MP3ファイルやJPEGファイルのファイル名が正しくない(拡張子がないなど)ファイルがディスクに入っている。	ディスクを確認し、正しいファイル名に直す。(➡ 54 57 ページ)
正しく動作しない。	暖房を始めた直後や、寒いところから急に暖かいところへ移動したことによってセンターユニットの内部に水滴がついている。	電源を入れたままラジオなどを聞き、1〜2時間してからディスクを入れる。

ラジオについて

症　状	原　因	処　置
FM/AM放送を受信中に連続的に雑音が入る、または受信できない。	受信している電波が弱すぎる。	FM屋外アンテナを接続するか、お買い上げの販売店に問い合わせる。
	放送局が遠い。	別の放送局を選ぶ。
	アンテナが正しく接続されていない。	正しく接続する。

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は、お買い上げの販売店よりお受け取りください。「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、記載内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げの日から１年間

補修用性能部品の最低保有期間

この機器の補修用性能部品の
最低保有期間は、製造打切り後８年です。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談やご不明な点は、**お買い上げの販売店**にご相談ください。

修理を依頼されるときは　出張修理

73 ページの「故障かな？と思う前に」に従ってお調べください。それでもなお異常のあるときは、使用を中止し、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。このとき不具合の発生したディスクも一緒にご用意ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品名	DVDデジタルシアターシステム
型名	TH-PZ10
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印等も併せてお知らせください
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	

便利メモ	お買い上げ店名	☎（　　）　-

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、お客様のご要望により有料で修理させていただきます。

修理料金の仕組み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、測定機器等設備費、故障診断、修理および部品交換、調整、点検にかかる費用です。

＋

部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

＋

出張料	製品のある場所へ技術者を派遣するための費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

■ この製品の製造時期は本体の背面に表示されております。

お願い

- 本機の故障または不具合等によりディスクの再生などにおいて、利用の機会を逸したため発生した損害等の補償については、ご容赦ください。

ビクターサービス窓口案内(ビクターサービスエンジニアリング株式会社)

ビクター製品のアフターサービスはお買い上げの販売店へご相談ください

ご転居等で保証書記載のお買い上げ販売店にアフターサービスをご依頼になれない場合は、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

都府県名	窓口名	TEL	〒	所在地
		北海道		
北海道	札幌 S.C.	(011)898-1180	004-0005	札幌市厚別区厚別東5条1-2-29
	旭川 S.C.	(0166)61-3659	070-8012	旭川市神居二条3-2-15
	北見 S.S.	(0157)25-8557	090-0037	北見市山下町4-7-19
	釧路 S.S.	(0154)24-0797	085-0005	釧路市松浦町3番3号
	帯広 S.S.	(0155)24-4493	080-0806	帯広市東六条南12-11
	函館 S.S.	(0138)52-5324	040-0001	函館市五稜郭町4-16函館五稜郭MFビル1F
		東北		
青森	青森 S.C.	(017)723-2261	030-0844	青森市桂木4-6-17
	八戸 S.S.	(0178)44-4521	031-0803	八戸市諏訪2-2-36
	弘前 S.S.	(0172)28-0165	036-8084	弘前市高田1-13-1
岩手	盛岡 S.C.	(019)673-0121	020-0835	盛岡市津志田9地割24-1
	水沢 S.S.	(0197)22-2773	023-0815	水沢市天文台通り3-12
秋田	秋田 S.C.	(018)824-3189	010-0953	秋田市山王中園町4-1
	大館 S.S.	(0186)43-0980	017-0874	大館市美園町5-6
	横手 S.S.	(0182)32-8873	013-0064	横手市赤坂字大道向3-6
宮城	仙台 S.C.	(022)287-0151	984-0011	仙台市若林区六丁の目西町7-13
	石巻 S.S.	(0225)94-7711	986-0853	石巻市門脇字四番谷地8-18
山形	山形 S.C.	(023)642-0279	990-2412	山形市松山3-12-18
	酒田 S.S.	(0234)26-7145	998-0842	酒田市亀ヶ崎6-6-1
福島	郡山 S.C.	(024)952-6331	963-0205	郡山市堤1-3
	いわき S.S.	(0246)27-7991	973-8409	いわき市内郷御台境町鶴巻6-1
	会津若松 S.S.	(0242)38-1355	965-0831	会津若松市表町1-44ハイツシンフォニー101
	福島 S.S.	(024)553-9437	960-0103	福島市本内字南原26-1
		関東・甲信越		
新潟	新潟 S.C.	(025)242-3431	950-0084	新潟市明石1-2-19
	長岡 S.S.	(0258)24-8391	940-0012	長岡市下下条2-1366-1
	上越 S.S.	(025)545-1734	942-0081	上越市五智1-11
長野	長野 S.C.	(026)221-6583	380-0913	長野市川合新田962-1
	松本 S.S.	(0263)25-9165	390-0828	松本市庄内2-4-21
群馬	前橋 S.C.	(027)255-5921	371-8543	前橋市大渡町1-10-1 日本ビクター(株)前橋工場
栃木	宇都宮 S.C.	(028)638-1639	321-0953	宇都宮市東宿郷3-5-22
茨城	水戸 S.C.	(029)246-1560	310-8528	水戸市元吉田町1030 日本ビクター(株)水戸工場技術棟1F
	土浦 S.S.	(029)821-8756	300-0813	土浦市富士崎1-10-1
山梨	甲府 S.S.	(055)237-4016	400-0864	甲府市湯田2-11-5
千葉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	千葉 S.C.	(043)246-2588	261-0001	千葉市美浜区幸町2-1-1
	柏 S.C.	(04)7175-4322	277-0863	柏市豊四季512-10-67
	浦安 S.S.	(047)353-6189	279-0001	浦安市当代島2-13-27
東京	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	本郷 S.C.	(03)5684-8254	113-0033	文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル1F
	秋葉原 S.S.	(03)3251-2128	101-0021	千代田区外神田1-6-6
	練馬 S.C.	(03)3993-7520	176-0014	練馬区豊玉南1-19-1
	大田 S.C.	(03)3727-9385	145-0062	大田区北千束2-20-6
	八王子 S.C.	(0426)46-6914	192-0045	八王子市大和田町2-9-6
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	CSセンター	(03)3874-5231	110-0003	台東区根岸5-4-3
埼玉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大宮 S.C.	(048)654-5241	331-0814	さいたま市北区東大成町2-658-1
	熊谷 S.S.	(048)553-5105	361-0057	行田市城西2-7-39ツインハイツ石山B
神奈川	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	横浜 S.C.	(045)651-0403	231-0028	横浜市中区翁町1-3-1
	川崎 S.C.	(044)975-1879	216-0024	川崎市宮前区南平台3-2(第2石原ビル)
	平塚 S.C.	(0463)36-2160	254-0065	平塚市南原2-4-5
	相模原 S.C.	(042)776-2052	229-0004	相模原市古淵3-7-4
	横浜 T.C.	(046)234-4500	243-0401	海老名市東柏ヶ谷6-19-26
		東海・北陸		
静岡	静岡 S.C.	(054)282-4141	422-8043	静岡市中田本町62-31中田ビル1F
	沼津 S.S.	(055)922-1557	410-0041	沼津市筒井町6-5
	浜松 S.S.	(053)421-3441	435-0041	浜松市北島町785
愛知	名古屋 S.C.	(0568)25-3235	481-0041	西春日井郡西春町九之坪鴨田121-1
	三河 S.C.	(0564)51-5931	444-0833	岡崎市柱曙3-10-12
	豊橋 S.S.	(0532)64-0815	440-0028	豊橋市多米東町1-1-1
岐阜	岐阜 S.S.	(058)274-1947	500-8367	岐阜市宇佐南3-1-28
三重	三重 S.S.	(0593)52-0841	510-0076	四日市市堀木2-15-2
	津 S.S.	(059)229-7780	514-0815	津市大字藤方485-18
富山	富山 S.C.	(076)425-2397	939-8211	富山市二口町四丁目1-3
石川	金沢 S.C.	(076)269-4821	921-8062	金沢市新保本四丁目65-17
福井	福井 S.S.	(0776)53-6916	910-0843	福井市西開発3-211

都府県名	窓口名	TEL	〒	所在地
		近畿		
滋賀	滋賀 S.S.	(077)582-5812	524-0033	守山市浮気町268
京都	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	京都 S.C.	(075)644-0247	612-8401	京都市伏見区深草下川原町31-1
京都北部	福知山 S.S.	(0773)22-8664	620-0059	福知山市厚東町145-2
大阪	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	奈良 S.C.	(0744)24-6271	634-0007	橿原市葛本町834-2
	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	堺 S.C.	(072)254-2881	591-8032	堺市百舌鳥梅町3丁目21-2 伊助ハイツ
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	大阪メンテナンスセンター	(06)6304-6715	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
和歌山	和歌山 S.S.	(073)472-6799	640-8323	和歌山市太田430-8
	田辺 S.S.	(0739)22-9976	646-0031	田辺市湊1581-12
兵庫中東部	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	神戸 S.C.	(078)252-0562	651-0086	神戸市中央区磯上通3-2-16
兵庫西部	姫路 S.S.	(0792)34-3833	670-0975	姫路市中地南町11-1
		中国		
岡山	岡山 S.C.	(086)243-1566	700-0926	岡山市西古松西町8-23
広島	広島 S.C.	(082)243-9839	730-0825	広島市中区光南3-9-17
	福山 S.S.	(084)931-6984	721-0973	福山市南蔵王町3-5-15
山口	山口 S.C.	(083)973-3708	754-0022	吉敷郡小郡町花園町5-28
	徳山 S.S.	(0834)27-1331	745-0042	周南市野上町2-35
	下関 S.S.	(0832)51-1040	751-0852	下関市熊野町2-14-23
島根	山陰ビクター販売(株) 松江 S.C.	(0852)31-8900	690-0825	松江市学園1-16-39
鳥取	山陰ビクター販売(株) 鳥取 S.S.	(0857)23-2151	680-0911	鳥取市千代水1丁目22-1
		四国		
香川	高松 S.C.	(087)866-1200	761-8057	高松市田村町205-1
徳島	徳島 S.C.	(088)622-7387	770-8052	徳島市沖浜2-37
高知	高知 S.S.	(088)882-0546	780-8122	高知市高須新町4-143
愛媛	松山 S.C.	(089)923-0372	791-8015	松山市中央1-4-12
	宇和島 S.S.	(0895)20-1018	798-0087	宇和島市坂下津甲407-40
		九州・沖縄		
福岡佐賀	福岡 S.C.	(092)431-1261	812-0011	福岡市博多区博多駅前4-16-1
	久留米 S.S.	(0942)39-3495	830-0038	久留米市西町字神浦1-1192
	北九州 S.C.	(093)921-3981	802-0064	北九州市小倉北区片野2-15-12
長崎	長崎 S.C.	(095)862-5522	852-8021	長崎市城山町9-13
	佐世保 S.S.	(0956)33-5568	857-1166	佐世保市木風町1467-2
大分	大分 S.C.	(097)543-1422	870-0822	大分市大道町4-1-2
熊本	熊本 S.C.	(096)353-4536	861-4101	熊本市近見町8-1-10
宮崎	宮崎 S.S.	(0985)24-5401	880-0032	宮崎市霧島町3-59
	延岡 S.S.	(0982)35-7077	882-0857	延岡市惣領町24-3
鹿児島	鹿児島 S.C.	(099)282-8818	890-0034	鹿児島市田上七丁目9-8
沖縄	沖縄 S.C.	(098)898-3631	901-2224	沖縄県宜野湾市真志喜1-13-16

所在地、電話番号が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。　0703

●略号について　S.C.はサービスセンターの略称です。
S.S.はサービスステーションの略称です。
T.C.はテクニカルセンターの略称です。

主な仕様

センターユニット(XV-THPZ10)

再生可能ディスク　DVDビデオ、DVD-R(ビデオフォーマット)、スーパービデオCD、ビデオCD、オーディオCD、CD-R/RW(オーディオCD、ビデオCD、MP3ディスク、JPEGディスク)
映像信号方式　JEITA標準、NTSCカラーテレビジョン方式

【映像特性】
水平解像度　480本以上
S/N比　68 dB
　出力レベル/インピーダンス
映像(コンポジット)出力　1.0 V(p-p)/75 Ω、同期負
S1映像出力　Y出力　:1.0 V(p-p)　/75 Ω、同期負
　C出力　:0.286 V(p-p)/75Ω
D1/D2映像出力　Y出力　:1.0 V(p-p)/75 Ω
　CB/CR出力　:0.7 V(p-p)/75 Ω

【オーディオ特性】
全高調波ひずみ率　0.02%(JEITA)
　入力感度/インピーダンス
アナログ音声入力　AUX IN　:500 mV/47 kΩ
デジタル音声入力　OPTICAL DIGITAL IN　:−21 dBm ～ −15 dBm
デジタル音声出力　OPTICAL DIGITAL OUT:−21 dBm ～ −15 dBm

【アンプ部】
実用最大出力　フロント　:30 W+30 W(10% THD)
　センター　:30 W(10% THD)
　リア　:30 W+30 W(10% THD)
　サブウーハー:60 W(10% THD)
出力端子(適合インピーダンス)　フロント×2:(6 Ω～8 Ω)
　センター×1:(6 Ω～8 Ω)
　リア×2　:(6 Ω～8 Ω)
　サブウーハー×1:(4 Ω)

【FMチューナー部】
受信周波数　76.00 MHz～108.00 MHz
アンテナ　75 Ω不平衡型

【AMチューナー部】
受信周波数　531 kHz～1,629 kHz
アンテナ　外部アンテナ端子(ループアンテナ)

【その他】
スリープタイマー　10、20、30、60、90、120、150分
電　源　AC 100 V、50 Hz/60 Hz共用
消費電力　電源「入」時150 W
　電源「切(待機)」時　2 W
最大外形寸法(幅×高さ×奥行)　360 mm×65 mm×360 mm
質　量　5.7 kg

サブウーハー(SP-WPZ10)

形　式　バスレフ型・防磁形 (JEITA)
使用スピーカー　16 cm　コーン型×1
最大入力　60 W(JIS)
定格インピーダンス　4 Ω
再生周波数帯域　25 Hz～200 Hz
最大外形寸法(幅×高さ×奥行)　202 mm×330 mm×341 mm
質　量　4.8 kg

サテライトスピーカー(SP-THPZ10F)…1本当たり

形　式　バスレフ型・防磁形 (JEITA)
使用スピーカー　8 cm　コーン型×1
最大入力　30 W(JIS)
定格インピーダンス　6 Ω
再生周波数帯域　90Hz～20 kHz
最大外形寸法(幅×高さ×奥行)　92 mm×97.5 mm×92 mm
質　量　540 g

- 付属品は8ページをご覧ください。
- 本システムの仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。
- JEITAは、電子情報技術産業協会の規格による測定値です。

本システム後面のデジタル音声出力端子—OPTICAL(オプティカル) DIGITAL(デジタル) OUT(アウト)—から出力される信号は、入力される信号と本システムの「音声出力設定」により次のように変わります。(➡ 66 ページ)

再生する信号 ＼ デジタル出力		ストリーム	PCM
		DIGITAL OUT(OPTICAL)端子から出力される信号	
DVD	48 kHz、リニアPCM	48 kHz、リニアPCM	48 kHz、リニアPCM
	96 kHz、リニアPCM	48 kHz、リニアPCM	48 kHz、リニアPCM
	128 kHz、リニアPCM	48 kHz、リニアPCM	48 kHz、リニアPCM
	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル・ビットストリーム	ダウンミックス (2ch)
	DTSデジタルサラウンド	DTSビットストリーム	ダウンミックス (2ch)
ビデオCD/オーディオCD	44.1 kHz、16ビットリニアPCM	44.1 kHz、16ビットリニアPCM	44.1 kHz、16ビットリニアPCM
DTS CD	DTSデジタルサラウンド	DTSビットストリーム	ダウンミックス (2ch)
MP3	MPEG-1 Layer-3	出力なし	出力なし
JPEG	静止画像	出力なし	出力なし

用語解説

アルファベット

D 映像端子
コンポーネント映像を1本のコードで接続できる端子です。
本システムは、インターレース(525i)が扱えるD1映像とプログレッシブ(525p)も扱えるD2映像に対応しています。

あ

アスペクト比
表示される映像の縦横比のことです。通常のテレビの横:縦の比は4:3、ワイドテレビおよびHDテレビの横:縦は16:9の比率をもっています。

インターレーススキャン（飛び越し走査）
従来のテレビで用いられている方式で、それぞれのフレーム情報を半分に「間引き」して1つのフィールド情報とし、連続した2つのフィールドを使って1つの画面(フレーム)を作る方法です。

か

カーソル
オンスクリーンメニューや初期設定メニューなどの設定を変更するポイントのことをいい、リモコンの**カーソルボタン(▲/▼/◄/►)**を使ってポイントを移動させます。

片面ディスク
DVDディスクのうち、信号読み出し面が片面のみのものをいいます。片面1層と片面2層があります。

コンポジット
輝度信号と色信号を周波数多重技術で複合した映像信号と、色の基準となるバースト信号、同期信号を組み合わせた複合映像信号のことです。

コンポーネント
光の3原色からなる映像信号を再現するために必要な情報の一部を、各々別の信号線で伝送するビデオ信号方式のことです。R/G/BやY/C_B/C_Rなどの信号形式があります。

さ

サラウンド
視聴者の周囲にスピーカーを複数配置し、臨場感あふれる立体音場を作りだすシステムをいいます。

サンプリング周波数
アナログ信号からデジタル信号に変換する際の標本化周波数のことです。1秒間に何回の割合で、もとのアナログ信号を標本化し、デジタル信号に変換するかを数値で表したものです。

色差信号
R/G/Bのそれぞれの信号から輝度信号(Y信号)を引いた信号で、色相と色の濃さを表す信号をいいます。

ストリーム（ビットストリーム）
各種エンコード作業によって作成されたデジタルデータをさします。

た

ダウンミックス
サラウンド方式(3ch以上)で記録されたマルチチャンネル音声トラックを、ステレオ2ch音声に変換して再生する機能をいいます。
一般には、信号チャンネル数よりも、スピーカーの数が少ないときに行なわれるミキシングのことです。

チャプター
タイトル内の各章のことです。

ディスクメニュー
DVDビデオに複数記録されたタイトルの映像や音声、字幕、マルチアングル等を選ぶために用意された画面をいいます。

ドルビーデジタル
家庭用デジタルサラウンド方式として開発されたドルビーデジタル(AC-3)方式のことをいいます。フロント3ch、リア2chおよびサブウーハー0.1chで構成される5.1chが特長です。

は

パレンタルロック
映像および音声の内容が視聴者に対して適切なものかどうか(たとえば教育上好ましくないシーンなど)を、あらかじめソフトに設定されたパレンタルレベルと、本システムに視聴者が設定した再生可能パレンタルレベルの上限とを照らし合わせ、本システムが自動的に判断し再生する機能です。

プレイバックコントロール（PBC）
ビデオCD(バージョン2.0)に記録されている、再生をコントロールするための信号です。PBC対応ビデオCDに記録されているメニュー画面を使って、対話型のソフトや検索機能を持ったソフトなどが楽しめます。

プログレッシブスキャン（順次走査）
すべてのフレーム情報を1つのフィールドで映し出します。したがって映像情報が従来方式に比べて倍になり、チラツキの少ない高密度の画像になります。

マルチアングル
一つのタイトルの中に、同一時間で進行する複数の場面を収録し、これをユーザーの操作により切り換えて視聴できるようにした機能です。

マルチチャンネル
DVDビデオでは、一本の音声トラックで一つの音場を構成するように定められていますが、このうち3つ以上のチャンネルをもった音声トラックの構成をいいます。

リージョンコード（再生可能地域番号）
DVDビデオの再生可能地域を限定するコードです。DVDビデオとDVDプレーヤーの両方のリージョンコードが一致しないと再生できません。本システムのリージョンコードは「2」ですので、ディスク上に「2」という番号が含まれているディスクに限り再生することができます。

リニア PCM 音声
アナログ音声信号をデジタル信号に変換して扱う方式の一つで、変換に際して圧縮をまったくしない方式のことです。

両面ディスク
DVDディスクのうち、信号読み出し面が両側のものです。反対の面を再生するには、ディスクを裏返す必要があります。

レターボックス
4:3テレビに映画などの横長の画像を欠けることなく映し出すために画面の上下に黒などの帯を付け、画面中央部にこの横長画像を映し出す手法です。
画面が文字通り郵便受けに似ていることから名付けられたものです。

用語索引

別売りのオプション品

- 光デジタルケーブル：XN-110SA
- オーディオコード（RCAピンプラグコード）：CN-510E
- ビデオコード（映像接続用コード）：VX-110E
- Sビデオコード：VC-S110E
- D端子コード：VX-DS210（Dプラグ～ピンプラグ×3）
  ：VX-DS110（Dプラグ～Dプラグ）
- TVサイドスタンド：LS-SP101VJ（フロント用）
- サテライトスピーカースタンドシステム：LS-SP101FJ

別売りのオプション品は、お買い上げの販売店でお求めください。
（品番は変更されることがあります）

ご相談や修理は

ビクター製品についてのご相談や修理のご依頼は、お買い上げの販売店にご相談ください。

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記の相談窓口にご相談ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談 **ビクターサービスエンジニアリング株式会社**	お買い物相談や製品についての全般的なご相談 **お客様ご相談センター**
76 ページの「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。	フリーダイヤル 0120－2828－17 携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は 東京 ☎(03) 5684-9311 FAX(03) 5684-9317 〒113-0033 東京都文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル 大阪 ☎(06) 6765-4161 FAX(06) 6765-4891 〒550-0013 大阪市西区新町3-1-31 新町レナウンビル

ビクターインターネットホームページアドレス　http://www.jvc-victor.co.jp/

日本ビクター株式会社
AV＆マルチメディアカンパニー
〒221-8528 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

0503TMMMDWBET